

平成22年度
羽村市市政世論調査
報告書

平成22年8月
羽村市

はじめに

羽村市では、平成24年度からの新たなまちづくりの指針となる第五次羽村市長期総合計画の策定に先立ち、市民の皆様から市政についてのご意見、ご要望を伺って計画に反映させるため、このたび市政世論調査を実施いたしました。

この調査では、市の施策に対する満足度や重要度をはじめ、地域社会、環境、高齢者福祉、防災・防犯対策、男女共同参画などの各種個別施策についてご意見を伺いましたが、ここで得られました貴重な資料は、今後の長期総合計画の策定に反映させてまいりたいと存じます。

なお、調査にご協力いただきました市民の皆様には、深く感謝申し上げますとともに、今後とも市政運営に対し、ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成 22 年 8 月

羽村市長 並 木 心

目 次

I	調査の概要	1
1.	調査実施の目的	3
2.	調査方法	3
3.	調査項目	3
4.	地区・ブロックと回収状況	4
5.	調査結果を見る上での注意事項	5
II	調査回答者の属性	7
III	調査結果の詳細	13
1.	定住性と住みよさ	15
(1)	住みよさ	15
(2)	住みよい理由	19
(3)	住みにくい理由	21
(4)	定住意向	22
2.	市の施策に対する満足度・重要度	28
(1)	市の施策に対する満足度	28
(2)	市の施策に対する重要度	45
3.	羽村市の魅力・羽村らしさ	62
(1)	魅力や羽村らしさを感じる市の施設や行事	62
(2)	希望する将来の市のまちづくり	65
4.	市政への関心度	68
(1)	市政への関心度	68
(2)	力を入れてほしい、新たに取り組んでもらいたい施策	70
(3)	市政への参加・協働意向	74
5.	地域社会	76
(1)	町内会・自治会の必要性、活動への参加についての考え	76
(2)	町内会や自治会があった方がよい理由	80
(3)	町内会や自治会の加入を促進するための方法	82
(4)	町内会や自治会が必要でない理由	85
6.	環境	86
(1)	環境への取り組みとして重点をおくべきもの	86
7.	高齢者福祉	88
(1)	市に力を入れてほしい高齢者福祉施策	88
(2)	老後の暮らし方	91
8.	障害者福祉	94
(1)	必要な障害者福祉施策	94

9. 防災・防犯対策	96
(1) 防災対策で重点をおいて進めるべきもの	96
(2) 防犯対策で重点をおいて進めるべきもの	98
10. 都市基盤	100
(1) 市の都市基盤整備に望むこと	100
(2) 市の道路整備で優先すべきもの	102
(3) 市の活性化のために必要な施策	104
11. 市営霊園	106
(1) 市営霊園の使用希望	106
(2) 希望する墓地形態	108
12. 水道事業	109
(1) 市水道事業の水源の周知度	109
(2) 市水道水の印象	111
13. 男女共同参画	113
(1) 各分野における男女平等感	113
(2) 男女共同参画社会を形成するために力を入れていくべきこと	117
14. 男女間における暴力	119
(1) 配偶者からの暴力について相談可能窓口の周知度	119
(2) 知っている相談窓口の種類	121
(3) 男女間の暴力を防止するために必要なこと	123
15. 行政改革	125
(1) 今後の行政改革の進め方に対する考え	125
IV 調査票（質問と回答）	129

I 調査の概要

1. 調査実施の目的

羽村市の今後のまちづくりの指針となる第五次羽村市長期総合計画の策定に先立ち、市民の意見・要望、市政への関心、市政および事業の評価などの市民意識を統計的手法によつて的確に把握することを目的とした。

2. 調査方法

- (1) 調査の地域 : 羽村市全域
- (2) 調査の対象者 : 羽村市在住の満18歳以上の男女個人
- (3) 標本の抽出 : 平成22年5月現在の住民基本台帳から層化二段無作為抽出
- (4) 標本数 : 1,000人
- (5) 調査方法 : 郵送配布一郵送回収(礼状兼督促状1回)
- (6) 調査期間 : 平成22年5月24日(月)～6月7日(月)

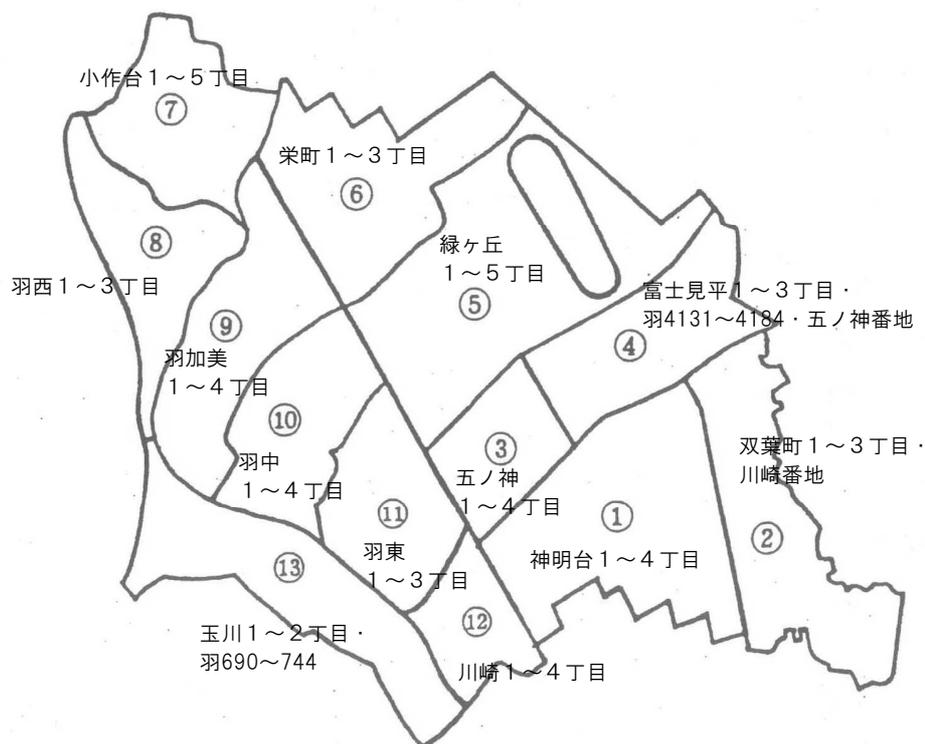
3. 調査項目

- (1) 定住性と住みよさ
- (2) 市の施策に対する満足度・重要度
 - 支えあい いきいきと暮らせるまち
 - 学びあい豊かな心を育むまち
 - 環境にやさしい安心して暮らせるまち
 - 美しく快適な住みよいまち
 - 活力に満ちた にぎわいのあるまち
 - 基本構想を推進するために
- (3) 羽村市の魅力・羽村らしさ
- (4) 市政への関心度
- (5) 地域社会
- (6) 環境
- (7) 高齢者福祉
- (8) 障害者福祉
- (9) 防災・防犯対策
- (10) 都市基盤
- (11) 市営霊園
- (12) 水道事業
- (13) 男女共同参画
- (14) 男女間における暴力
- (15) 行政改革

4. 地区・ブロックと回収状況

地区・ブロック	対象（人）			回収数（人）			回収率（％）		
	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性
① 神明台1～4丁目	151	73	78	65	26	35	43.0	35.6	44.9
② 双葉町1～3丁目・川崎番地	58	28	30	34	16	16	58.6	57.1	53.3
③ 五ノ神1～4丁目	66	33	33	36	14	22	54.5	42.4	66.7
④ 富士見平1～3丁目・ 羽4131～4184・五ノ神番地	86	42	44	47	23	23	54.7	54.8	52.3
⑤ 緑ヶ丘1～5丁目	113	56	57	60	29	31	53.1	51.8	54.4
⑥ 栄町1～3丁目	87	44	43	48	22	26	55.2	50.0	60.5
⑦ 小作台1～5丁目	102	54	48	49	20	29	48.0	37.0	60.4
⑧ 羽西1～3丁目	47	25	22	22	6	15	46.8	24.0	68.2
⑨ 羽加美1～4丁目	69	34	35	42	16	25	60.9	47.1	71.4
⑩ 羽中1～4丁目	66	33	33	44	22	21	66.7	66.7	63.6
⑪ 羽東1～3丁目	72	35	37	40	16	23	55.6	45.7	62.2
⑫ 川崎1～4丁目	47	23	24	25	12	13	53.2	52.2	54.2
⑬ 玉川1～2丁目・羽690～744	36	20	16	23	13	10	63.9	65.0	62.5
全体	1,000	500	500	541	238	291	54.1	47.6	58.2

※「計」および「全体」の数値には「ブロック」および「性別」の無回答を含むため、各項目を足し上げた数値と一致しない場合がある。



5. 調査結果を見る上での注意事項

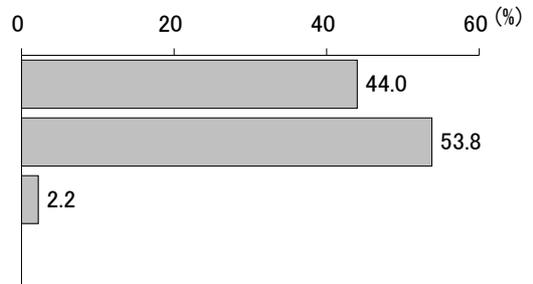
- ・表、グラフ中の「n」は、各設問に対する回答者数を示している。
- ・百分率（%）の計算は、「n」を分母とし、小数第2位を四捨五入して表示している。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、百分率を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、百分率の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフ中は、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が10未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ・経年比較の図は今回調査から郵送回収となったため、「無回答」を表示している。

II 調査回答者の属性

Ⅱ 調査回答者の属性

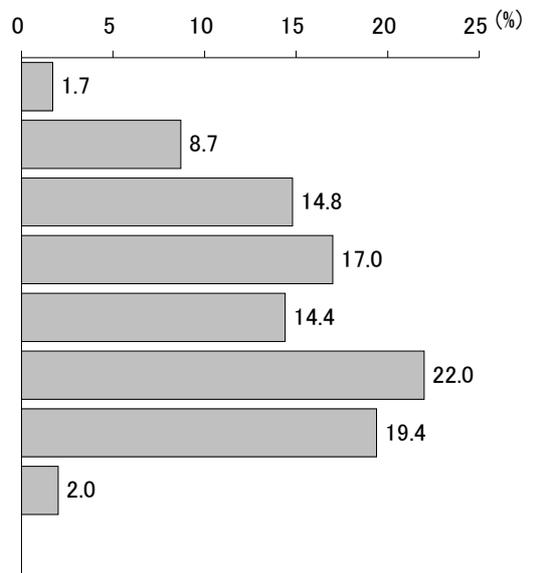
性別

	基数	構成比
男	238	44.0%
女	291	53.8%
無回答	12	2.2%
全体	541	100.0%



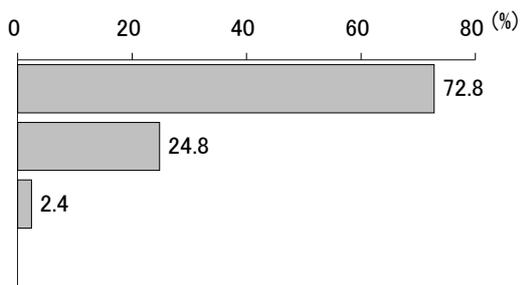
年齢

	基数	構成比
18～19歳	9	1.7%
20～29歳	47	8.7%
30～39歳	80	14.8%
40～49歳	92	17.0%
50～59歳	78	14.4%
60～69歳	119	22.0%
70歳以上	105	19.4%
無回答	11	2.0%
全体	541	100.0%



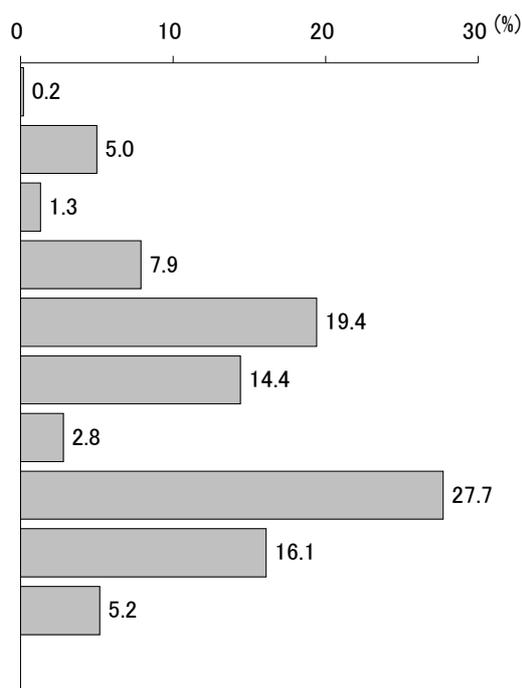
未既婚

	基数	構成比
結婚している	394	72.8%
結婚していない	134	24.8%
無回答	13	2.4%
全体	541	100.0%



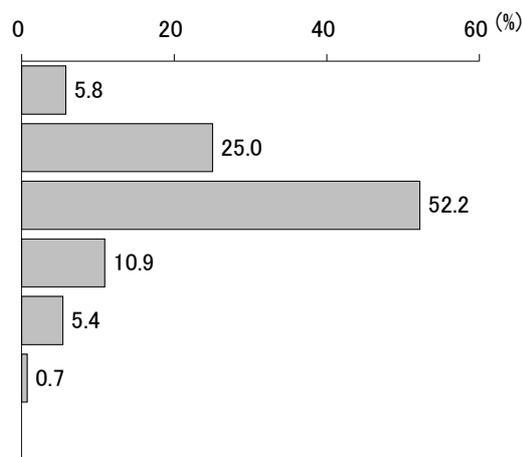
職業

	基数	構成比
農林漁業	1	0.2%
商工サービス業(工場、商店などの個人経営)	27	5.0%
自由業(開業医、弁護士、作家、僧侶、塾の経営者など)	7	1.3%
管理職(会社、官公庁、団体の課長以上)	43	7.9%
事務職・専門技術職(事務員、教員、研究員、病院勤務医師など)	105	19.4%
技能職・労務職(店員、工員、外交員、運転手など)	78	14.4%
学生	15	2.8%
主婦	150	27.7%
その他の無職	87	16.1%
無回答	28	5.2%
全体	541	100.0%



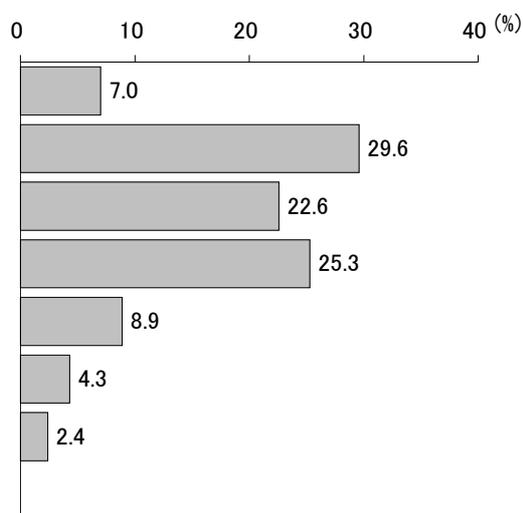
通勤地・通学地

	基数	構成比
自宅	16	5.8%
羽村市内	69	25.0%
都内市町村	144	52.2%
都内23区内	30	10.9%
他県	15	5.4%
無回答	2	0.7%
全体	276	100.0%



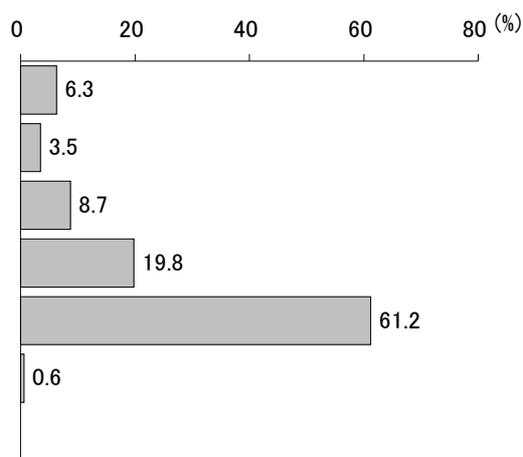
家族構成

	基数	構成比
1人	38	7.0%
2人	160	29.6%
3人	122	22.6%
4人	137	25.3%
5人	48	8.9%
6人以上	23	4.3%
無回答	13	2.4%
全体	541	100.0%



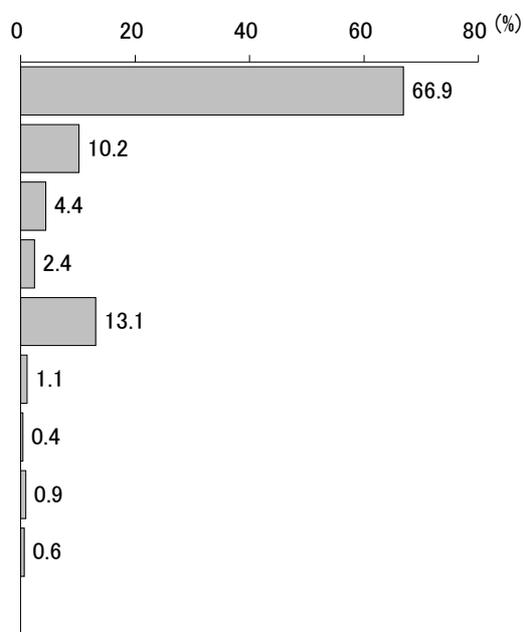
居住年数

	基数	構成比
3年未満	34	6.3%
3年以上5年未満	19	3.5%
5年以上10年未満	47	8.7%
10年以上20年未満	107	19.8%
20年以上	331	61.2%
無回答	3	0.6%
全体	541	100.0%



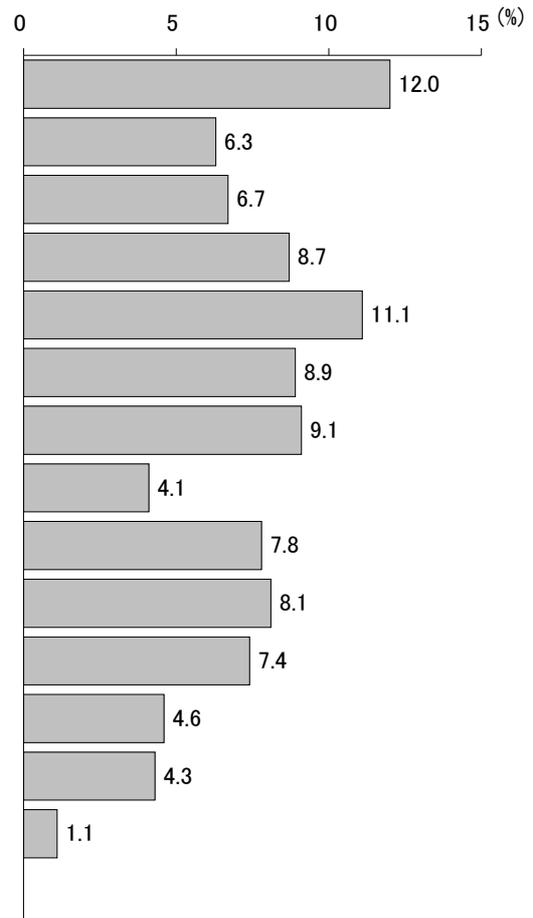
住居形態

	基数	構成比
持家(一戸建)	362	66.9%
持家(分譲マンション)	55	10.2%
公営(都、市、公団)の賃貸住宅	24	4.4%
借家(一戸建)	13	2.4%
民営アパート、マンション	71	13.1%
社宅、寮、公務員住宅	6	1.1%
間借り	2	0.4%
その他	5	0.9%
無回答	3	0.6%
全体	541	100.0%



地区・ブロック

	基数	構成比
神明台1～4丁目	65	12.0%
双葉町1～3丁目・川崎番地	34	6.3%
五ノ神1～4丁目	36	6.7%
富士見平1～3丁目・羽4131～4184・五ノ神番地	47	8.7%
緑ヶ丘1～5丁目	60	11.1%
栄町1～3丁目	48	8.9%
小作台1～5丁目	49	9.1%
羽西1～3丁目	22	4.1%
羽加美1～4丁目	42	7.8%
羽中1～4丁目	44	8.1%
羽東1～3丁目	40	7.4%
川崎1～4丁目	25	4.6%
玉川1～2丁目・羽690～744	23	4.3%
無回答	6	1.1%
全体	541	100.0%



なお、上記の地区・ブロックは表記の都合上、本文中のコメントおよび図において以下のように簡易的に表示している。

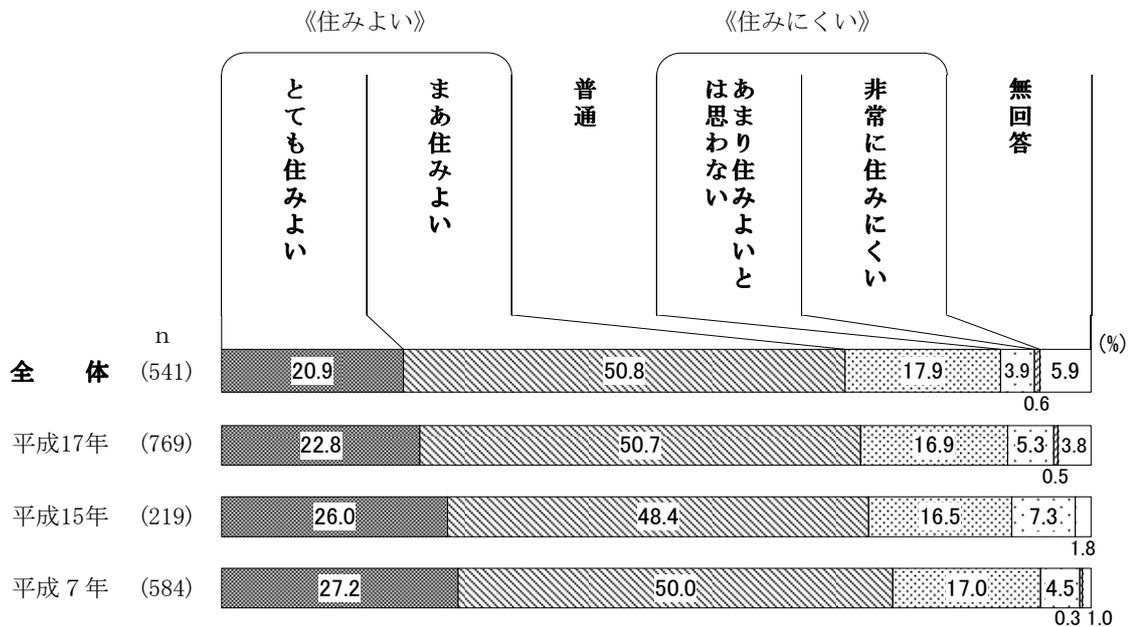
地区・ブロック名	図表・コメント内での表示名
神明台1～4丁目	神明台
双葉町1～3丁目・川崎番地	双葉町
五ノ神1～4丁目	五ノ神
富士見平1～3丁目・羽4131～4184・五ノ神番地	富士見平・羽4000番台
緑ヶ丘1～5丁目	緑ヶ丘
栄町1～3丁目	栄町
小作台1～5丁目	小作台
羽西1～3丁目	羽西
羽加美1～4丁目	羽加美
羽中1～4丁目	羽中
羽東1～3丁目	羽東
川崎1～4丁目	川崎
玉川1～2丁目・羽690～744	玉川・羽600～700番台

III 調査結果の詳細

1. 定住性と住みよさ

(1) 住みよさ

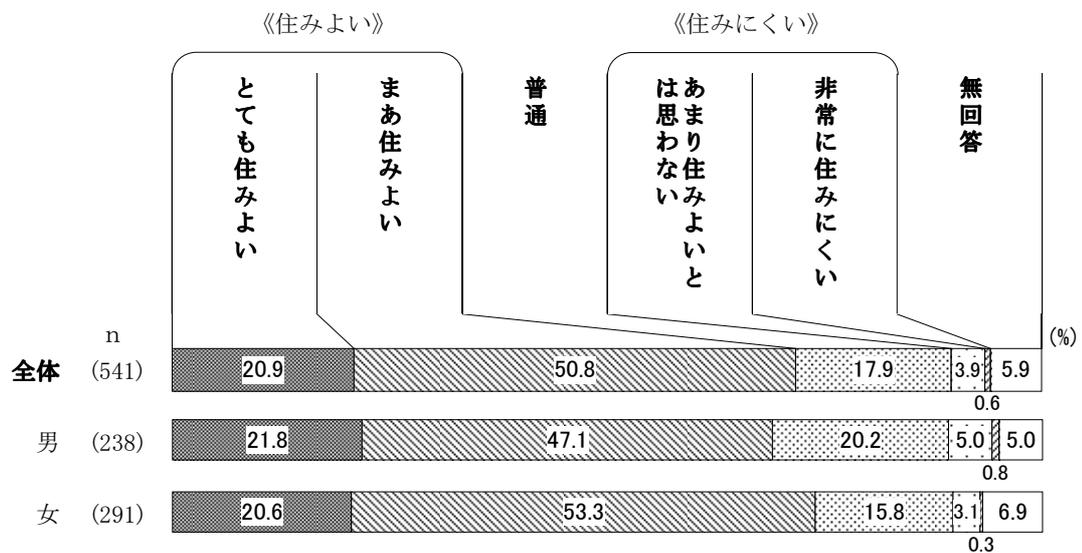
問1 あなたは羽村市を住みよいところだと思いますか。(〇は1つ)



羽村市の住みよさは、「とても住みよい」が20.9%、「まあ住みよい」が50.8%で、これをあわせた《住みよい》は71.7%となっており、《住みにくい》（「非常に住みにくい」+「あまり住みよいとは思わない」）（4.5%）を大きく上回っている。

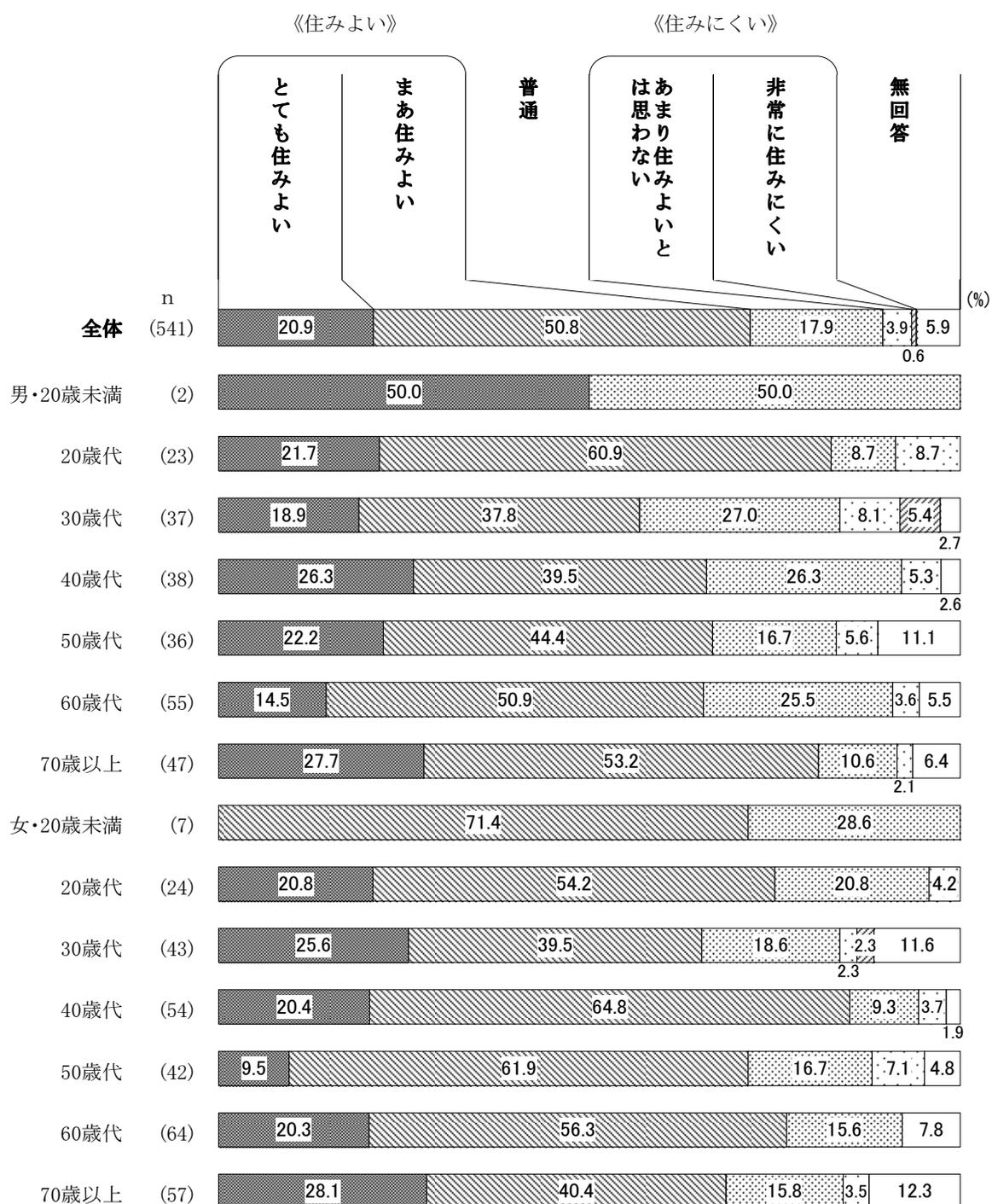
過去の調査と比較すると、《住みよい》は7割台で推移しているものの、調査ごとに少しずつ減少がみられる。

性別



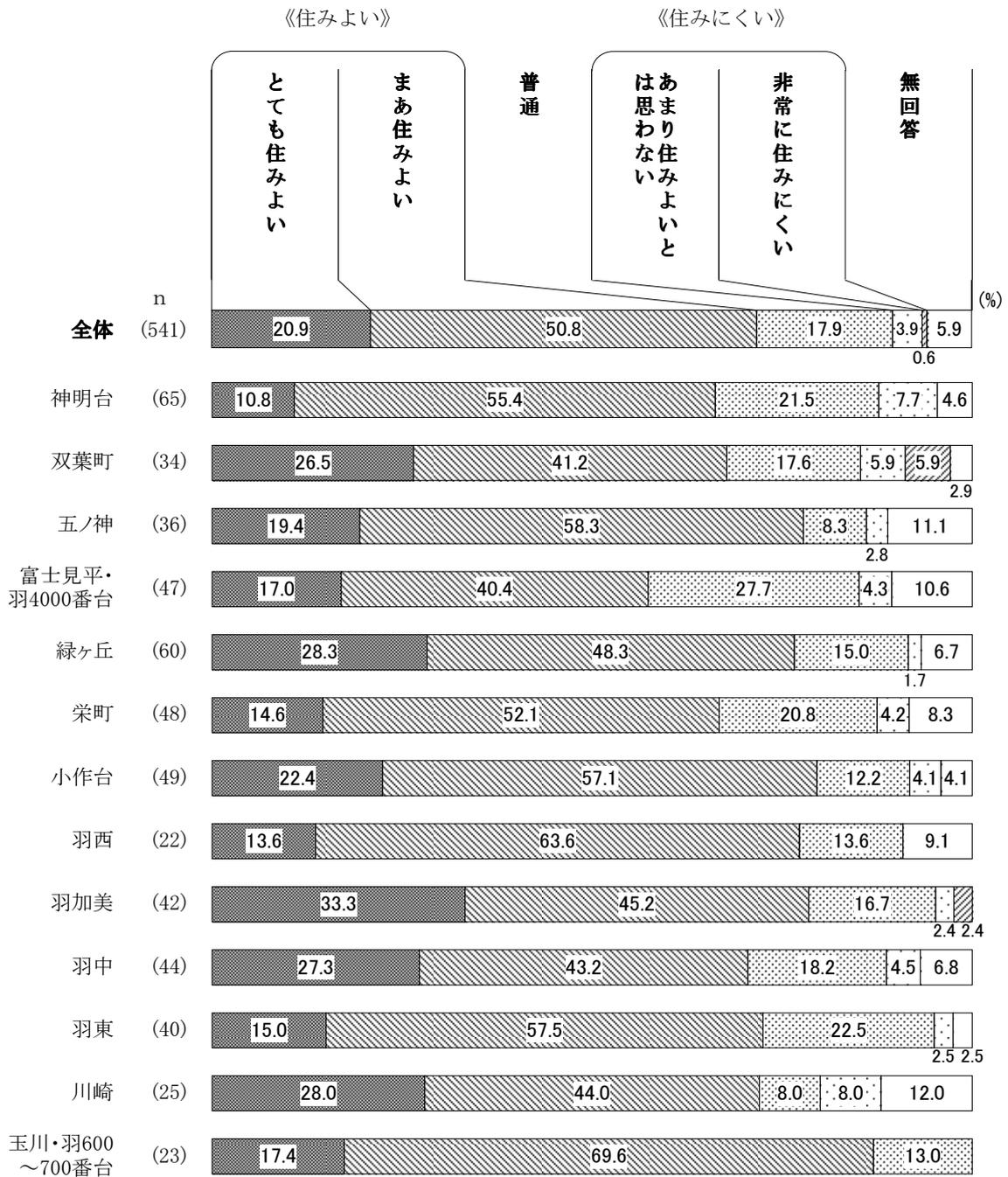
性別にみると、《住みよい》は女性（73.9%）が男性（68.9%）よりやや多くなっている。

性・年代別



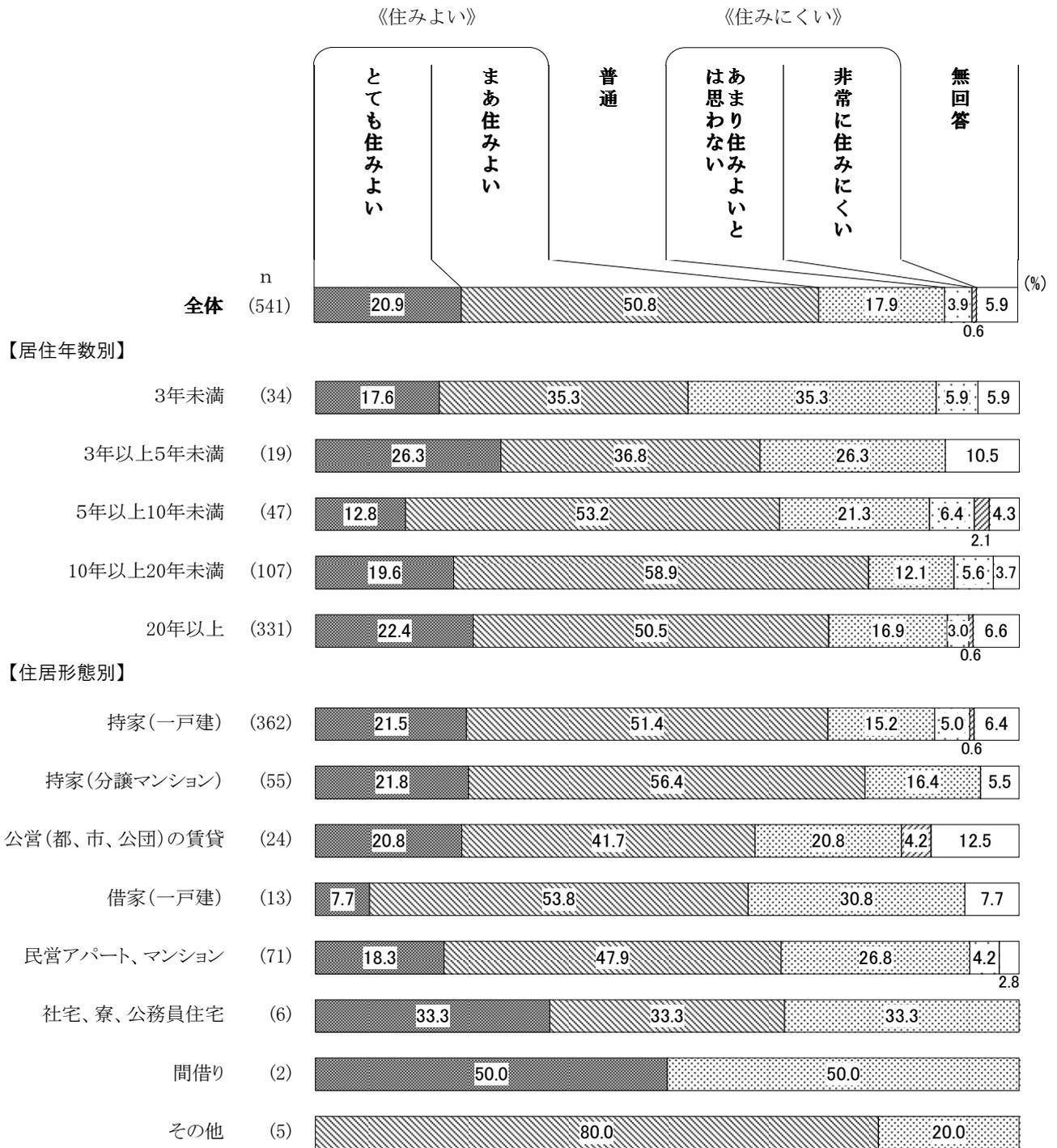
性・年代別にみると、《住みよい》は男女を通じたいずれの年代でも半数以上となっており、特に男性の20歳代と70歳以上、女性40歳代で8割台、女性の60歳代と20歳代で7割台半ばと多くなっている。一方、男女とも30歳代で比較的低く、男性の30歳代では《住みにくい》が1割台となっている。

地区・ブロック別



地区・ブロック別にみると、《住みよい》はいずれの地区・ブロックでも半数を超え、特に玉川・羽600～700番台で87.0%と多く、小作台、羽加美、五ノ神、羽西、緑ヶ丘、羽東、川崎、羽中でも7割台となっている。一方、最も低いのは富士見平・羽4000番台の57.4%であった。

居住年数別、住居形態別



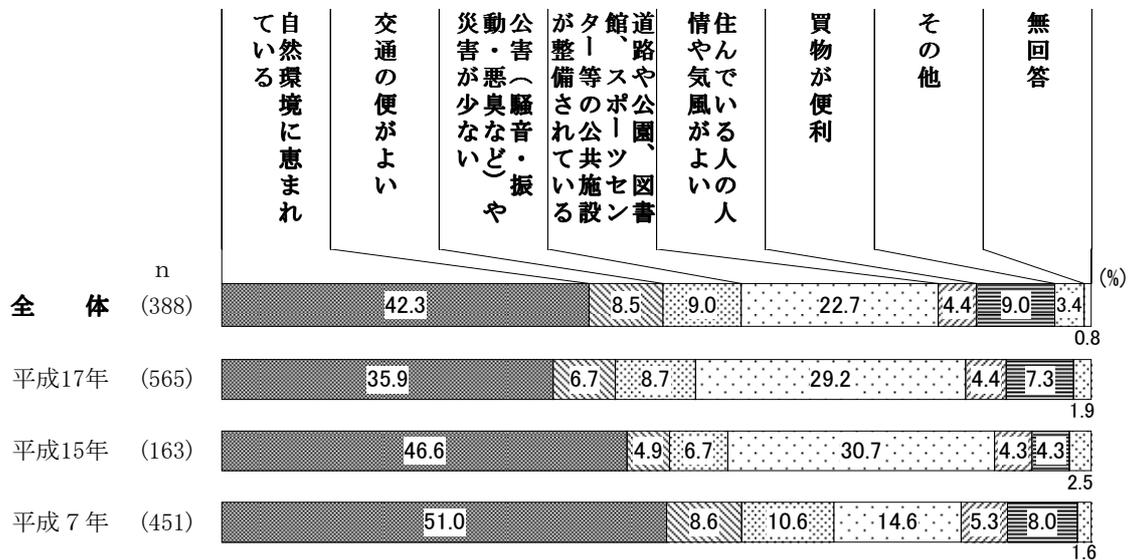
居住年数別にみると、《住みよい》は居住期間が長い方で割合が多くなっており、10年以上の居住者で7割台、3年以上から10年未満で6割台となっている。

住居形態別にみると、《住みよい》は持家層で7割台と、賃貸・借家等より割合が多くなっている。

(2) 住みよい理由

【問1の「とても住みよい」、「まあ住みよい」の該当者】

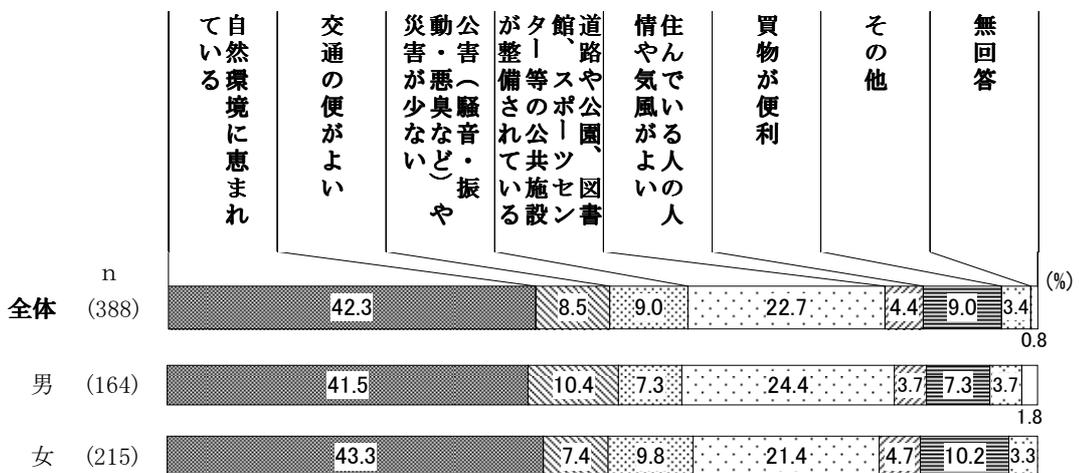
問1-1 その主な理由は何ですか。(〇は1つ)



問1で《住みよい》と回答した人の理由は、「自然環境に恵まれている」が42.3%で最も多く、「道路や公園、図書館、スポーツセンター等の公共施設が整備されている」が22.7%となっている。

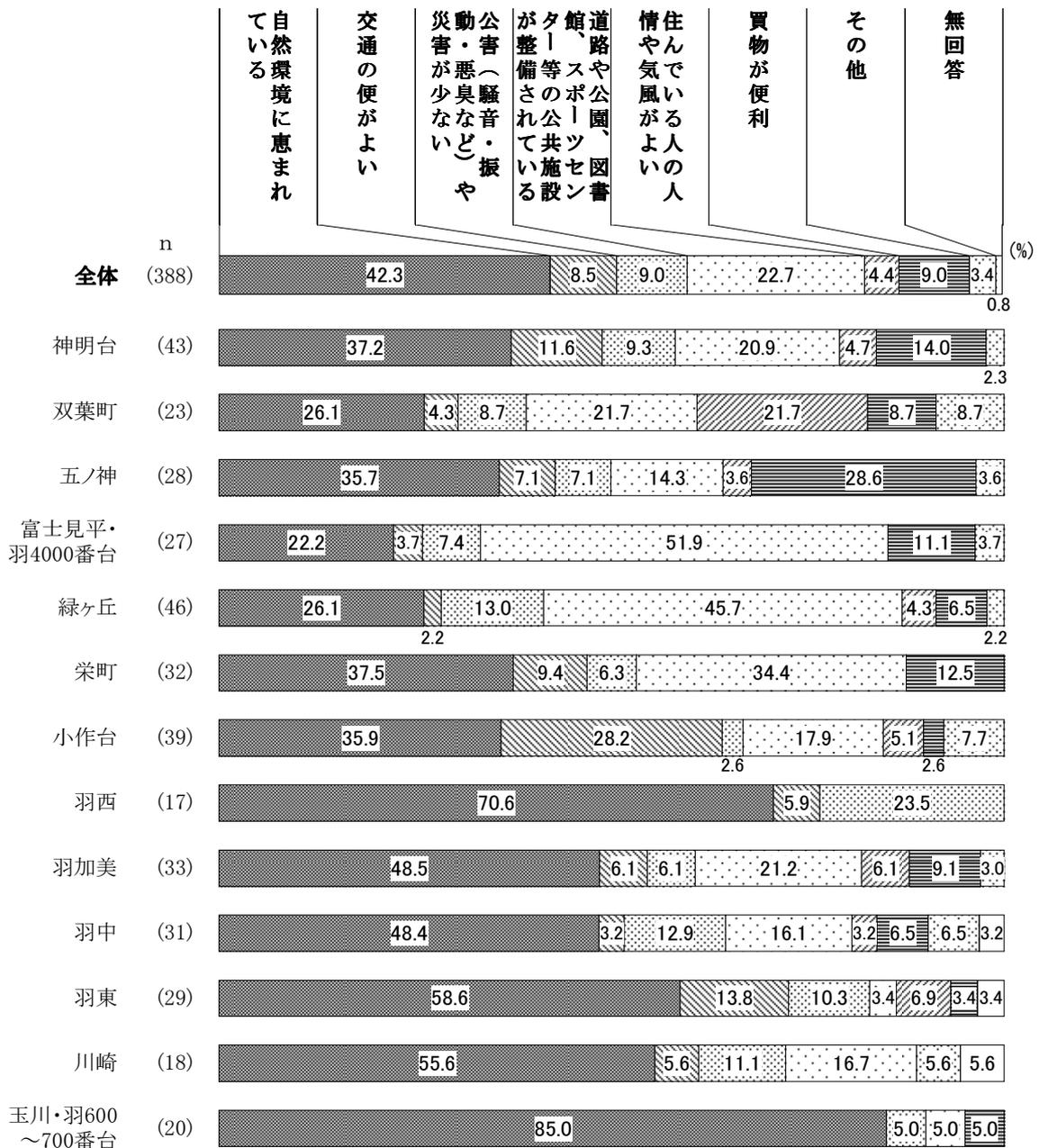
過去の調査と比較すると、「自然環境に恵まれている」は平成7年の51.0%をピークに、調査ごとに減少がみられたが、今回調査では42.3%と前回(35.9%)よりやや増加に転じている。「道路や公園、図書館、スポーツセンター等の公共施設が整備されている」は平成17年は3割前後を維持していたが、今回では22.7%と減少に転じている。

性別



性別では、特に大きな差はみられない。

地区・ブロック別

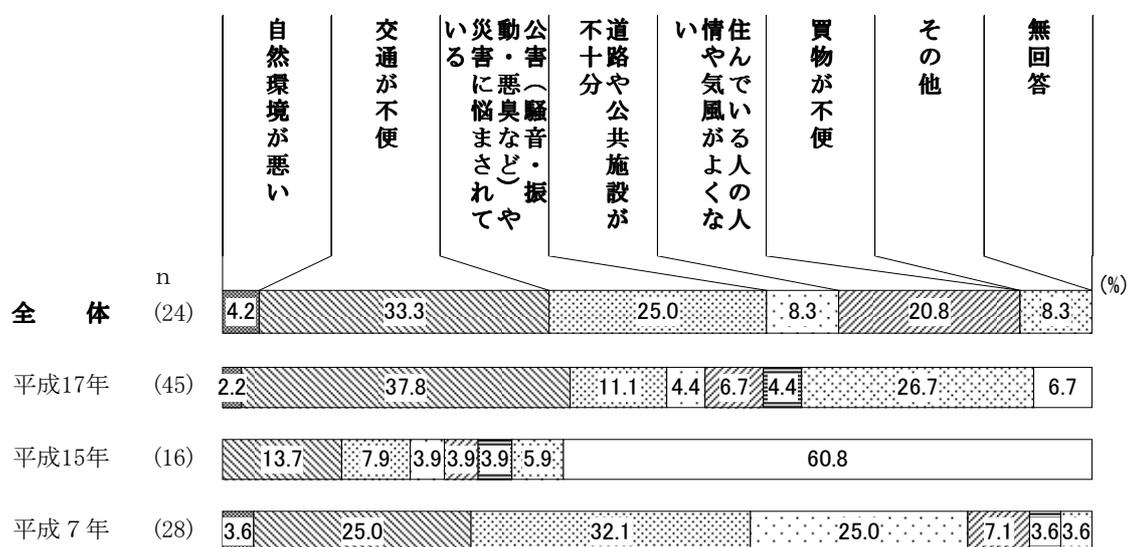


地区・ブロック別にみると、「自然環境に恵まれている」は玉川・羽600～700番台で85.0%、羽西で70.6%と多く、羽東、川崎でも5割台となっている。「道路や公園、図書館、スポーツセンター等の公共施設が整備されている」は富士見平・羽4000番台で51.9%、緑ヶ丘で45.7%と多い。各地区でこの2項目のいずれかが多いが、「交通の便がよい」は小作台で、「公害（騒音・振動・悪臭など）や災害が少くない」は羽西で、「住んでいる人の人情や気風がよい」は双葉町で、「買物が便利」は五ノ神でそれぞれ2割台と他の地区より多くなっており、地区・ブロックによる色合いの違いも表れている。

(3) 住みにくい理由

【問1の「あまり住みよいとは思わない」、「非常に住みにくい」の該当者】

問1-2 その主な理由は何ですか。(○は1つ)

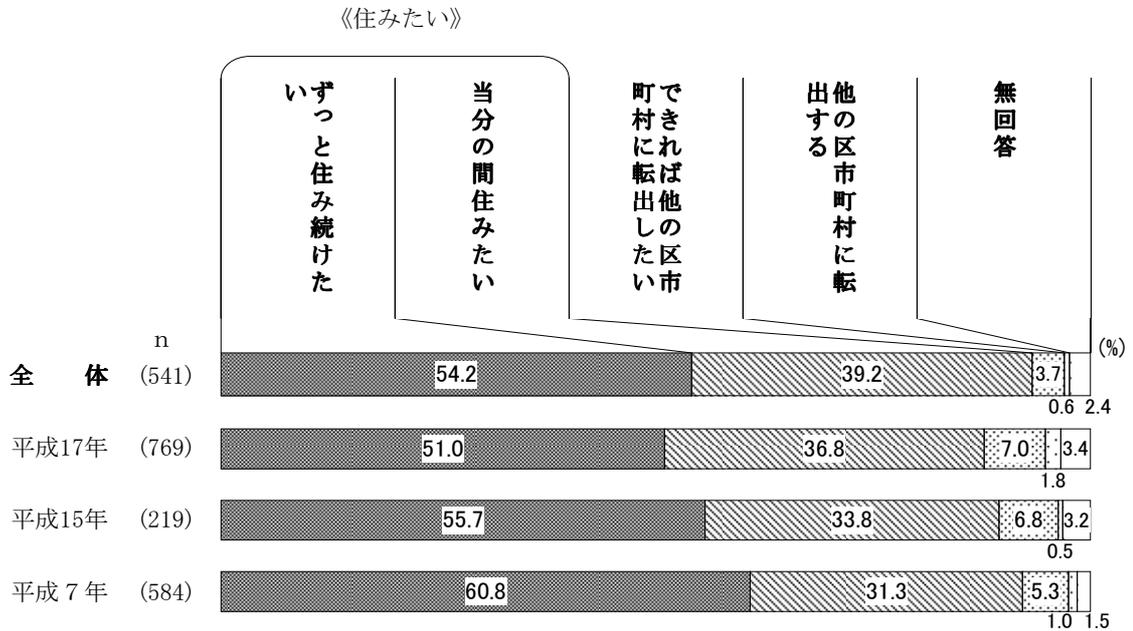


問1で《住みにくい》と回答した人の理由は、「交通が不便」が33.3%で最も多く、「公害（騒音・振動・悪臭など）や災害に悩まされている」（25.0%）、「住んでいる人の人情や気風がよくない」（20.8%）が2割台で続いている。

過去の調査と比較すると、「住んでいる人の人情や気風がよくない」は前回調査では6.7%であったが今回20.8%と大きく増加、「公害（騒音・振動・悪臭など）や災害に悩まされている」も前回調査の11.1%から今回25.0%へと増加している。

(4) 定住意向

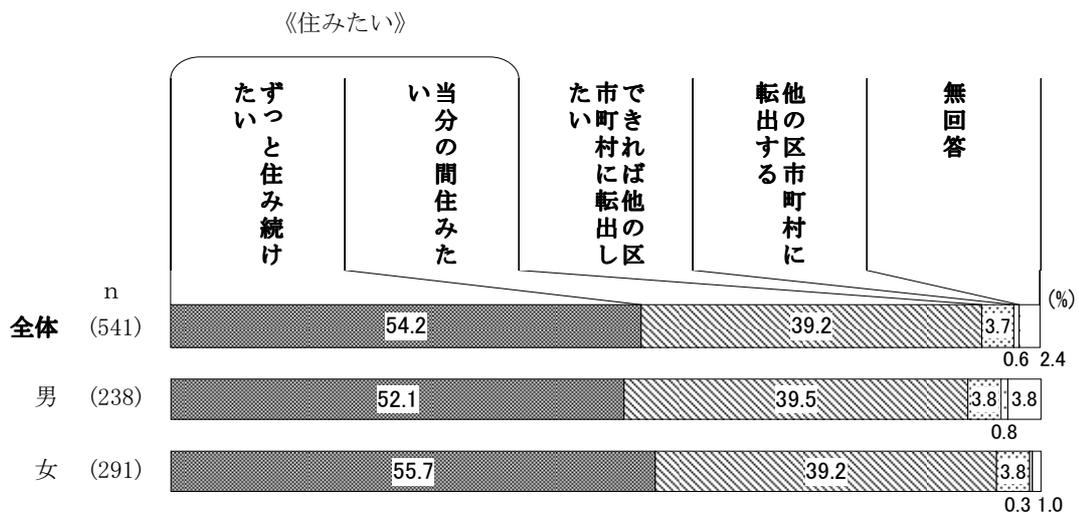
問2 あなたは今後も羽村市に住み続けたいと思いますか。それとも市外に転居したいと思いますか。(〇は1つ)



今後の羽村市への定住意向では、「ずっと住み続けたい」が54.2%、「当分の間住みたい」が39.2%で、これをあわせた《住みたい》(93.4%)は9割を超えて多くなっている。

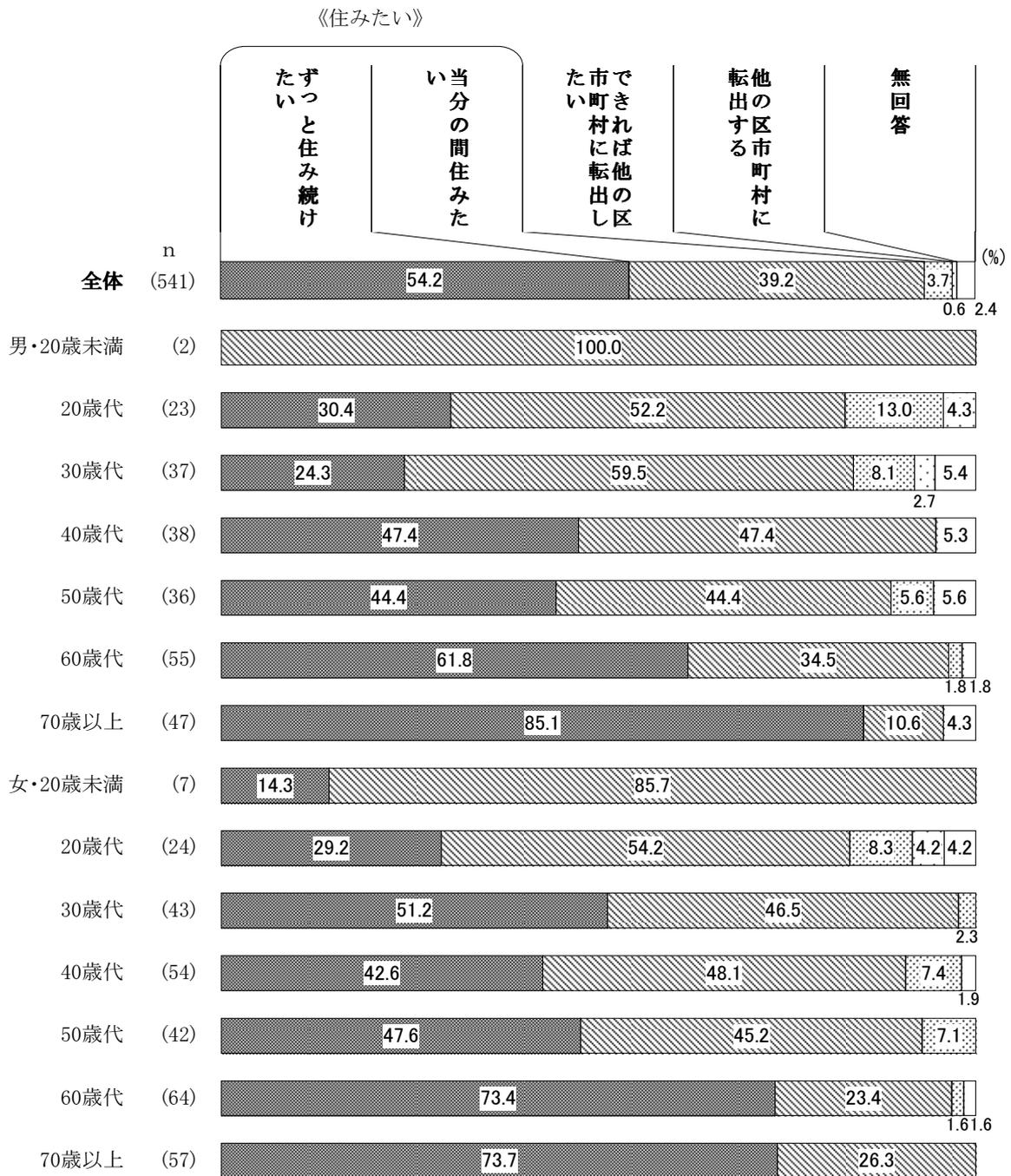
過去の調査と比較すると、《住みたい》は減少傾向となっていたが、今回調査では過去最高の割合(93.4%)となった。

性別



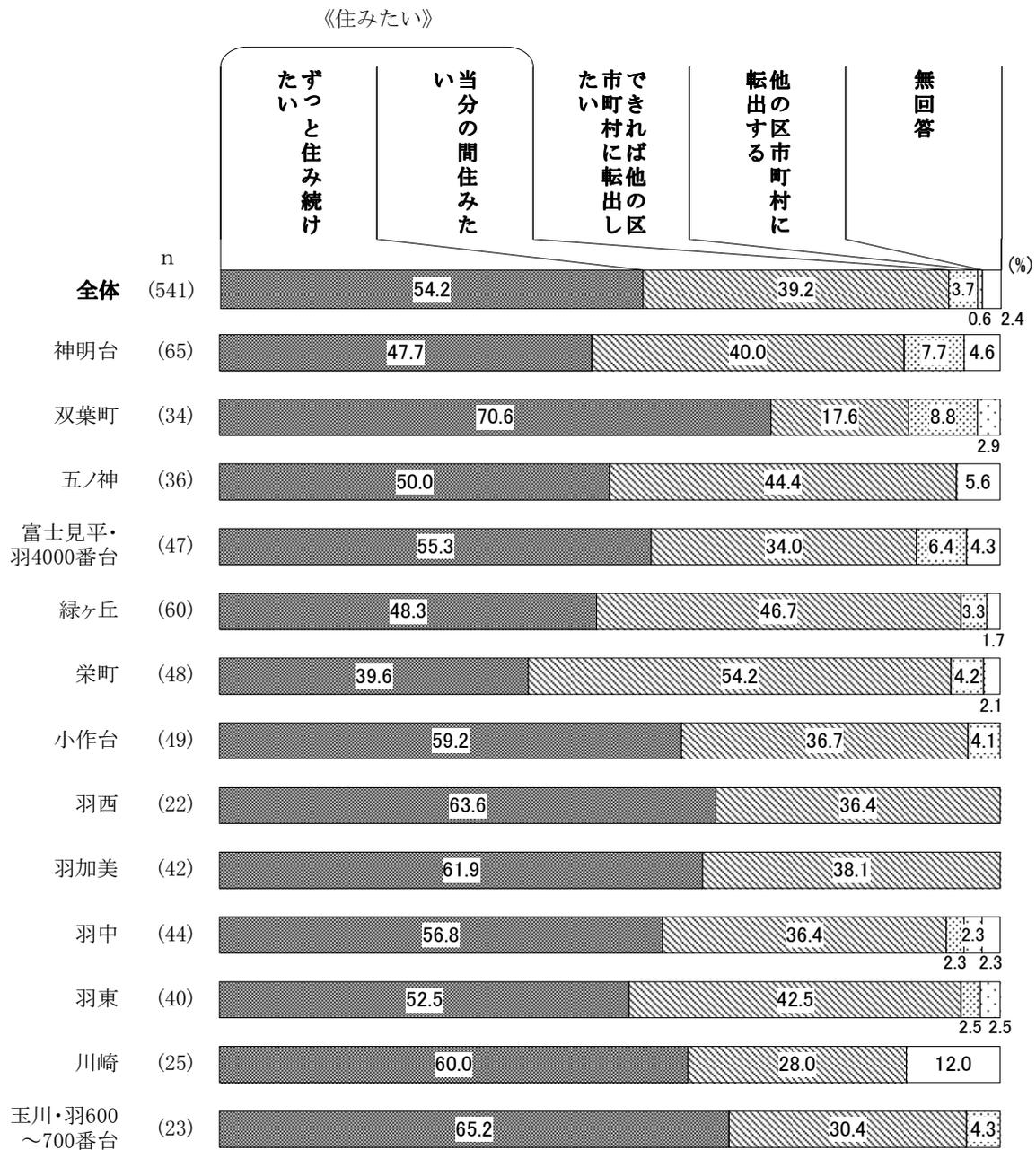
性別にみると、《住みたい》は女性(94.9%)が男性(91.6%)をやや上回っている。

性・年代別



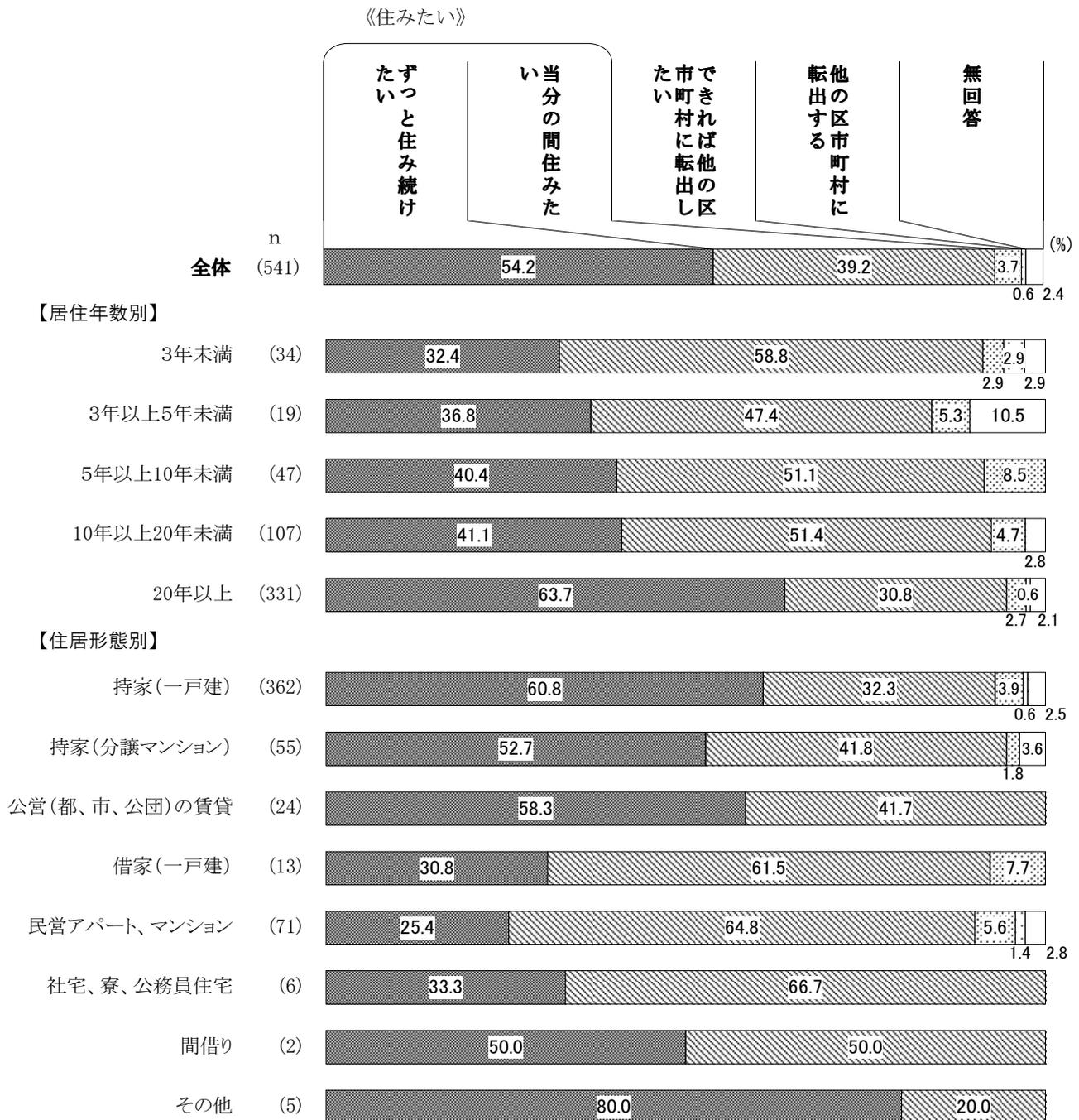
性・年代別にみると、《住みたい》は男女を通じていずれの年代でも8割以上と多く、特に女性の70歳以上では全数となっている。

地区・ブロック別



地区・ブロック別にみると、《住みたい》はいずれの地区でも8割以上となっており、羽西、羽加美では全数となっている。

居住年数別、住居形態別



居住年数別にみると、《住みたい》は3年以上5年未満で8割台、それ以外の居住年数ではいずれも9割台と多くなっている。

住居形態別にみると、《住みたい》はいずれの住居形態でも9割以上と多くなっている。

「住み続けたい」理由（自由記述）

環境	199
緑、自然が残っているから	45
住みやすい／住み慣れているから	38
持家がある／家を購入したから	33
生まれ育った所だから	21
環境がよいから	15
不便を感じないから	15
公害・災害が少ないため	8
水がおいしいから	5
静か(騒音がない) / のどかだから	4
空気がきれいだから	3
転入してきたばかり	3
環境を変えたくない	2
実家があるから	2
家系の墓があるから	2
羽村市が好きだから	2
ゴミ収集が多いところ	1
都市整備	54
交通の便が良いから	22
買物が便利だから	15
会社がある／通勤に便利なため	7
道路が整備されているところ	5
街並み、景観が良いから	3
公園が多いから	2
住民	35
家族、友人がいるから	15
住民同士のふれあいがあるから	10
人情や気風がよいから	10
行政	25
公共施設が充実しているため	17
行政サービスがよいため	3
水道代が安いから	2
文化的であるから	1
市政が安定しているため	1
税金が安いから	1

育児	9
子育てしやすいため	6
学校が近いから	2
保育料が安いから	1
その他(「当分の間住みたい」けれどもー)	21
将来的には転居する予定である	8
何らかの要因で転居もあり得る	7
交通の面では不便である	3
医療機関の面で不足している	1
区画整理対象のため、落ち着かない	1
住んでいたい、転居が決定した	1
その他	27
転出費用が工面できないため	11
転居する理由がないから	6
高齢だから	5
移るのは面倒だから	1
その他	4

合計:370

※ 1人で2つ以上の内容にわたって回答している場合、それぞれ1件としているため、合計は延べ件数である。

「転出したい」／「転出する」理由（自由記述）

都市整備	7
交通が不便	6
買い物が不便	1
行政	3
税金の使われ方に不安	1
区画整理がすすまない	1
都営・市営住宅が充実していない	1
住民	3
隣家とのトラブル	2
住民のマナーが悪い	1
環境	2
騒音がひどい	2
その他	7
通勤・通学が都心のため	2
羽村に魅力がない	1
転居するため	1
水道代を免除されない	1
知名度が低い	1
海のそばに住みたい	1

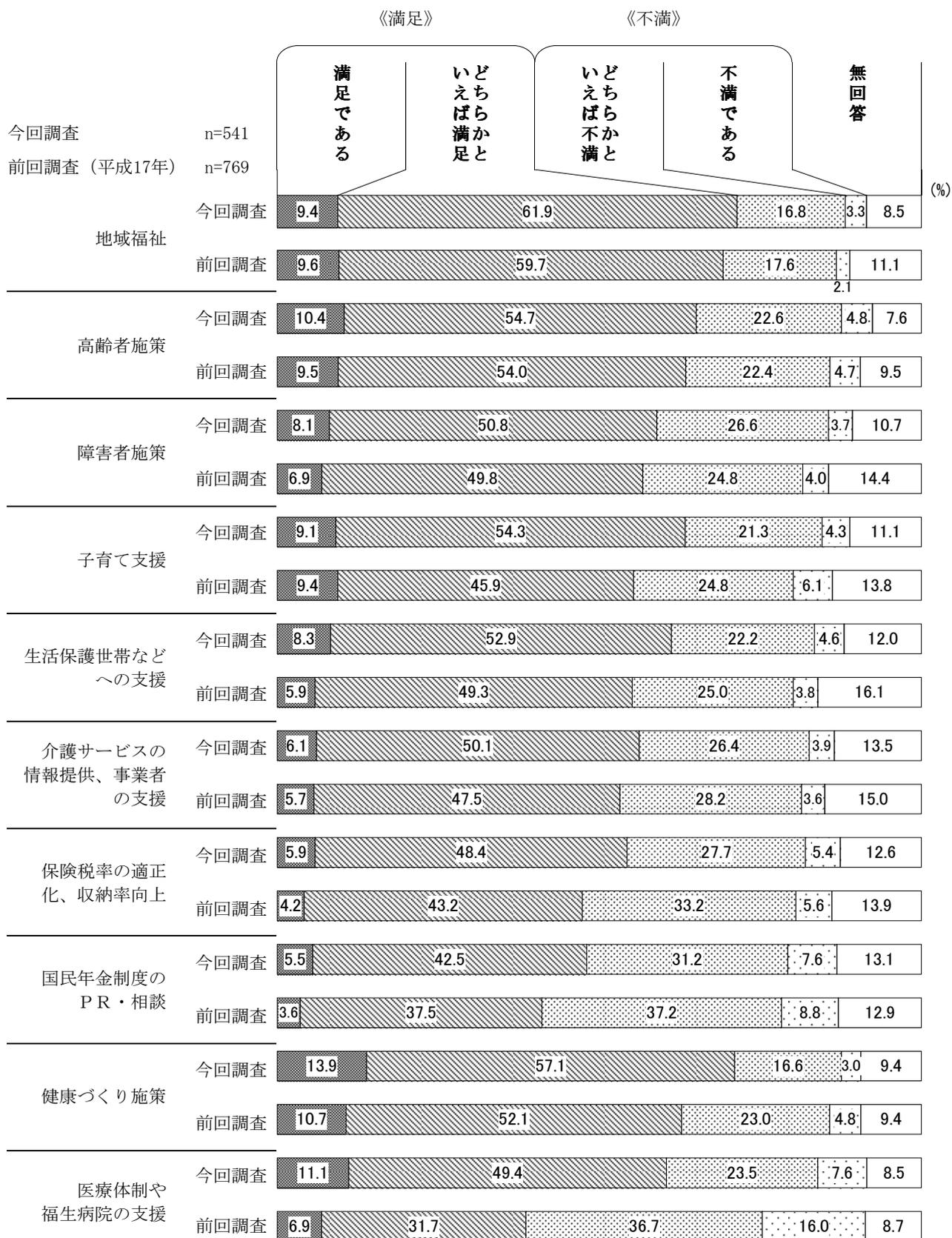
合計:22

※ 1人で2つ以上の内容にわたって回答している場合、それぞれ1件としているため、合計は延べ件数である。

基本目標【支えあい いきいきと暮らせるまち】は福祉関連の項目である。《満足》（「満足である」＋「どちらかといえば満足」）の割合が高いものは、“小地域ネットワークや福祉のまちづくりなどの地域福祉”（71.3%）、“市民の健康管理支援や保健サービスの充実などの健康づくり施策”（71.0%）で7割台、“高齢者がいきいきと安心して暮らせるための高齢者施策”（65.1%）、“安心して子どもを産み、育てられる子育て支援”（63.4%）、“生活保護世帯などへの経済給付や自立に向けた支援など”（61.2%）、“医療体制や福生病院の充実に向けた支援”（60.5%）も6割台と多くなっている。

一方、《不満》（「不満である」＋「どちらかといえば不満」）の割合が高いものは、“後期高齢者医療制度の趣旨の普及や制度などのPR・相談”（39.9%）、“国民年金制度の趣旨の普及や制度などのPR・相談”（38.8%）で4割弱となっている。

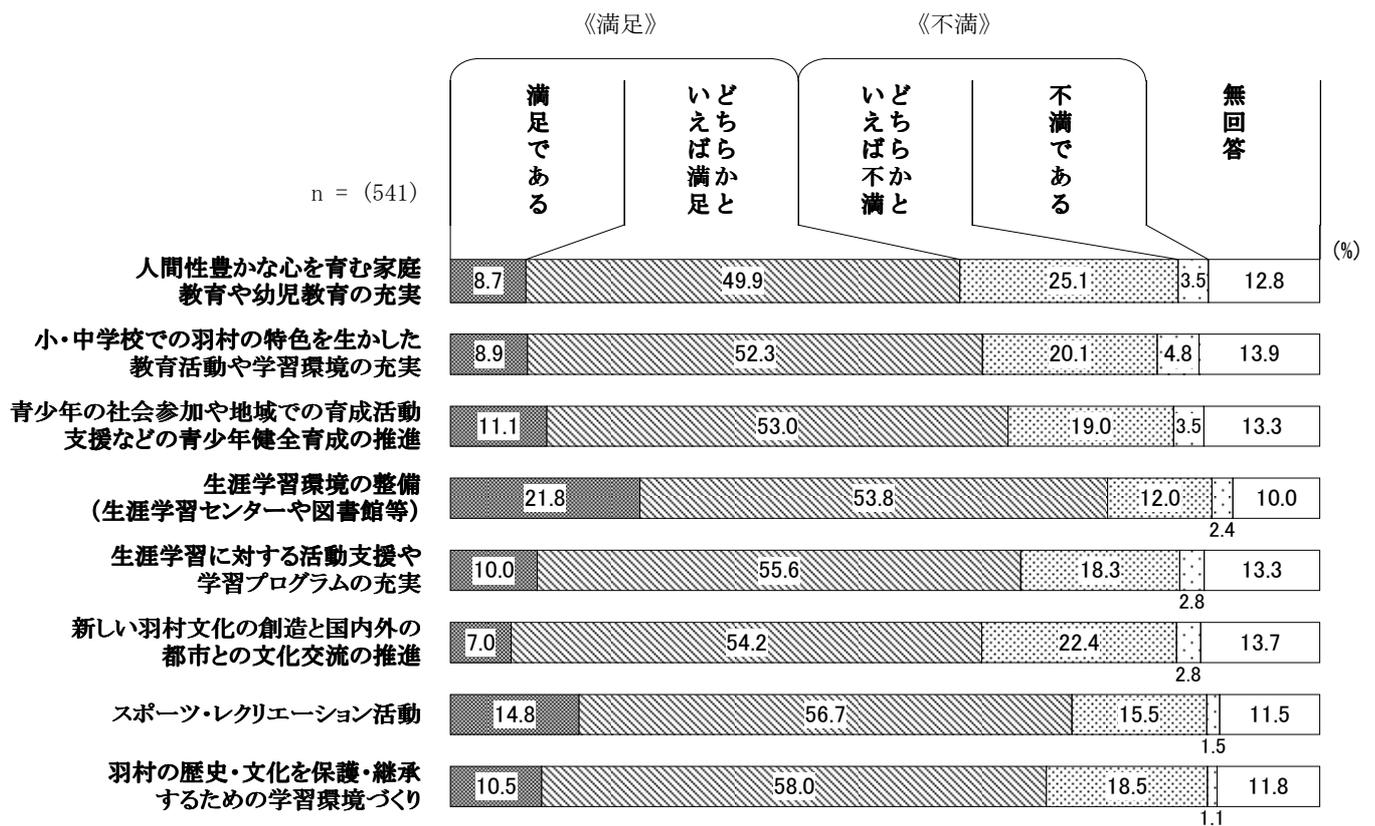
前回（平成17年）との比較



※ 「後期高齢者医療制度の趣旨の普及や制度などのPR・相談」は、前回調査では該当項目がないため、比較をしていない

前回調査と比較すると、《満足》はいずれの項目も前回調査から増加となっている。特に、“医療体制や福生病院の支援”（60.5%）は前回（38.6%）から22ポイントと大きく増加し、“健康づくり施策”、“子育て支援”、“保険税率の適正化、収納率向上”、“国民年金制度のPR・相談”なども7ポイント以上の増加となっている。

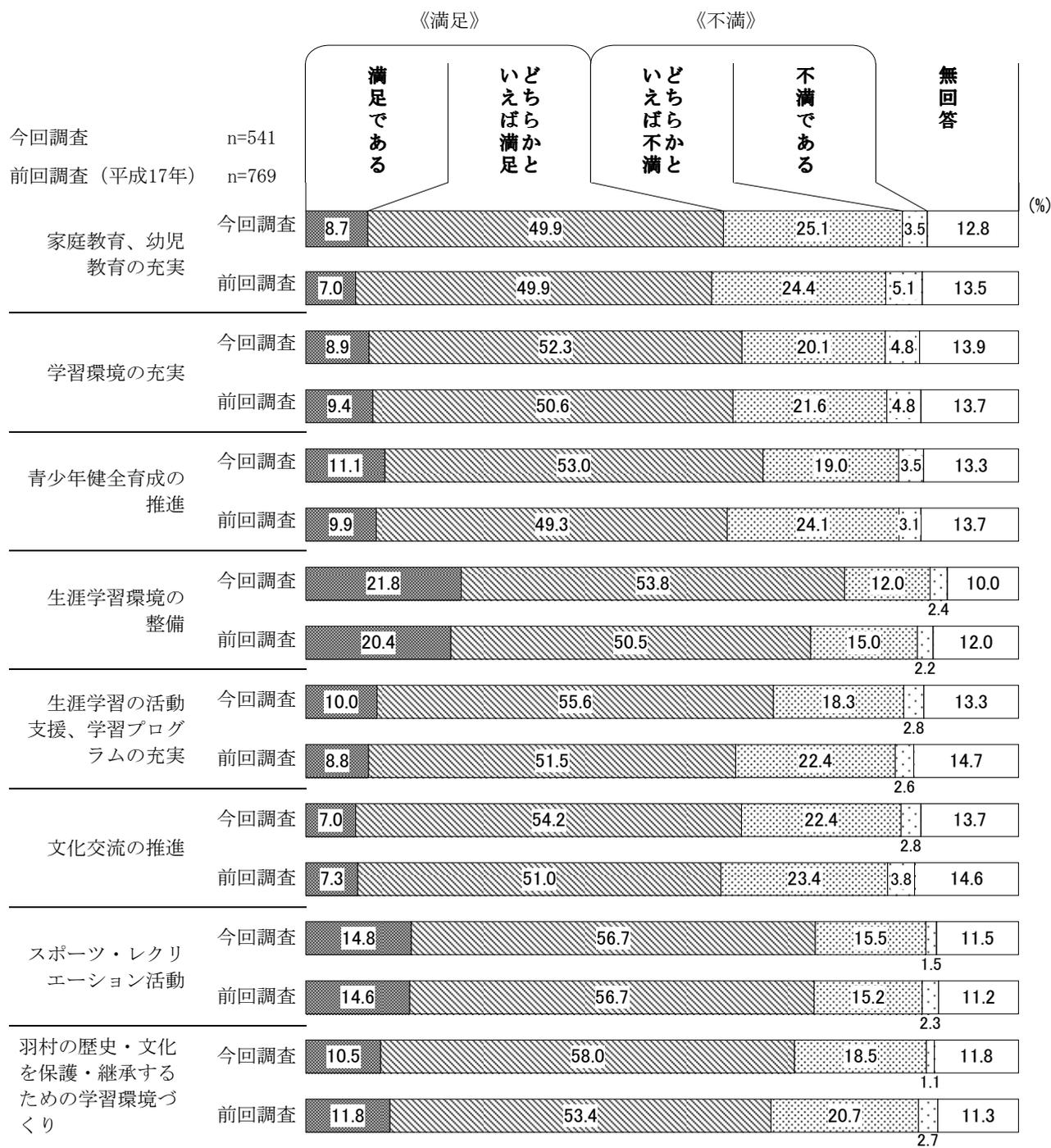
【学びあい豊かな心を育むまち】



基本目標【学びあい豊かな心を育むまち】は教育・文化、社会教育関連の項目である。《満足》はいずれの項目も半数を超えており、その中では“生涯学習環境の整備（生涯学習センターや図書館等）”（75.6%）、“スポーツ・レクリエーション活動”（71.5%）が7割台と多くなっている。

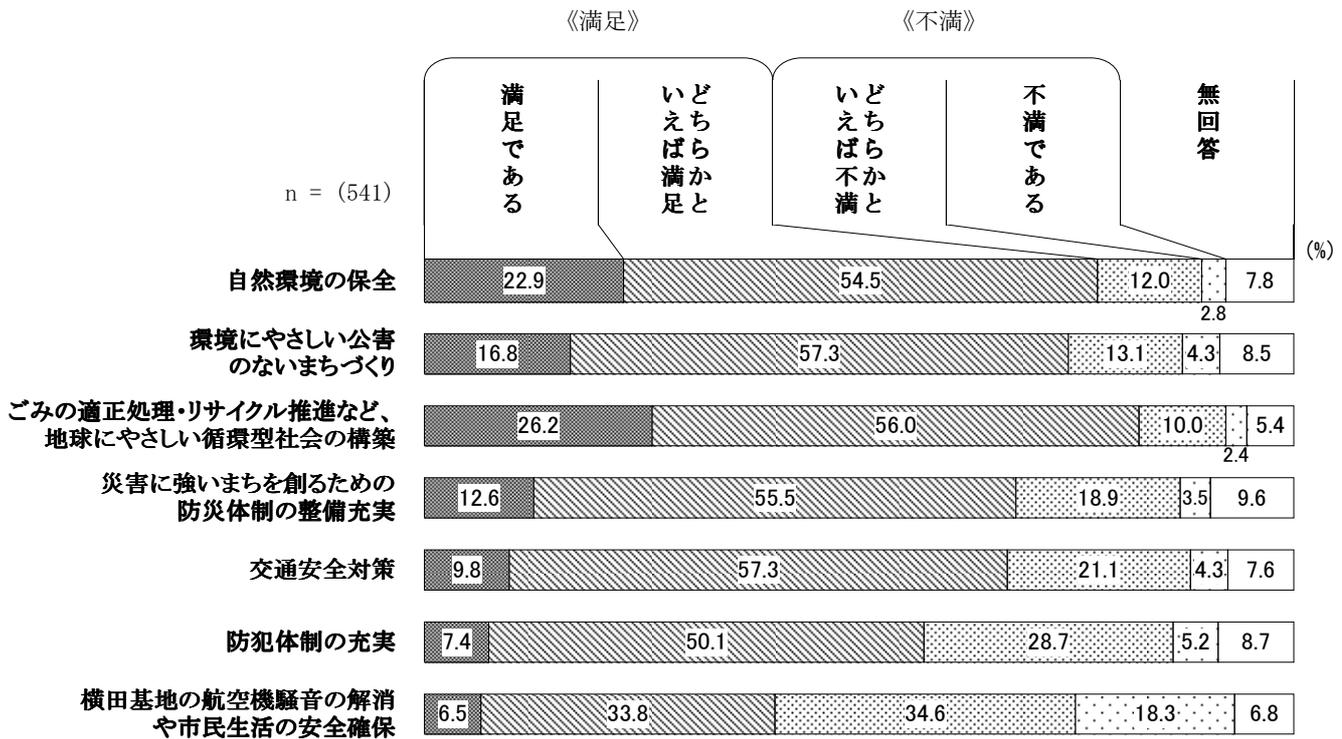
一方、《不満》では“人間性豊かな心を育む家庭教育や幼児教育の充実”（28.6%）が3割近い。

前回（平成17年）との比較



前回調査と比較すると、《満足》はいずれの項目も前回調査から増加となっており、“生涯学習の活動支援、学習プログラムの充実”、“青少年健全育成の推進”、“生涯学習環境の整備”では5ポイント以上の増加となっている。

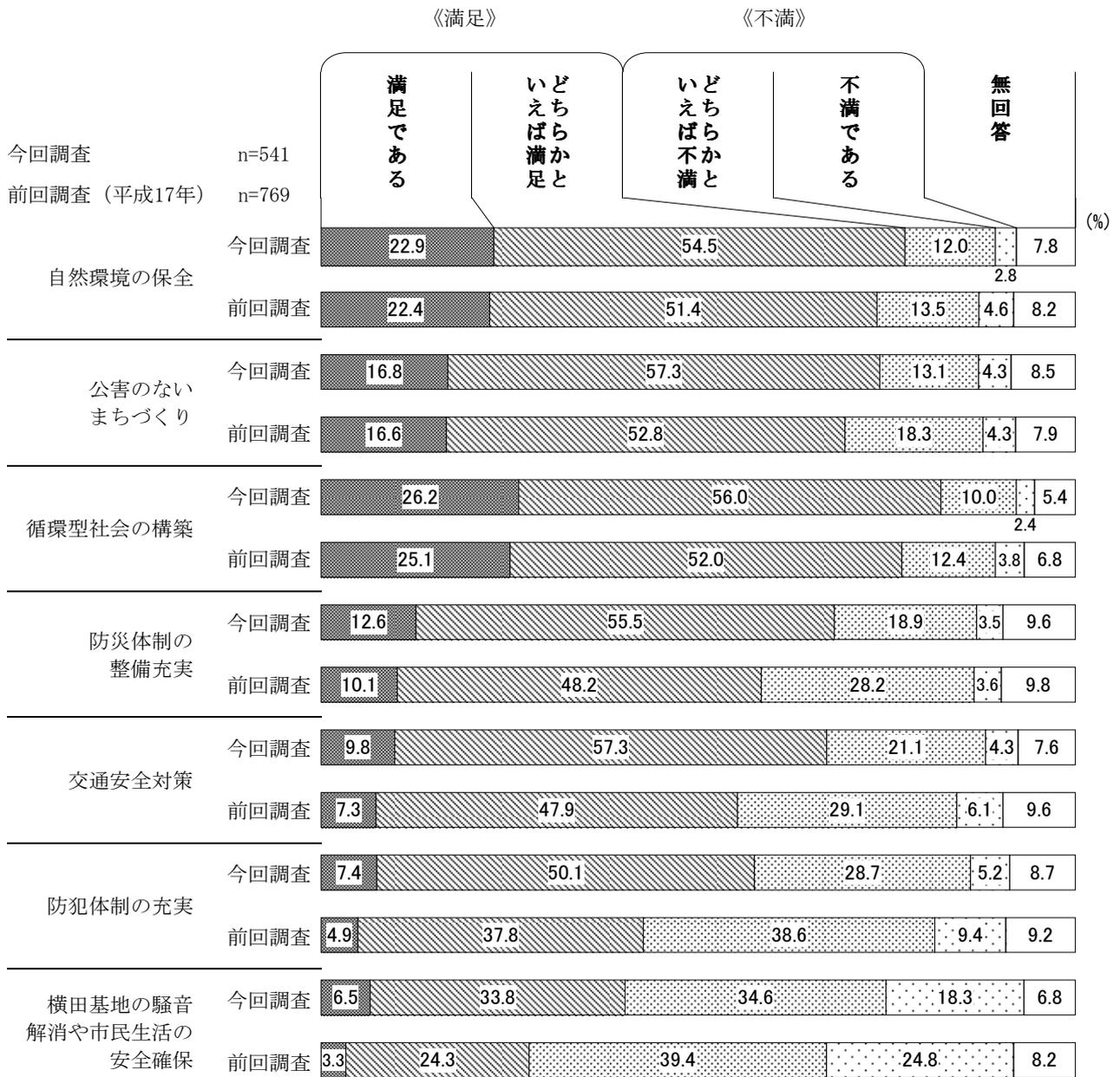
【環境にやさしい安心して暮らせるまち】



基本目標【環境にやさしい安心して暮らせるまち】は環境、防犯・防災関連の項目である。《満足》の割合が高いものは、“ごみの適正処理・リサイクル推進など、地球にやさしい循環型社会の構築”で82.2%、“自然環境の保全”（77.4%）、“環境にやさしい公害のないまちづくり”（74.1%）で7割台となっている。

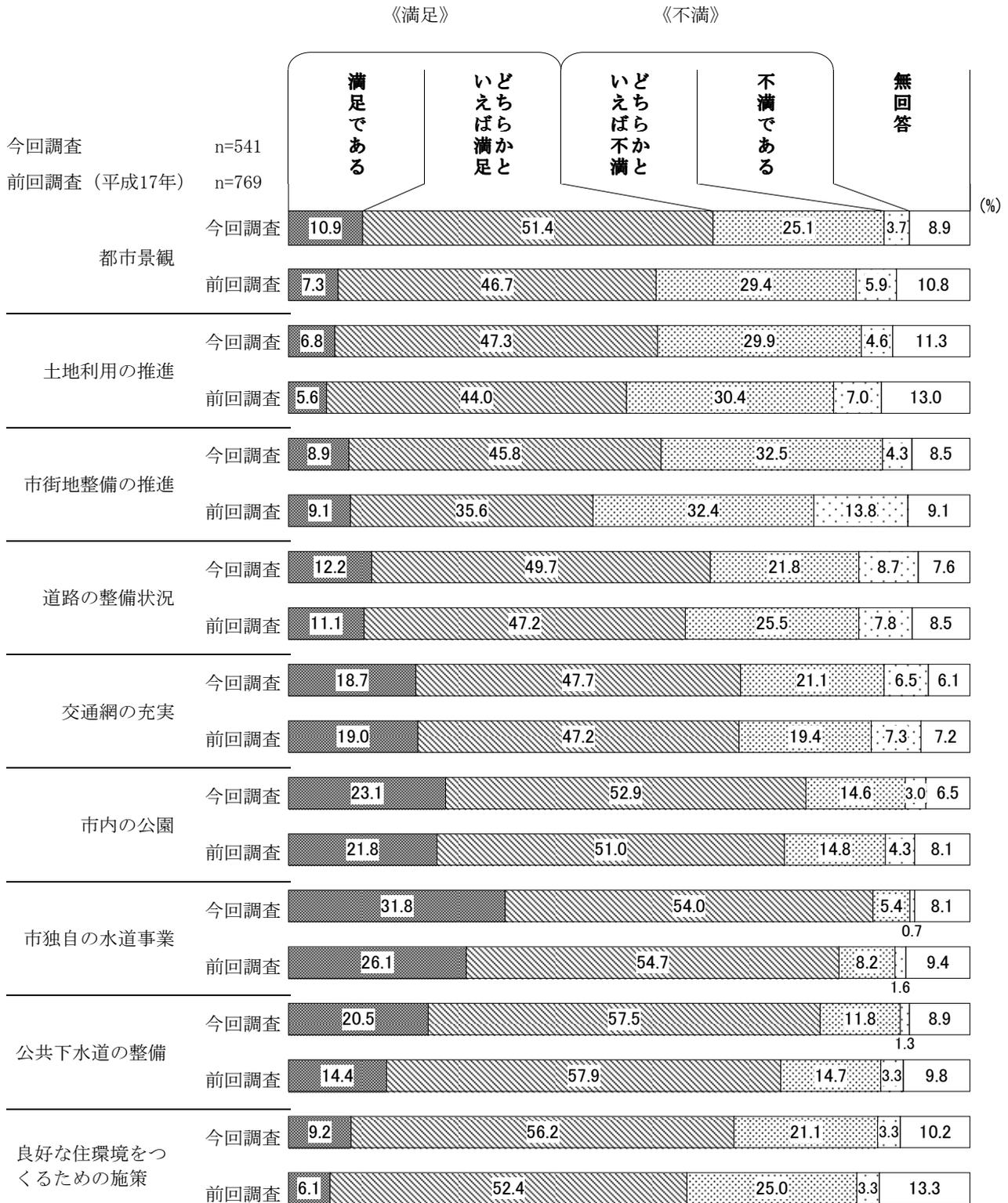
一方、《不満》では、“横田基地の航空機騒音の解消や市民生活の安全確保”（52.9%）が5割を超えて多く、“防犯体制の充実”（33.9%）も比較的多い。

前回（平成17年）との比較



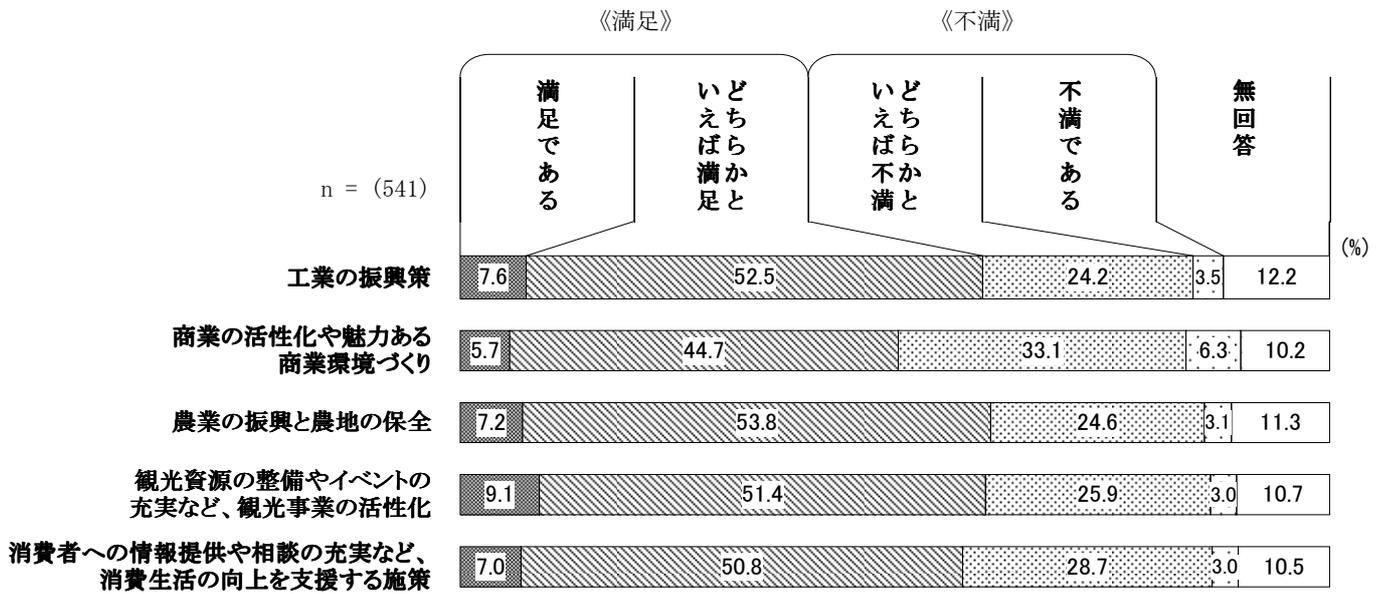
前回調査と比較すると、《満足》はいずれの項目も前回調査から増加となっており、“防犯体制の充実”、“横田基地の騒音解消や市民生活の安全確保”、“交通安全対策”は12ポイント以上、“防災体制の整備充実”は10ポイントの増加となっている。

前回（平成17年）との比較



前回調査と比較すると、《満足》はいずれの項目も前回調査から増加となっており、“市街地整備の推進”で10ポイント、“都市景観”で8ポイントの増加となっている。

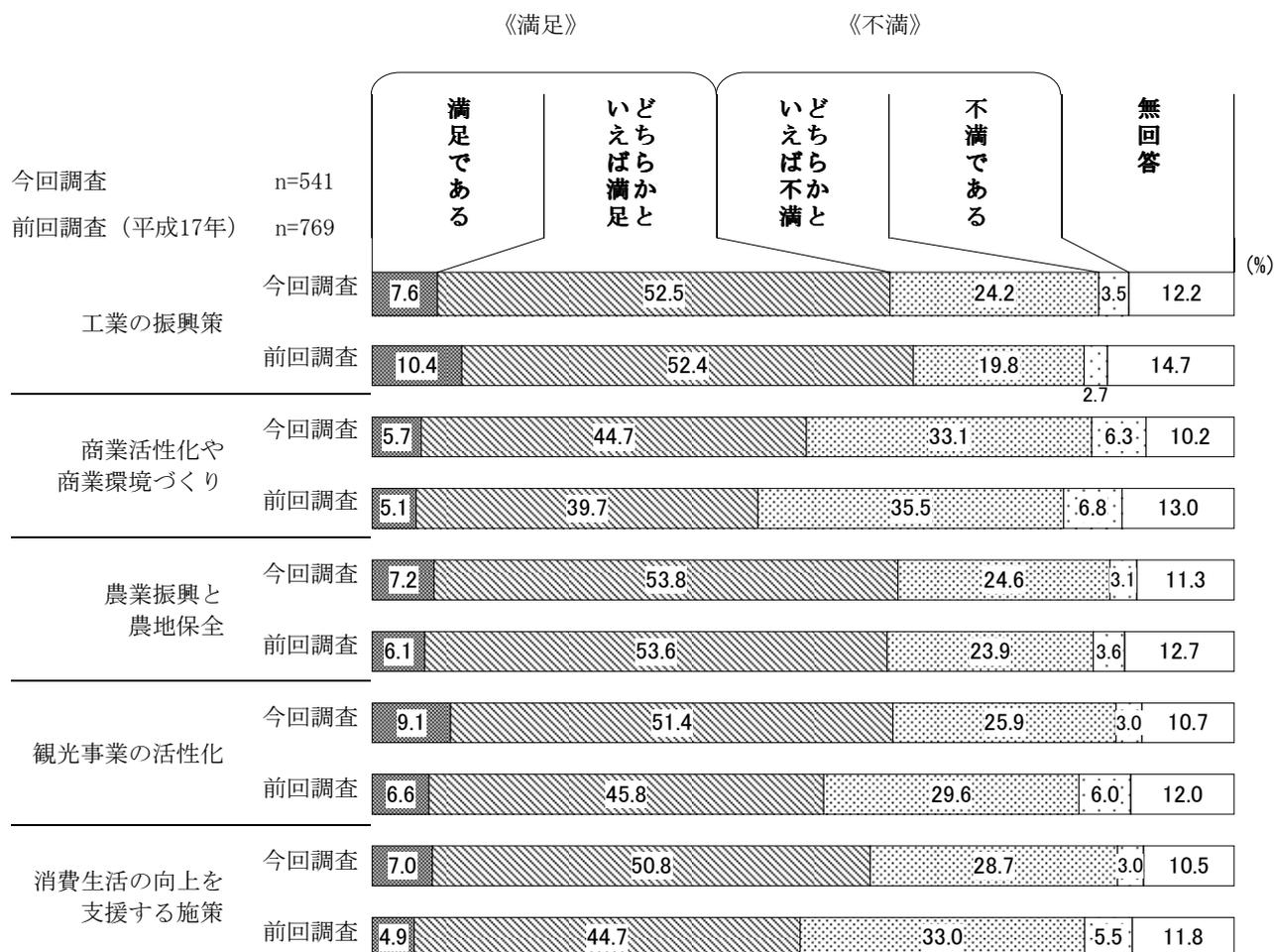
【活力に満ちた にぎわいのあるまち】



基本目標【活力に満ちた にぎわいのあるまち】は産業・経済関連の項目である。《満足》はいずれの項目も半数を超えており、その中では“農業の振興と農地の保全”（61.0%）、“観光資源の整備やイベントの充実など、観光事業の活性化”（60.5%）、“工業の振興策”（60.1%）が6割台となっている。

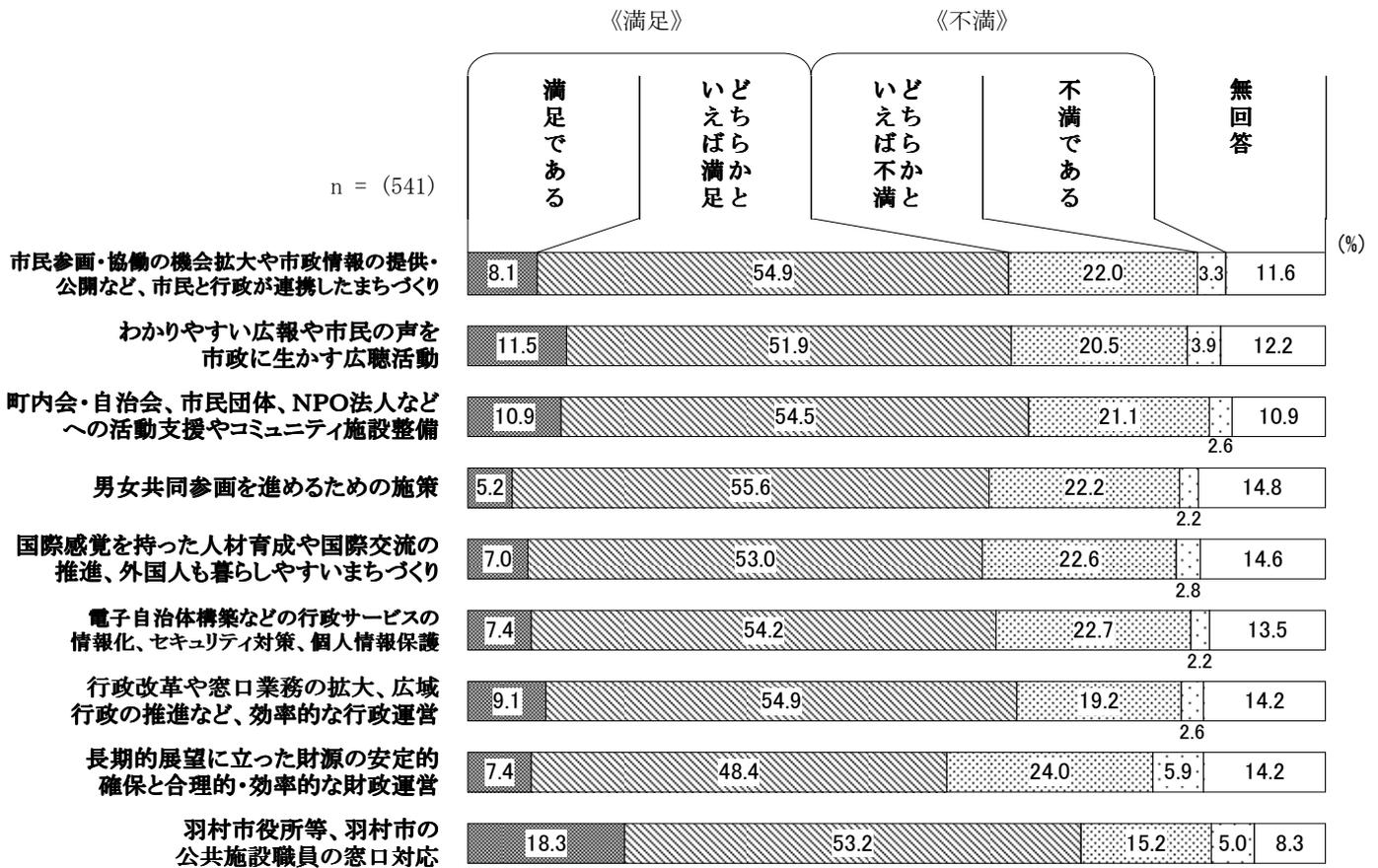
《不満》は“商業の活性化や魅力ある商業環境づくり”（39.4%）で4割弱と多くなっている。

前回（平成17年）との比較



前回調査と比較すると、《満足》は“消費生活の向上を支援する施策”、“観光事業の活性化”で8ポイントの増加がみられる。一方、“工業の振興策”は《満足》がやや減少し、《不満》が5ポイントの増加となっている。

【基本構想を推進するために】



* 「町内会・自治会、市民団体、NPO法人などへの活動支援やコミュニティ施設整備」は、前回調査では「町内会・自治会、市民団体、NPO法人などへの活動支援や地域集会施設などのコミュニティ施設整備」

基本目標【基本構想を推進するために】は役所・行政施策関連の項目である。《満足》はいずれの項目も半数を超えており、“長期的展望に立った財源の安定的確保と合理的・効率的な財政運営”以外は6割以上と全体的な満足度は高く、“羽村市役所等、羽村市の公共施設職員の窓口対応”で71.5%と多くなっている。

各項目間の比較をより単純にするために、下記の計算式のように、4段階の評価に点数を与え、各項目の平均評価点を算出した。

算出方法

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「満足である」の回答数} \times 4 \text{点} \\ \text{「どちらかといえば満足」の回答数} \times 3 \text{点} \\ \text{「どちらかといえば不満」の回答数} \times 2 \text{点} \\ \text{「不満である」の回答数} \times 1 \text{点} \end{array}}{\text{回答者数 (無回答を除く)}}$$

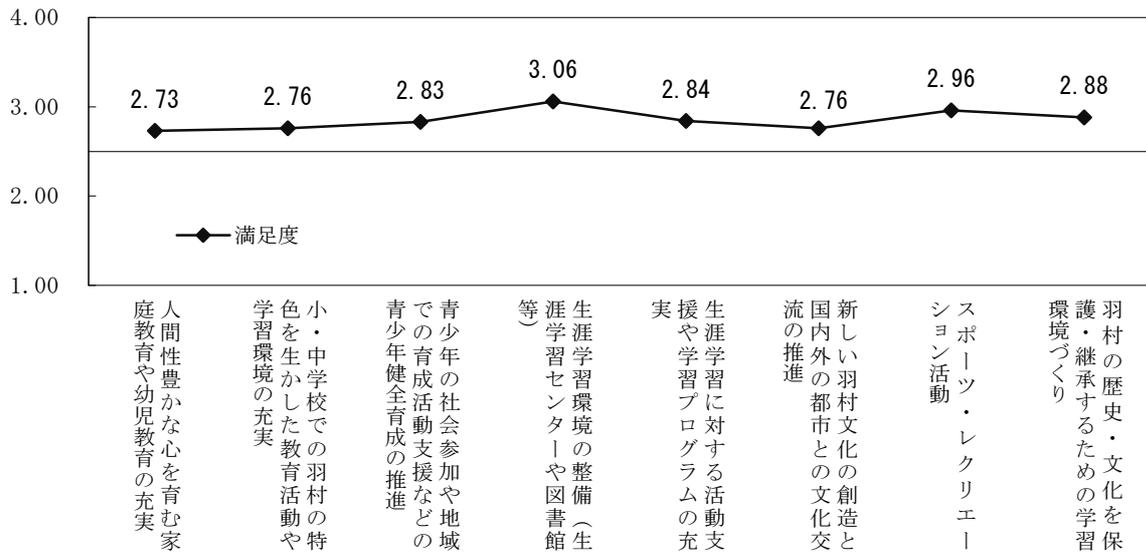
この算出方法では、評価点は4.00点から1.00点の間に分布し、2.50点が中間値である。4.00点に近いほど評価は高く、逆に1.00点に近いほど評価は低いことになる。

◆支えあい いきいきと暮らせるまち



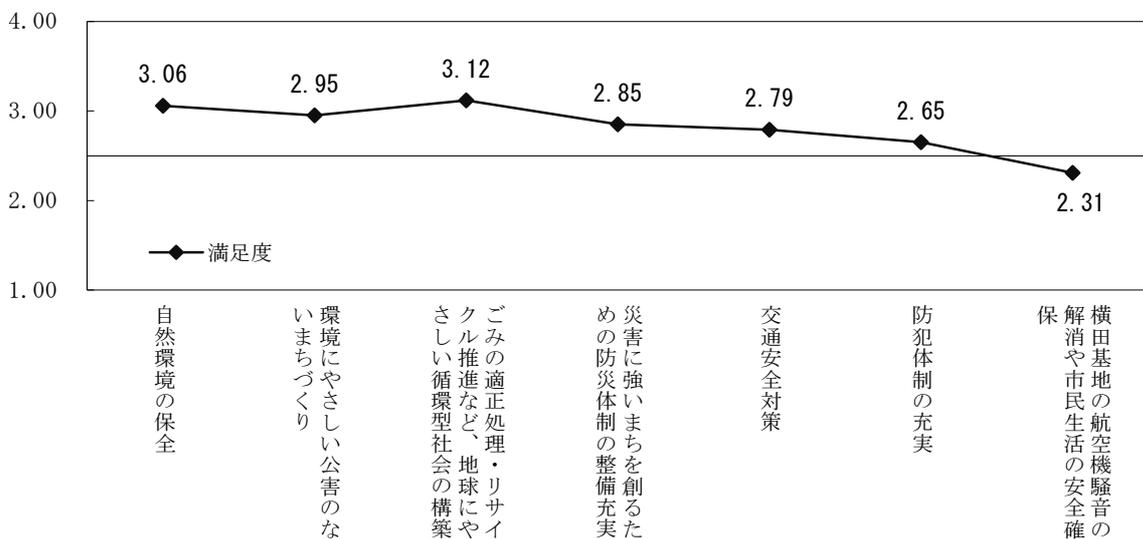
「支えあい いきいきと暮らせるまち」では、いずれも中間値を上回っており、その中では“健康づくり施策”が2.90点、“地域福祉”が2.85点と比較的高くなっている。また、“国民年金制度のPR・相談”や“後期高齢者医療制度のPR・相談”は中間値に近い。

◆学びあい豊かな心を育むまち



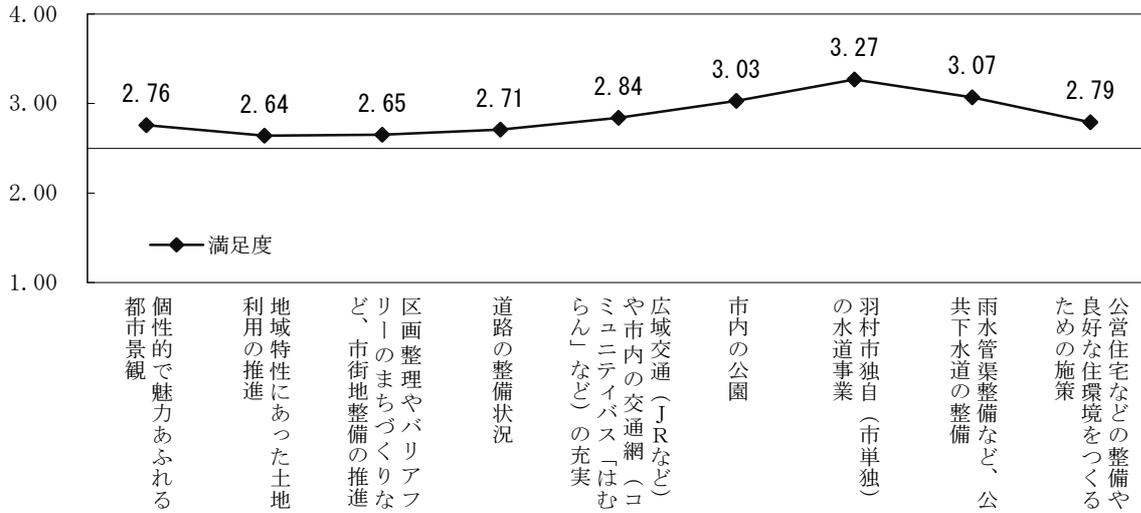
「学びあい豊かな心を育むまち」では、いずれも中間値を上回っている。その中では“生涯学習環境の整備”が3.06点、“スポーツ・レクリエーション活動”が2.96点と高くなっている。

◆環境にやさしい安心して暮らせるまち



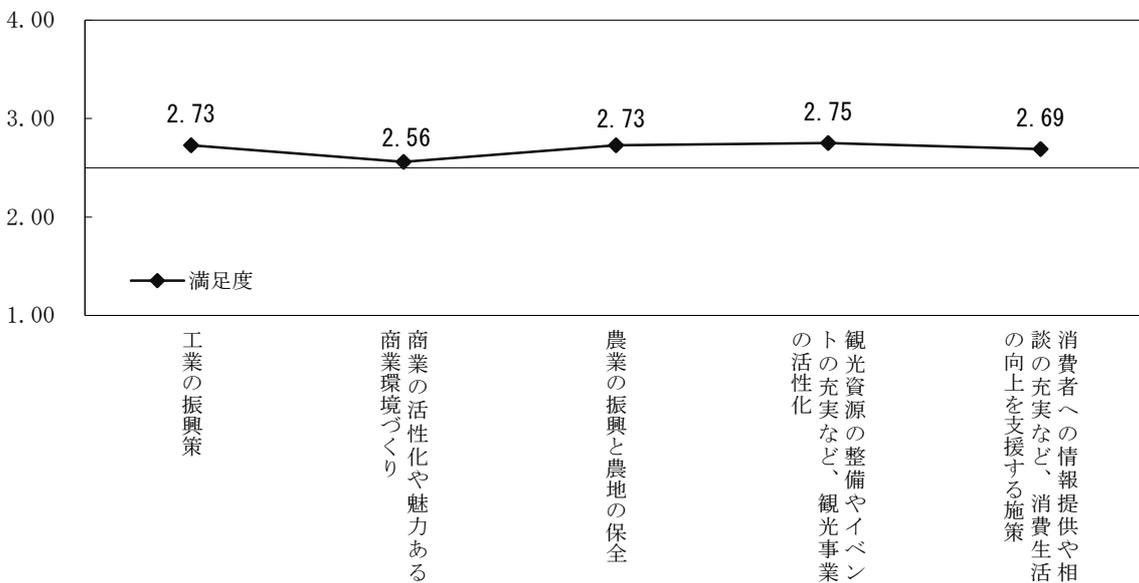
「環境にやさしい安心して暮らせるまち」では、“循環型社会の構築”が3.12点、“自然環境の保全”が3.06点、“公害のないまちづくり”が2.95点と高い満足を示す一方で、“横田基地の騒音解消や市民生活の安全確保”では2.31点と中間値を下回る。

◆美しく快適な住みよいまち



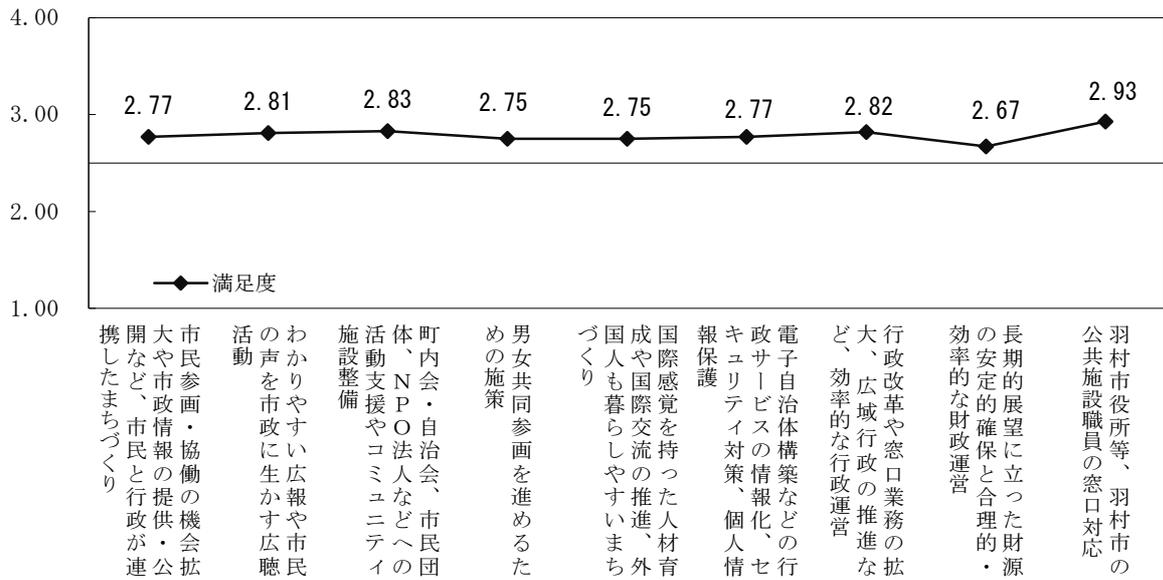
「美しく快適な住みよいまち」では、いずれも中間値を上回っている。その中では“市独自の水道事業”（3.27点），“公共下水道の整備”（3.07点），“市内の公園”（3.03点）はいずれも3点台と満足度が高くなっている。

◆活力に満ちた にぎわいのあるまち



「活力に満ちた にぎわいのあるまち」では、いずれも中間値を上回っているものの全体的には平均的な評価となっている。

◆基本構想を推進するために

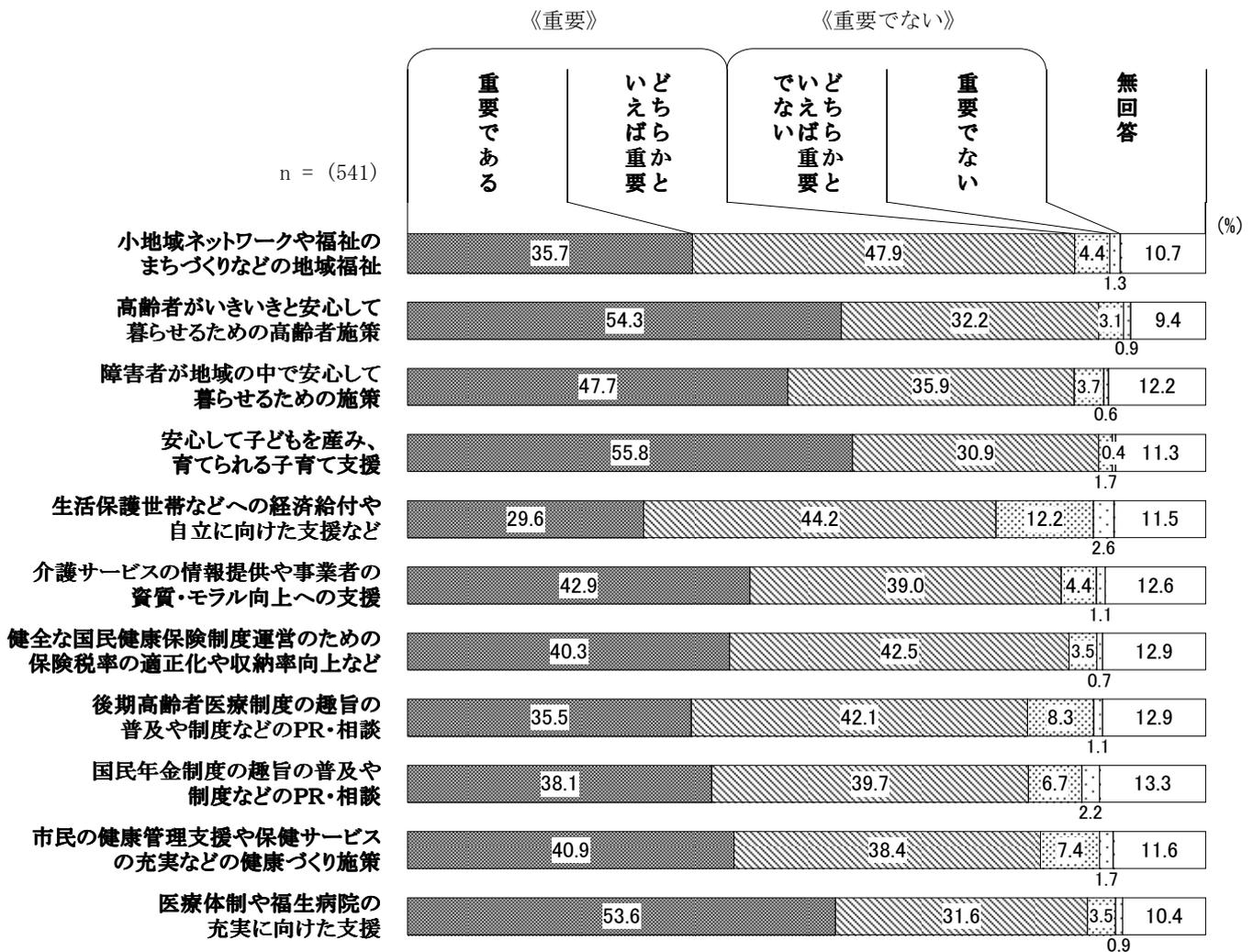


「基本構想を推進するために」では、いずれも中間値を上回っている。その中では“職員の窓口対応”が2.93点のほか、“各種団体への活動支援やコミュニティ施設整備”（2.83点）、“効率的な行政運営”（2.82点）、“広聴活動”（2.81点）など比較的満足度の高い項目が多い。

(2) 市の施策に対する重要度

問3 羽村市では、第四次長期総合計画において、市の将来像を「～ひとに心 まちに風～いきいき生活・しあわせ実感都市はむら」と定め、5つの基本目標のもとに様々な施策に取り組んでいます。以下の各項目について、重要度のあてはまるものを、それぞれ1つ選び、○をつけてください。

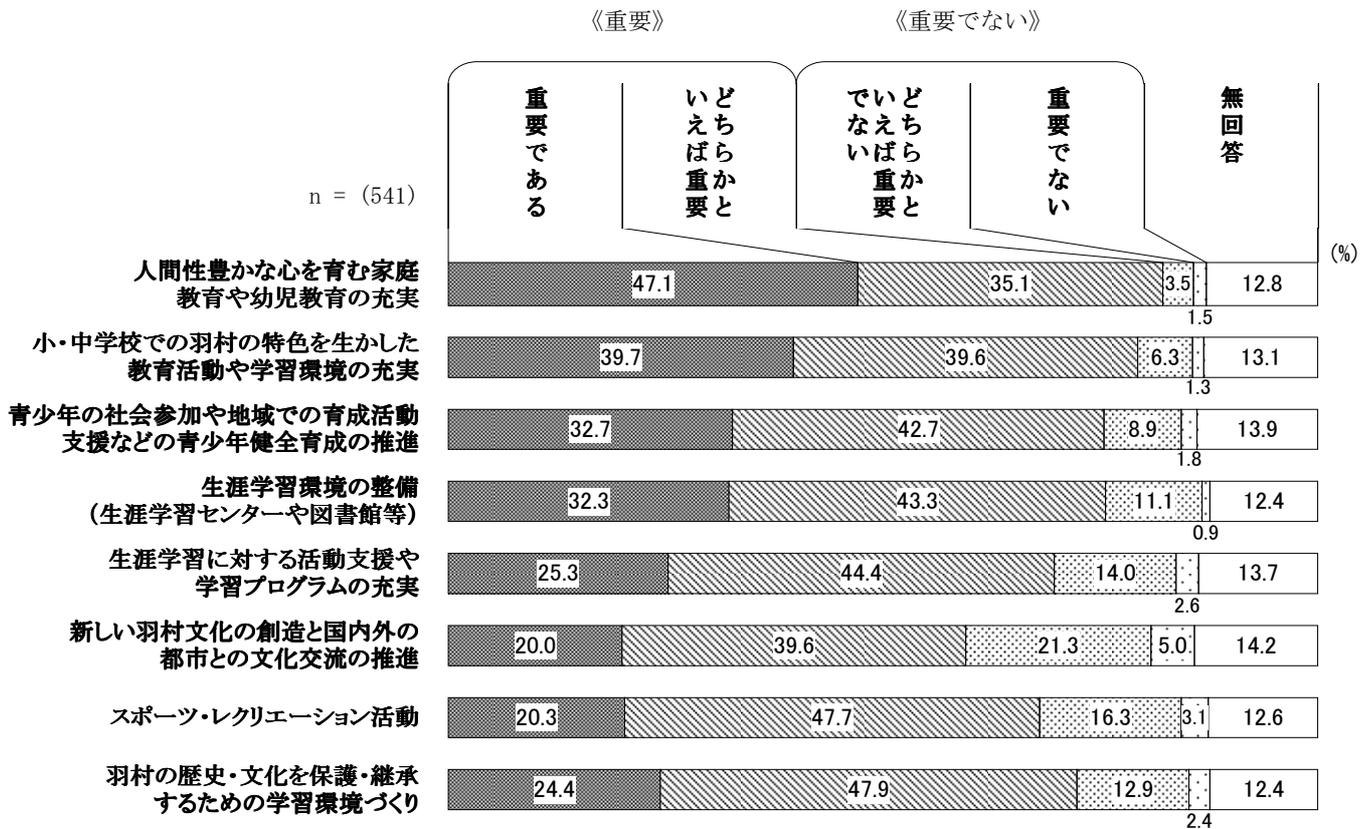
【支えあい いきいきと暮らせるまち】



基本目標【支えあい いきいきと暮らせるまち】の《重要》（「重要である」＋「どちらかといえば重要」）の割合は、いずれの項目も7割台から8割台と多くなっている。

一方、《重要でない》（「重要でない」＋「どちらかといえば重要でない」）では、“生活保護世帯などへの経済給付や自立に向けた支援など”が14.8%であるほかは1割以下となっている。

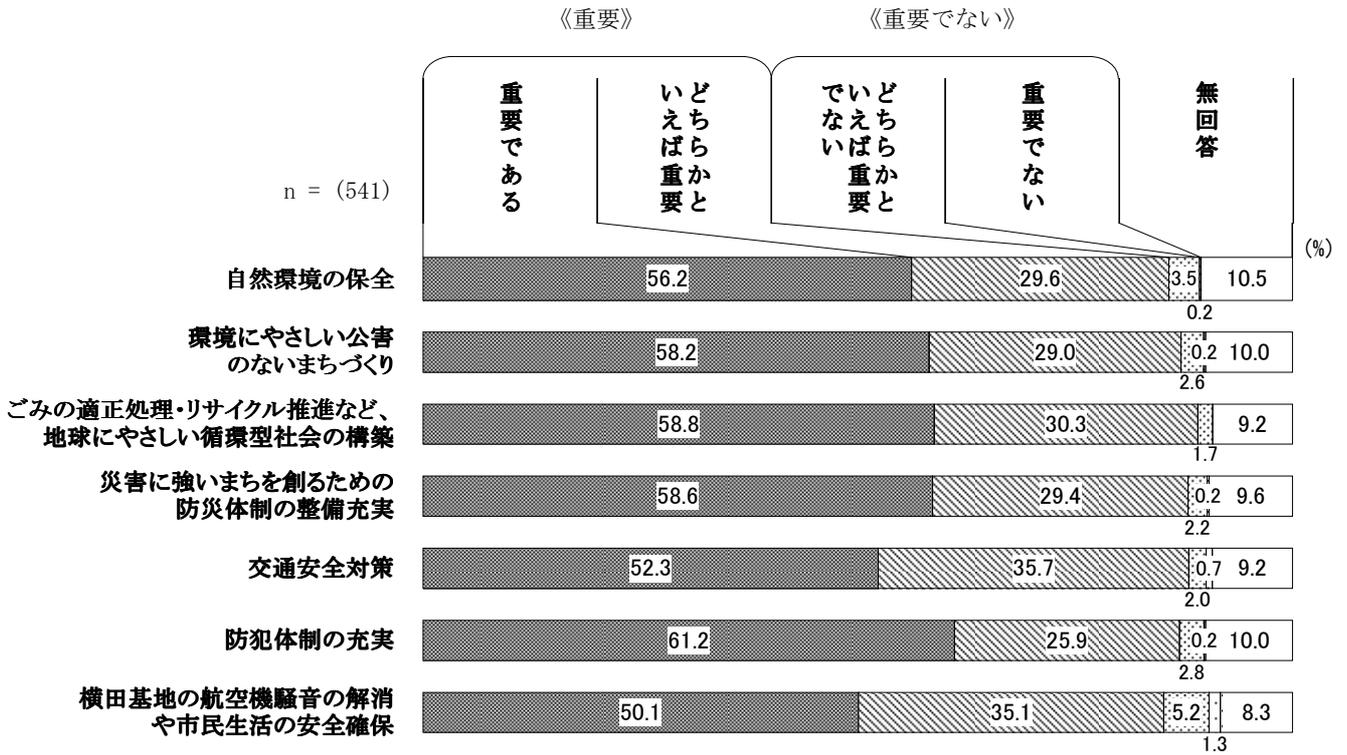
【学びあい豊かな心を育むまち】



基本目標【学びあい豊かな心を育むまち】の《重要》では、“人間性豊かな心を育む家庭教育や幼児教育の充実”（82.2%）、“小・中学校での羽村の特色を生かした教育活動や学習環境の充実”（79.3%）が8割前後と多くなっている。

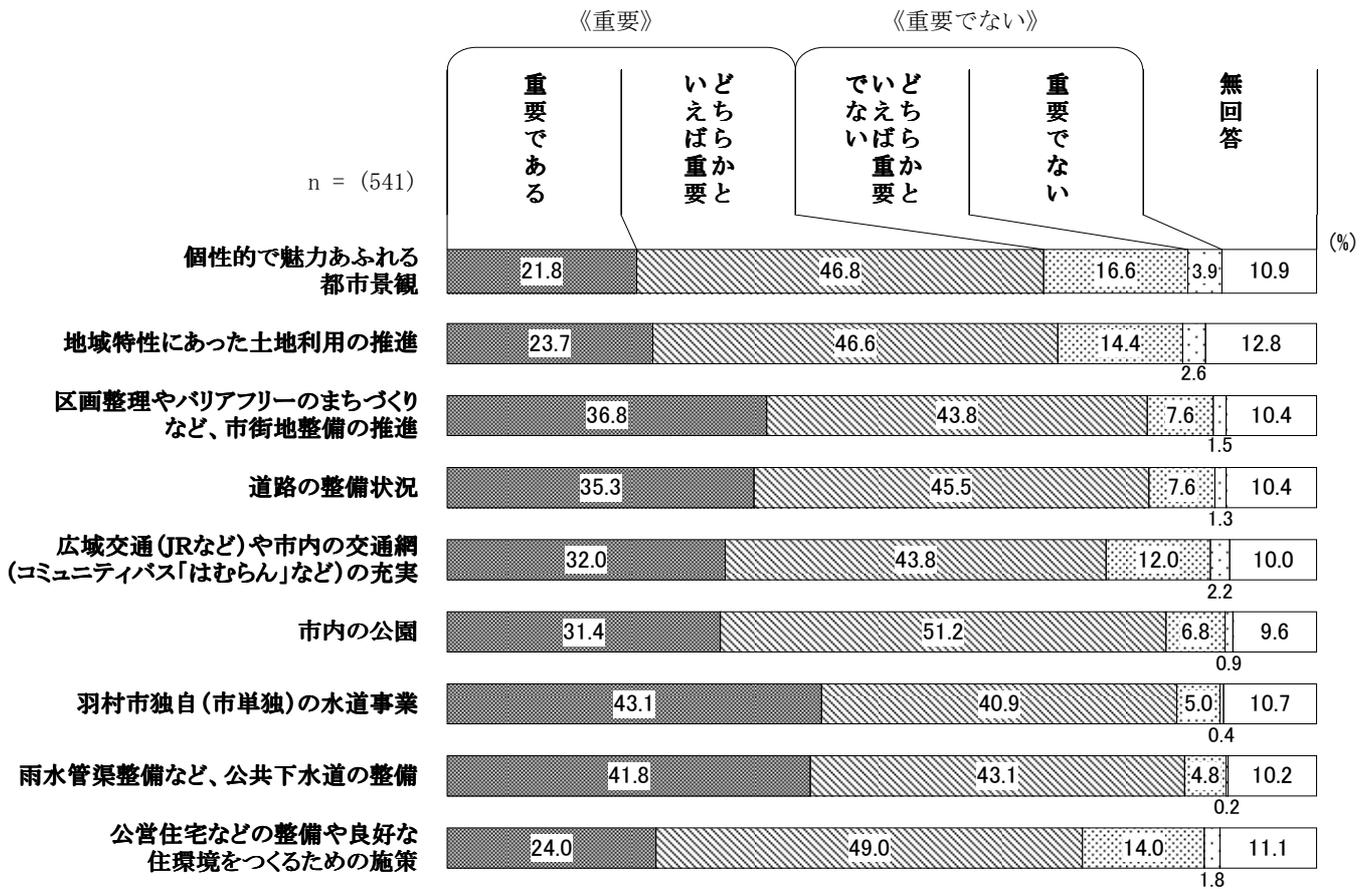
一方、《重要でない》では、“新しい羽村文化の創造と国内外の都市との文化交流の推進”で26.3%、“スポーツ・レクリエーション活動”で19.4%と比較的多い。

【環境にやさしい安心して暮らせるまち】



基本目標【環境にやさしい安心して暮らせるまち】の《重要》では、いずれの項目も8割台と高く、《重要でない》は1割以下となっている。

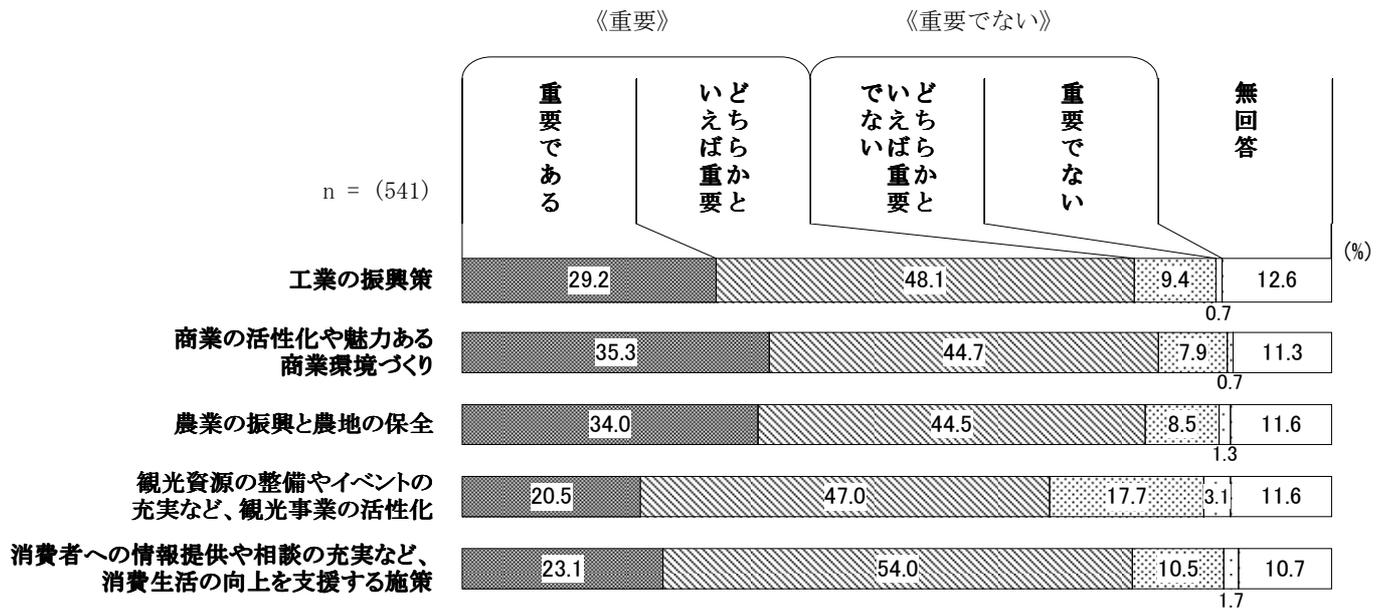
【美しく快適な住みよいまち】



基本目標【美しく快適な住みよいまち】の《重要》では、“雨水管渠整備など、公共下水道の整備”（84.9%）、“羽村市独自（市単独）の水道事業”（84.0%）、“市内の公園”（82.6%）、“道路の整備状況”（80.8%）、“区画整理やバリアフリーのまちづくりなど、市街地整備の推進”（80.6%）が8割台と多く、それ以外の項目でも6割以上となっている。

一方、《重要でない》では、“個性的で魅力あふれる都市景観”で20.5%と比較的多い。

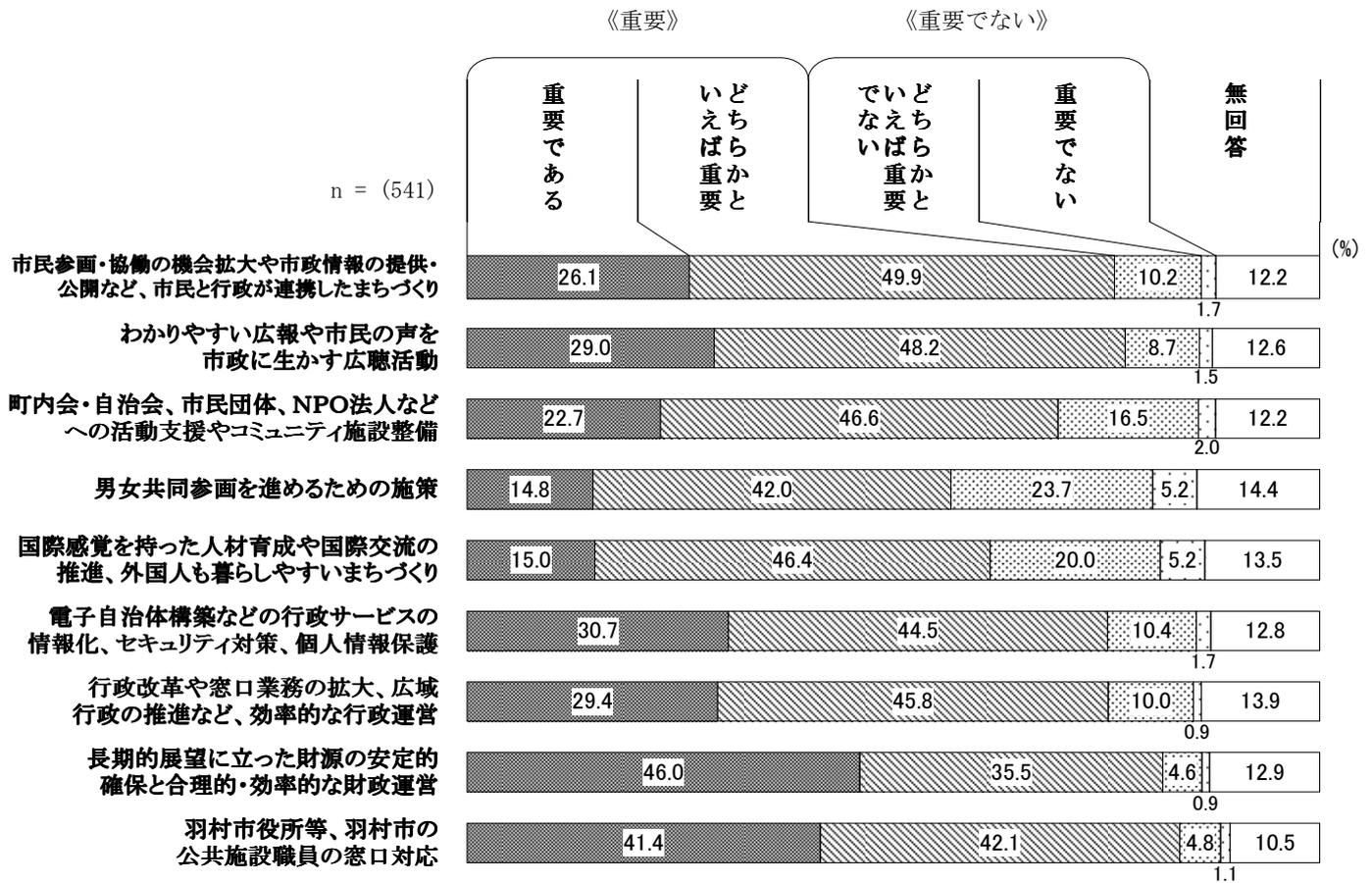
【活力に満ちた にぎわいのあるまち】



基本目標【活力に満ちた にぎわいのあるまち】の《重要》では、“商業の活性化や魅力ある商業環境づくり”が80.0%と多く、それ以外の項目でも6割台から7割台となっている。

一方、《重要でない》では、“観光資源の整備やイベントの充実など、観光事業の活性化”が20.8%と比較的多くなっている。

【基本構想を推進するために】



基本目標【基本構想を推進するために】の《重要》では、“羽村市役所等、羽村市の公共施設職員の窓口対応”（83.5%）、“長期的展望に立った財源の安定的確保と合理的・効率的な財政運営”（81.5%）が8割台と多く、“わかりやすい広報や市民の声を市政に生かす広聴活動”（77.2%）、“市民参画・協働の機会拡大や市政情報の提供・公開など、市民と行政が連携したまちづくり”（76.0%）、“電子自治体構築などの行政サービスの情報化、セキュリティ対策、個人情報保護”、“行政改革や窓口業務の拡大、広域行政の推進など、効率的な行政運営”（ともに75.2%）なども7割台と多くなっている。

一方、《重要でない》では、“男女共同参画を進めるための施策”（28.9%）、“国際感覚を持った人材育成や国際交流の推進、外国人も暮らしやすいまちづくり”（25.2%）が2割台で比較的多くなっている。

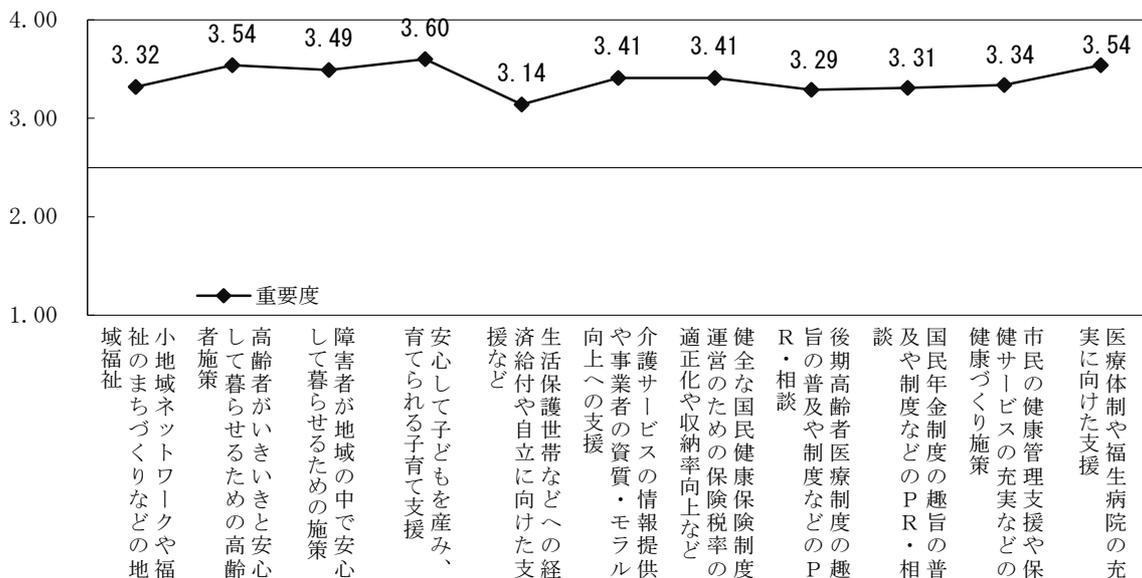
各項目間の比較をより単純にするために、下記の計算式のように、4段階の評価に点数を与え、各項目の平均評価点を算出した。

算出方法

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「重要である」の回答数} \times 4 \text{点} \\ \text{「どちらかといえば重要」の回答数} \times 3 \text{点} \\ \text{「どちらかといえば重要でない」の回答数} \times 2 \text{点} \\ \text{「重要でない」の回答数} \times 1 \text{点} \end{array}}{\text{回答者数 (無回答を除く)}}$$

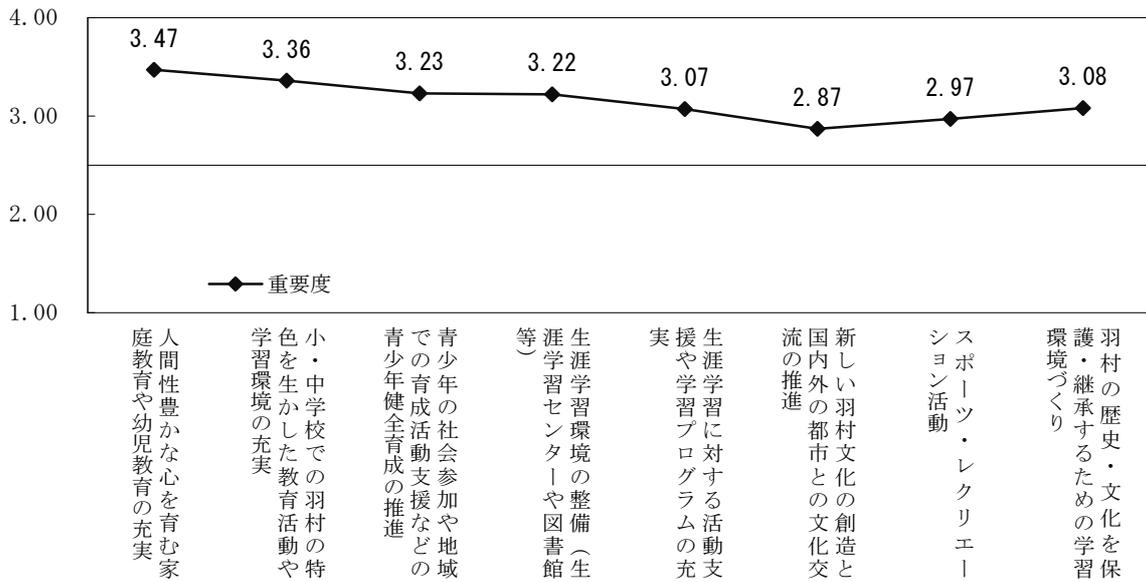
この算出方法では、評価点は4.00点から1.00点の間に分布し、2.50点が中間値である。4.00点に近いほど評価は高く、逆に1.00点に近いほど評価は低いことになる。

◆支えあい いきいきと暮らせるまち



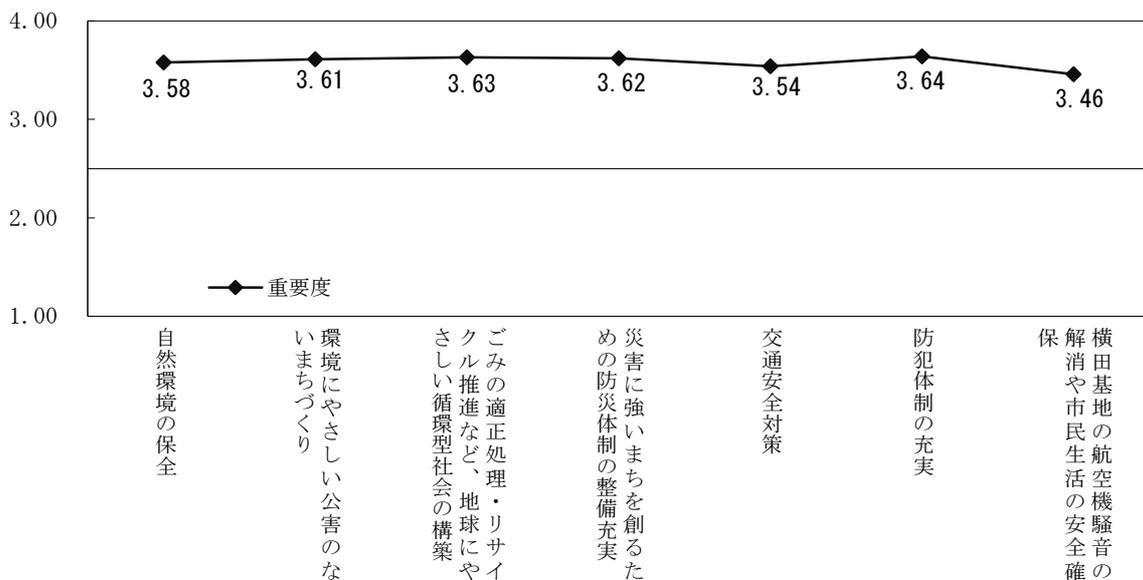
「支えあい いきいきと暮らせるまち」では、いずれの項目も3点台と高くなっている。その中では“子育て支援”（3.60点），“高齢者施策”、“医療体制や福生病院の支援”（ともに3.54点）の重要度が高くなっている。

◆学びあい豊かな心を育むまち



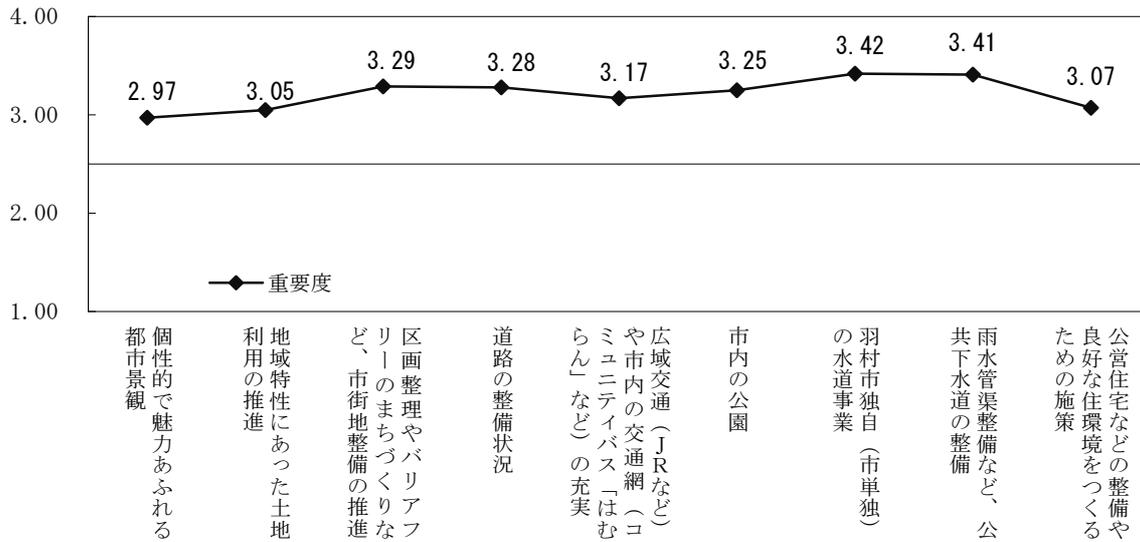
「学びあい豊かな心を育むまち」では、特に“家庭教育や幼児教育”、“教育活動や学習環境の充実”での重要度が高い。一方、“スポーツ・レクリエーション活動”、“文化交流の推進”は3.00点を下回り、比較的低くなっている。

◆環境にやさしい安心して暮らせるまち



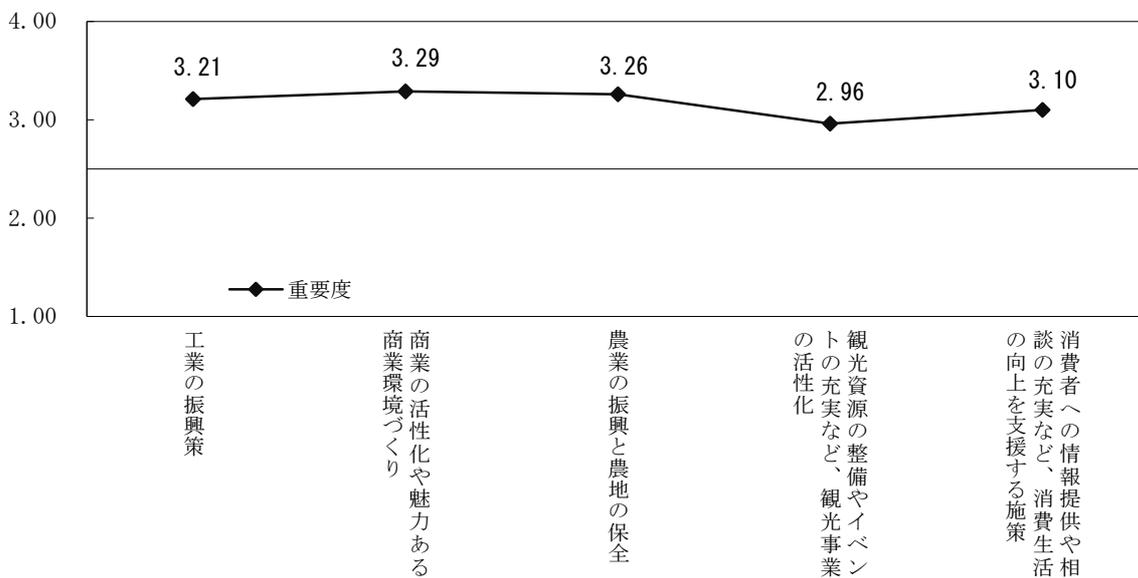
「環境にやさしい安心して暮らせるまち」では、全体的に重要度の高い項目が多く、3.5点付近に集中している。

◆美しく快適な住みよいまち



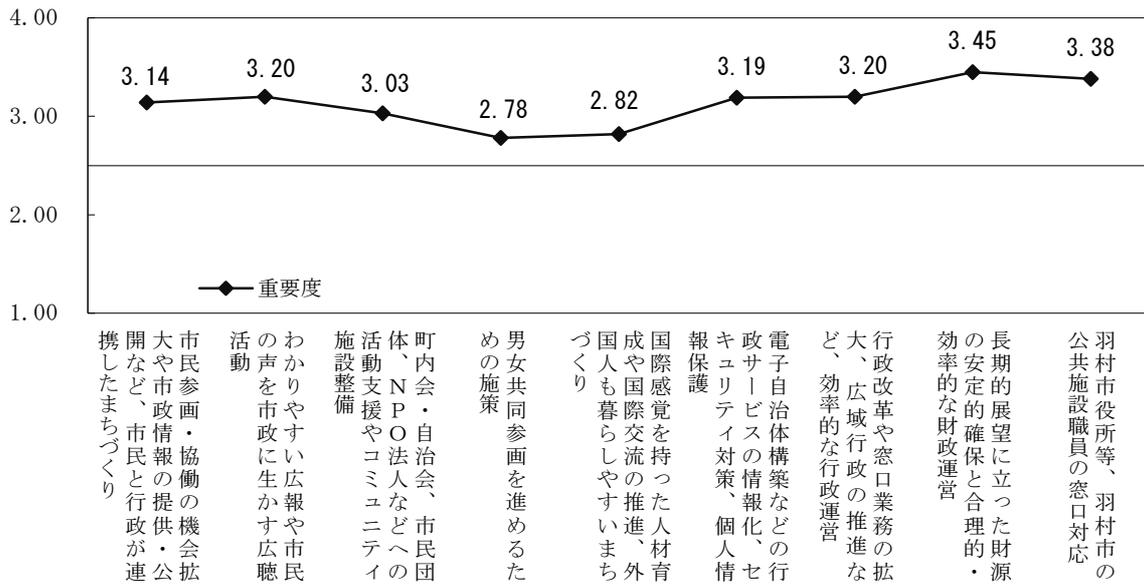
「美しく快適な住みよいまち」では、“市独自の水道事業”（3.42点）、“雨水管渠整備など、公共下水道の整備”（3.41点）の重要度が高い。一方、“都市景観”は2.97点と他の項目より低い結果となっている。

◆活力に満ちた にぎわいのあるまち



「活力に満ちた にぎわいのあるまち」では、“商業活性化や商業環境づくり”（3.29点）、“農業振興と農地保全”（3.26点）の重要度が高い。一方、“観光事業の活性化”は2.96点と他の項目より低い結果となっている。

◆基本構想を推進するために



基本目標の「基本構想を推進するために」は、「財源確保と財政運営」が3.45点、「職員の窓口対応」が3.38点と高くなっている。一方、「男女共同参画推進施策」（2.78点）や「国際交流の推進、外国人も暮らしやすいまちづくり」（2.82点）では他の項目より低い結果となっている。

■現状評価（満足度）、重要度のプロット図■

各項目を相対的に評価するため、満足度を横軸に、重要度を縦軸にとり平均値を境として4つの領域に分類した。

4つの領域の特性は、以下のようになる。

A 重要度が平均値より高く、満足度が平均値より低い項目

グラフ左上のAゾーンに位置する項目は、とくに施策の推進や改善に対する市民のニーズが高く、優先課題に位置づけられる。

B 重要度、満足度ともに平均値より高い項目

グラフ右上のBゾーンに位置する項目は、現在の取り組みにも満足している市民が多いが、重要度も高いことから、今後更なる期待がされていると考えられる。

《重要度》	<p>《Aゾーン》</p> <p>重要度：平均値より高い 満足度：平均値より低い</p>	<p>《Bゾーン》</p> <p>重要度：平均値より高い 満足度：平均値より高い</p>
	<p>《Cゾーン》</p> <p>重要度：平均値より低い 満足度：平均値より低い</p>	<p>《Dゾーン》</p> <p>重要度：平均値より低い 満足度：平均値より高い</p>
	《満足度》	

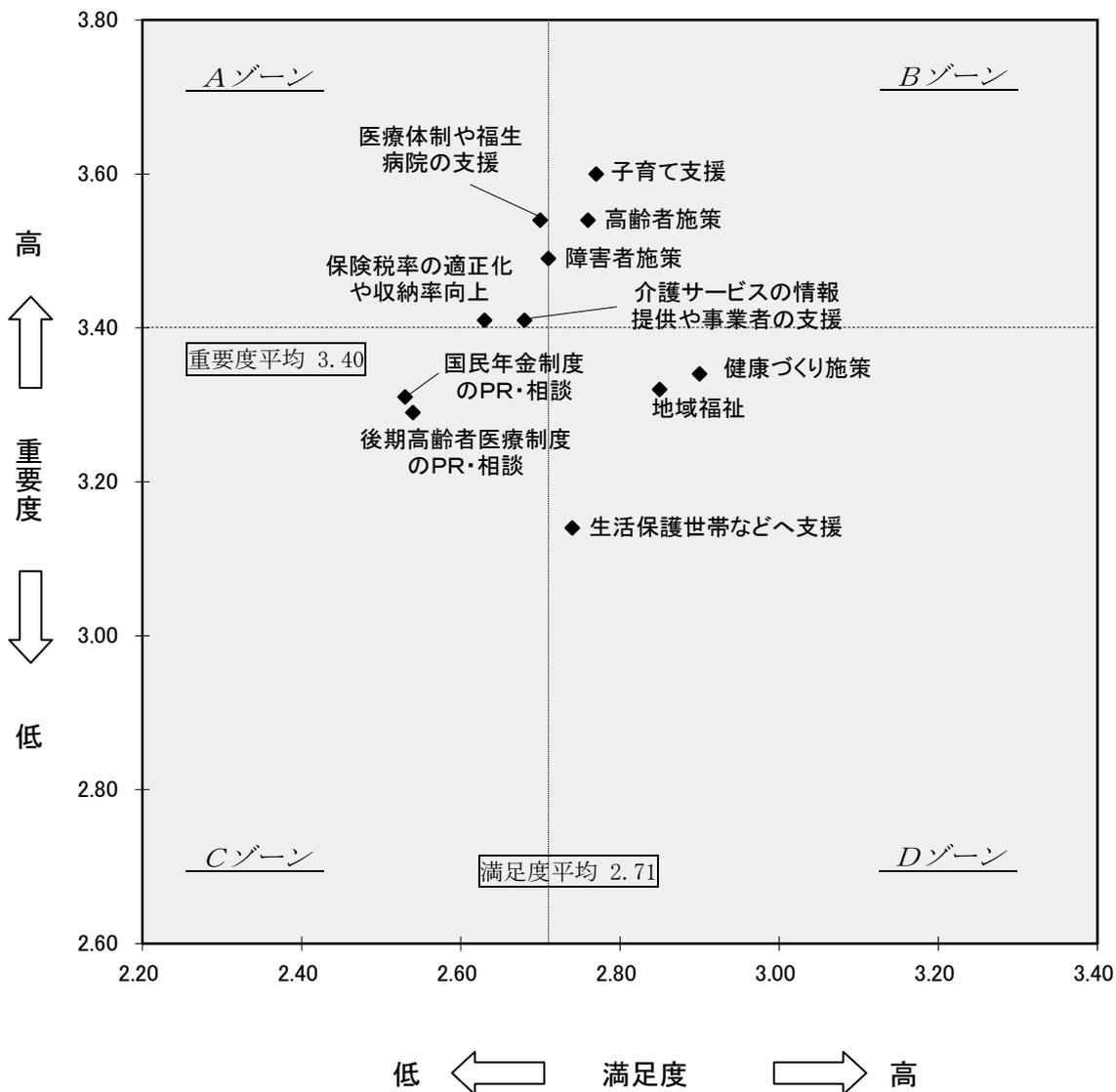
C 重要度、満足度ともに平均値より低い項目

グラフ左下のCゾーンに位置する項目は、満足度の向上を目指しつつも、施策実施の方法や周知の方法などについても検討が必要な項目と考えられる。

D 重要度が平均値より低く、満足度が平均値より高い項目

グラフ右下のDゾーンに位置する項目は、現状の取り組みには満足している項目であり、現状維持が求められていると考えられる。

◆支えあい いきいきと暮らせるまち



A：満足度が低く、重要度が高い項目

“医療体制や福生病院の支援”、“保険税率の適性化や収納率向上”、“介護サービスの情報提供や事業者の支援”が位置づけられる。特に“医療体制や福生病院の支援”の重要度が高くなっている。

B：満足度も重要度も高い項目

“子育て支援”、“高齢者施策”は満足度以上に、重要度の高さが特徴的である。

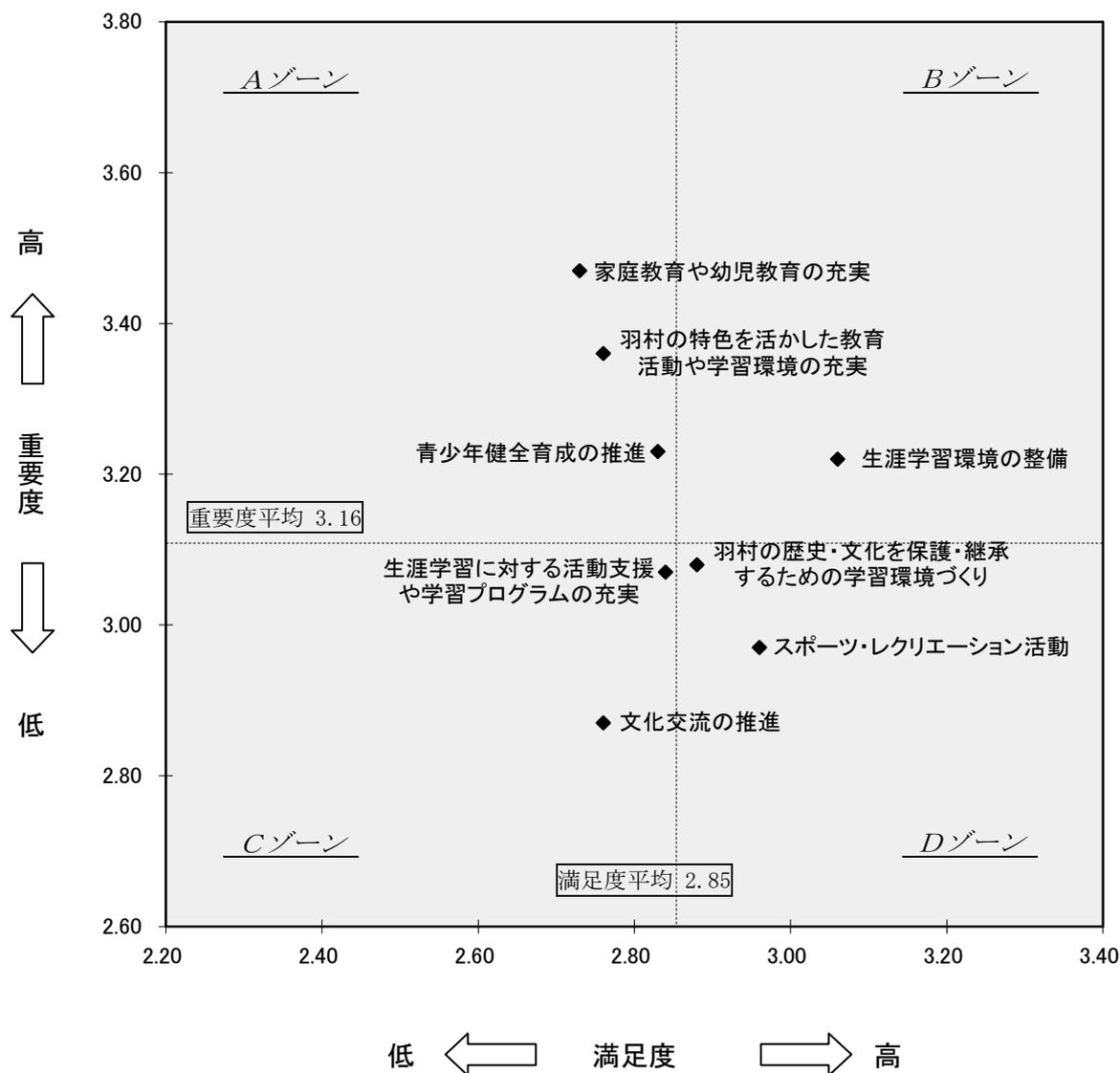
C：満足度も重要度も低い項目

際立って、満足度、重要度ともに低い項目はないが、ここでは“国民年金制度のPR・相談”や“後期高齢者医療制度のPR・相談”が位置づけられる。

D：満足度が高く、重要度が低い項目

“健康づくり施策”、“地域福祉”が位置づけられる。“生活保護世帯などへの支援”は中間的な評価となっている。

◆学びあい豊かな心を育むまち



A：満足度が低く、重要度が高い項目

“家庭教育や幼児教育の充実”、“羽村の特色を活かした教育活動や学習環境の充実”では重要度が特に高くなっている。

B：満足度も重要度も高い項目

“生涯学習環境の整備”は満足度、重要度も高くなっている。

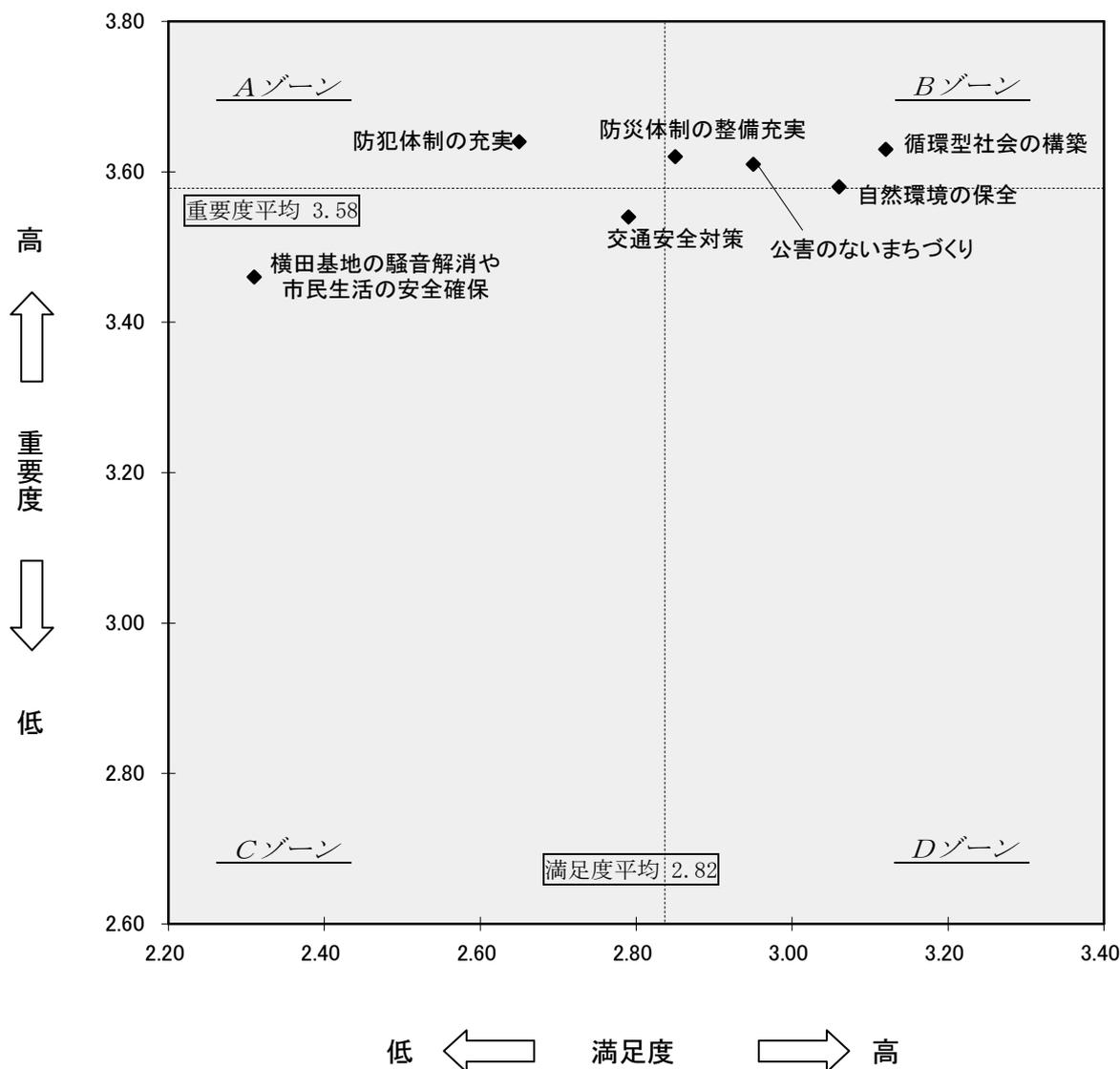
C：満足度も重要度も低い項目

“文化交流の推進”では重要度が特に低くなっている。

D：満足度が高く、重要度が低い項目

“スポーツ・レクリエーション活動”が位置づけられる。

◆環境にやさしい安心して暮らせるまち



A：満足度が低く、重要度が高い項目

“防犯体制の充実”が位置づけられる。

B：満足度も重要度も高い項目

“循環型社会の構築”、“公害のないまちづくり”は満足度が比較的高く、ここに位置づけられる。

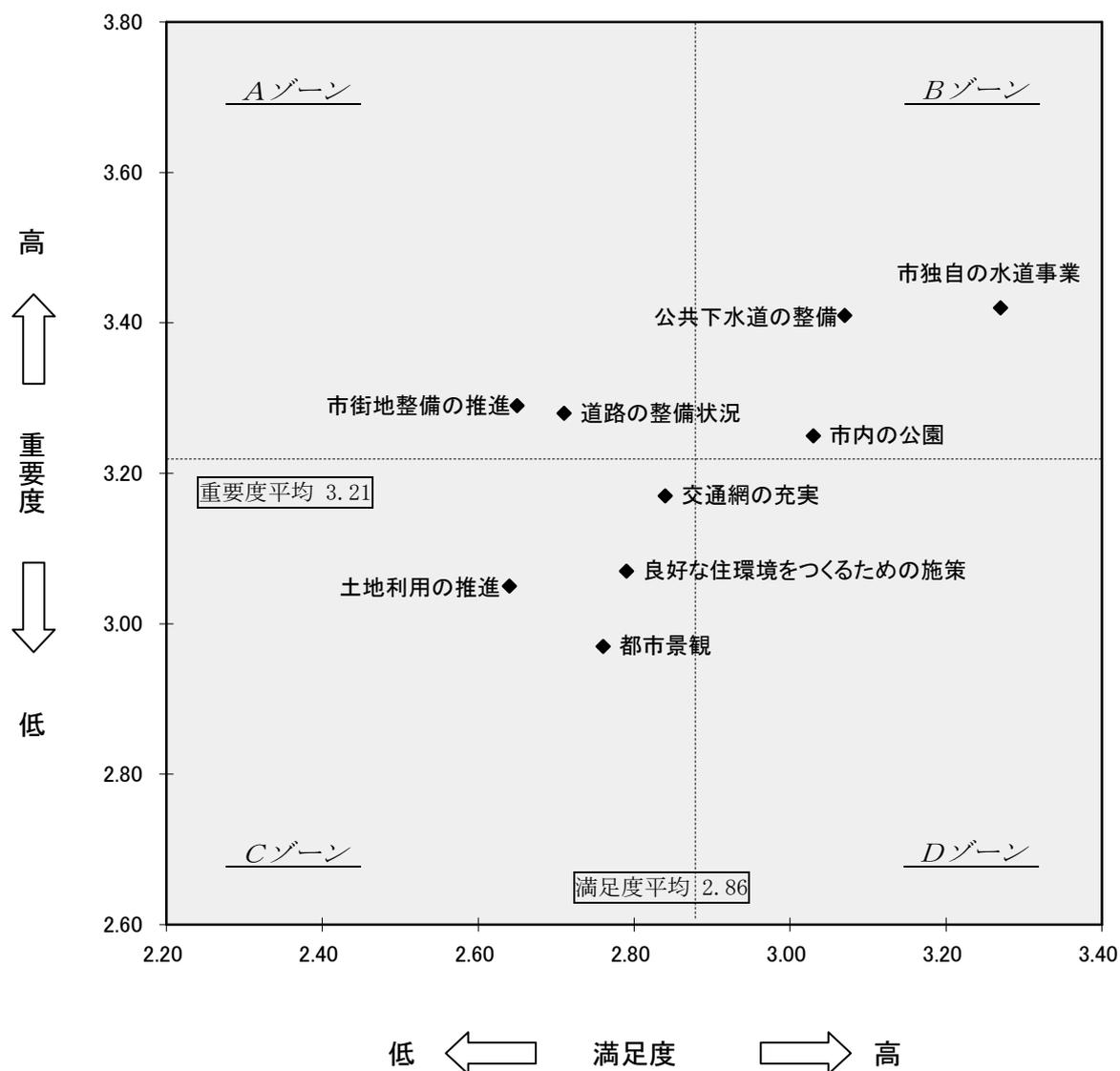
C：満足度も重要度も低い項目

特に“横田基地の騒音解消や市民生活の安全確保”の満足度の低さが目立っている。

D：満足度が高く、重要度が低い項目

このゾーンに該当する項目はみられない。

◆美しく快適な住みよいまち



A：満足度が低く、重要度が高い項目

“市街地整備の推進”と“道路の整備状況”が位置づけられる。

B：満足度も重要度も高い項目

“市独自の水道事業”、“公共下水道の整備”は満足度、重要度とも特に高くなっている。

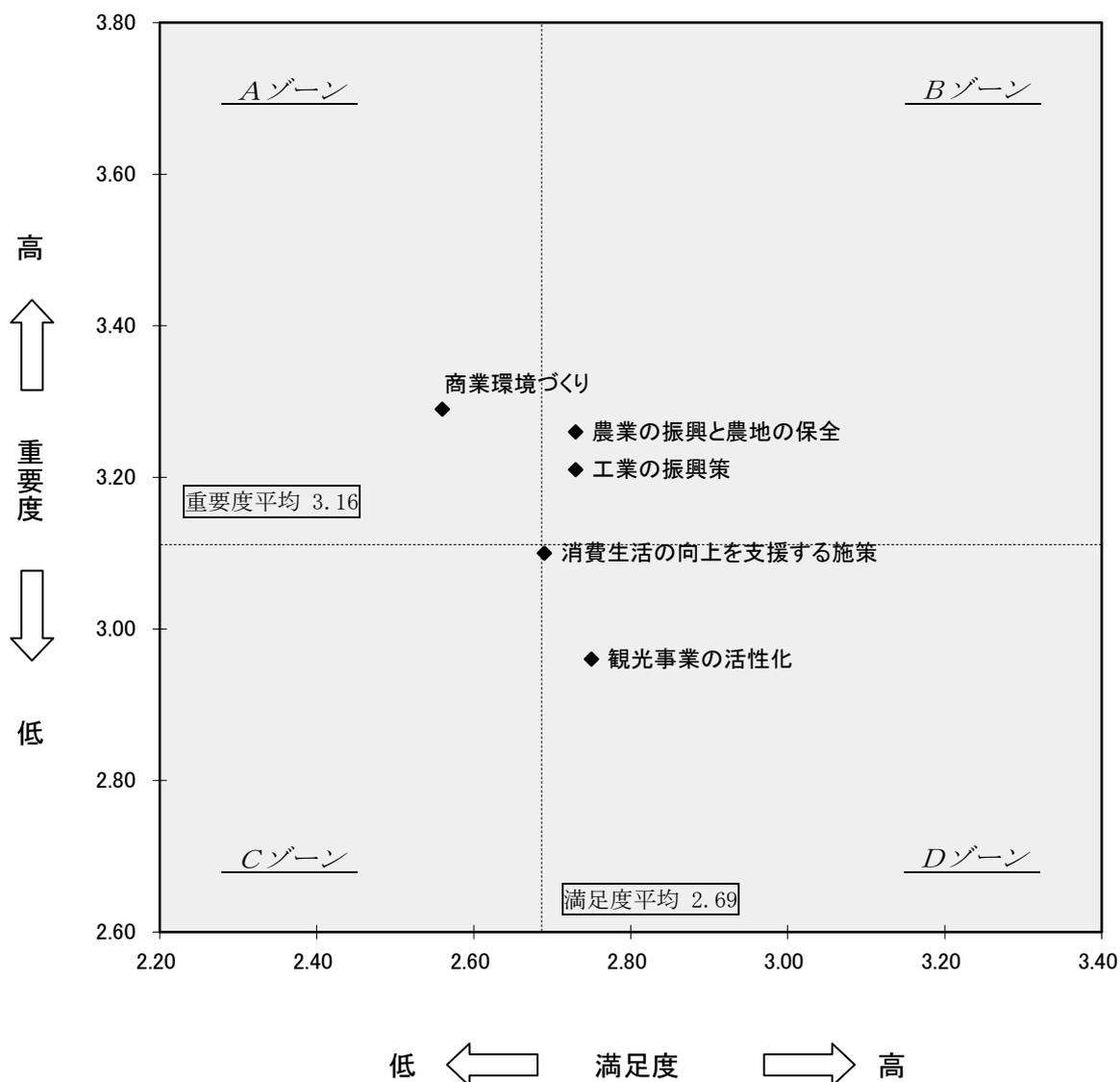
C：満足度も重要度も低い項目

“土地利用の推進”の満足度が低い。“都市景観”は満足度は平均に近いが、重要度が低くなっている。

D：満足度が高く、重要度が低い項目

このゾーンに該当する項目はみられない。

◆活気に満ちた にぎわいのあるまち



A：満足度が低く、重要度が高い項目

“商業環境づくり”の満足度が低く、この領域に位置づけられる。

B：満足度も重要度も高い項目

際だって、満足度、重要度の高い項目はみられないが、その中では“農業の振興と農地の保全”と“工業の振興策”が位置づけられる。

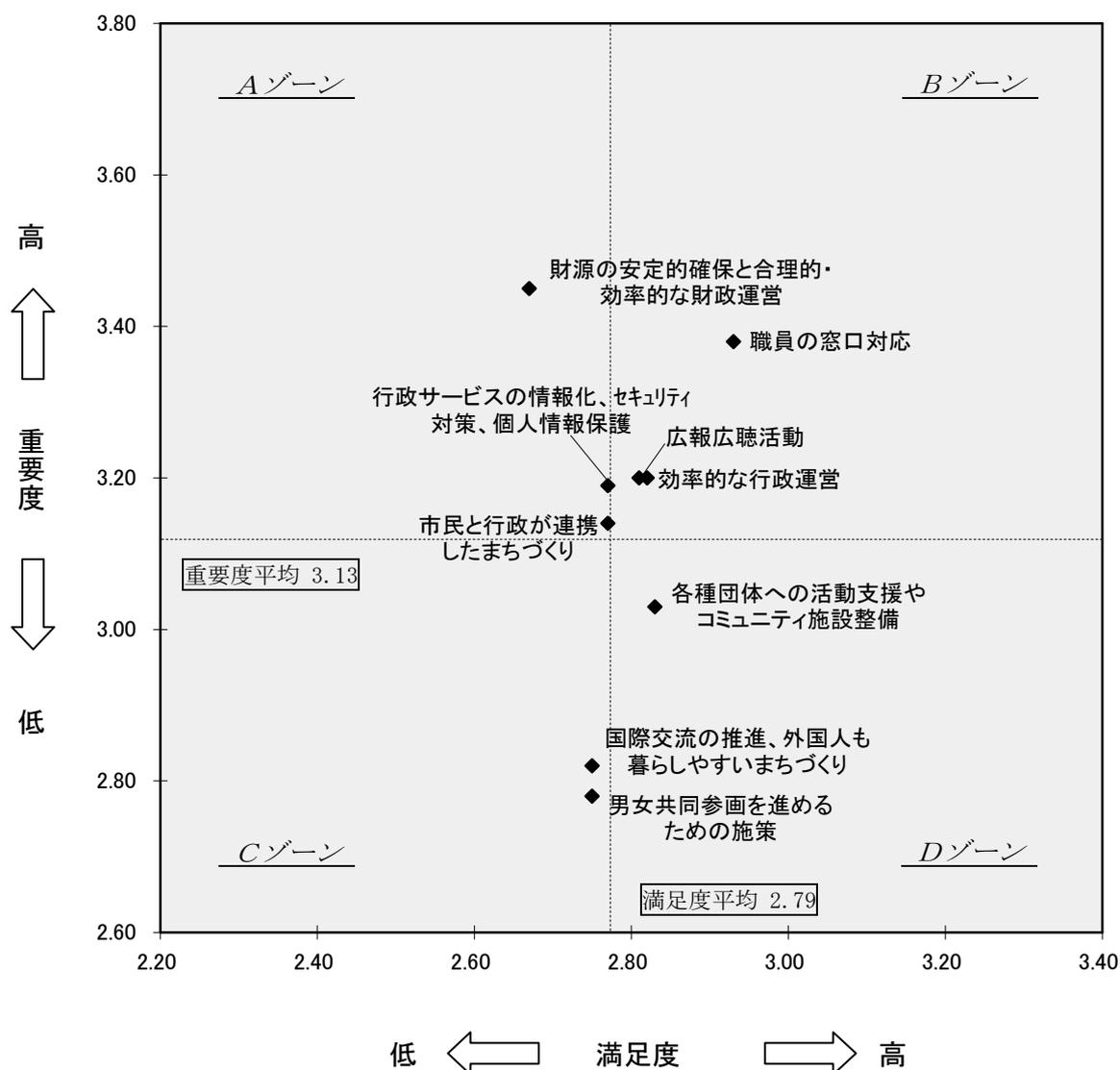
C：満足度も重要度も低い項目

このゾーンに該当する項目はみられない。

D：満足度が高く、重要度が低い項目

“観光事業の活性化”は満足度は平均的だが、重要度が低くここに位置づけられる。

◆基本構想を推進するために



A：満足度が低く、重要度が高い項目

“財源の安定的確保と合理的・効率的な財政運営”の重要度が特に高くなっている。

B：満足度も重要度も高い項目

“職員の窓口対応”は満足度、重要度ともに特に高くなっている。

C：満足度も重要度も低い項目

“男女共同参画を進めるための施策”、“国際交流の推進、外国人も暮らしやすいまちづくり”は満足度は平均的なためDゾーンに近いが、ここに位置づけられる。

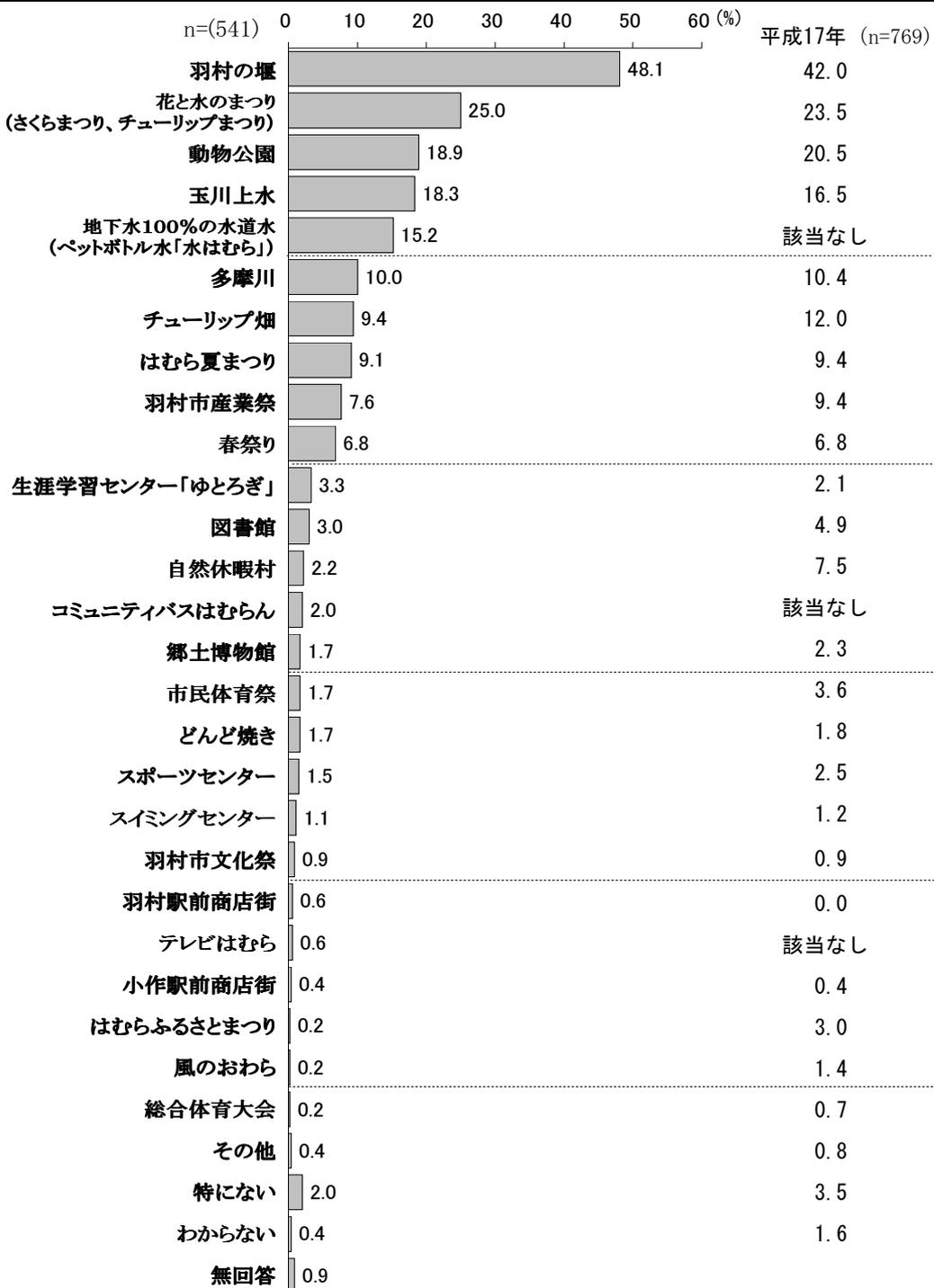
D：満足度が高く、重要度が低い項目

満足度、重要度ともに平均的だが、“各種団体への活動支援やコミュニティ施設整備”が位置づけられる。

3. 羽村市の魅力・羽村らしさ

(1) 魅力や羽村らしさを感じる市の施設や行事

問4 羽村市の施設や行事の中で、あなたが魅力や羽村らしさを感じるものはどれですか。次の中から2つまで選んでください。(〇は2つまで)



* 「はむら夏まつり」は、前回調査では「夏祭り」／「羽村市産業祭」は、前回調査では「産業祭」／「羽村市文化祭」は、前回調査では「市民文化祭」

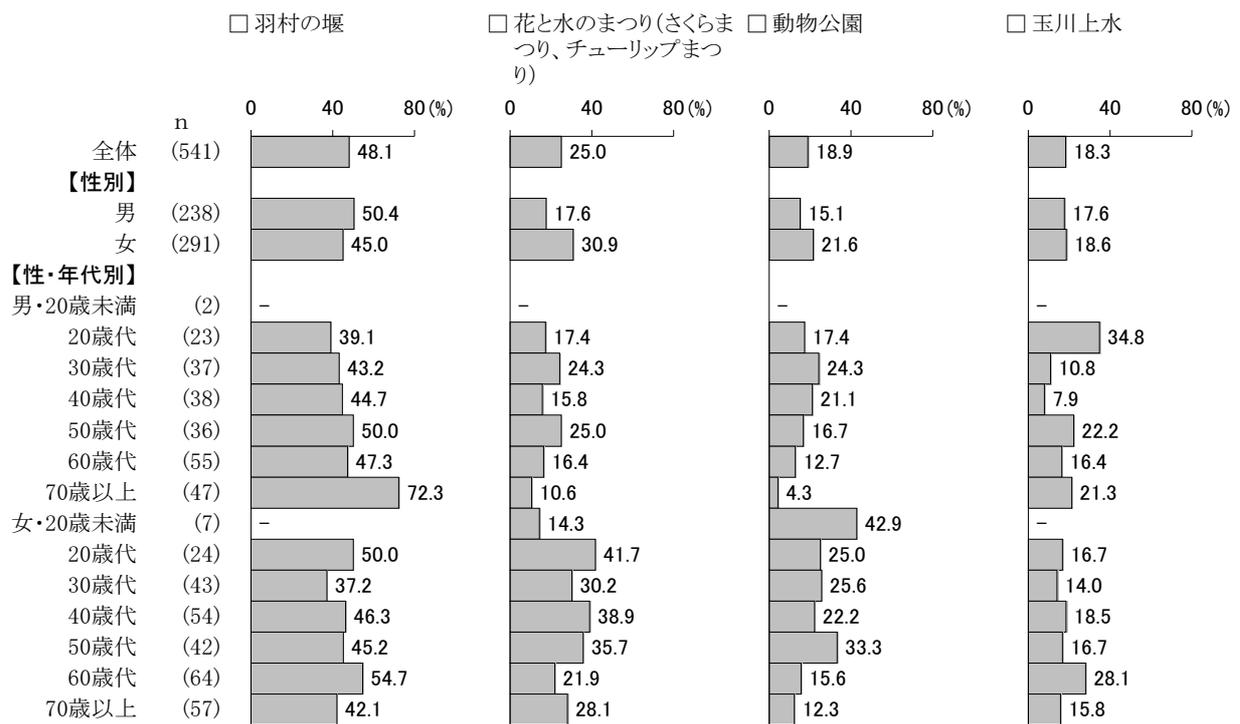
* 「地下水100%の水道水 (ペットボトル水『水はむら』)」、「テレビはむら」、「コミュニティバスはむらん」は今回調査から

* 前回調査の「コミュニティフェスティバル」(0.9%)は、今回調査では該当項目なし

羽村市の施設や行事の中で、魅力や羽村らしさを感じるものは、「羽村の堰」が48.1%で特に多く、以下、「花と水のまつり（さくらまつり、チューリップまつり）」（25.0%）、「動物公園」（18.9%）、「玉川上水」（18.3%）、「地下水100%の水道水（ペットボトル水『水はむら』）」（15.2%）と続いている。

前回調査との比較では特に大きな差はみられないが、「羽村の堰」が6ポイント増加、「自然休暇村」が5ポイント減少となっている。

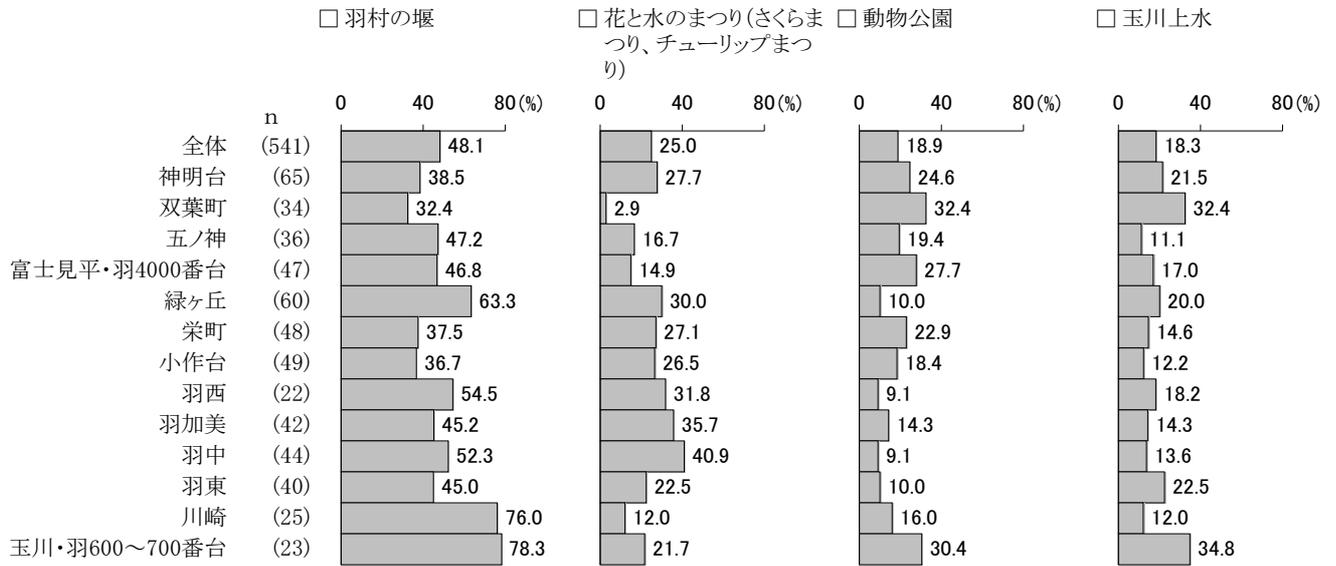
性別、性・年代別（上位4項目）



性別にみると、「花と水のまつり（さくらまつり、チューリップまつり）」で女性（30.9%）が男性（17.6%）を13ポイント、「動物公園」で女性（21.6%）が男性（15.1%）を7ポイント上回り、男性では「羽村の堰」が女性よりやや多い。

性・年代別にみると、「羽村の堰」は男性70歳以上で72.3%と特に多い。この他、男性50歳代、女性60歳代、20歳代でも5割台となるなど、比較的広い年代に受け入れられている。「花と水のまつり（さくらまつり、チューリップまつり）」は女性20歳代で4割強と多く、30歳代から50歳代でも3割台と多いが、男性ではいずれの年代も1割台から2割台となっている。「動物公園」は女性50歳代で33.3%と多く、男性では30歳代の24.3%をピークに年代があがるにつれ割合が少なくなっている。「玉川上水」は男性20歳代で34.8%と多いが年代によってばらつきがみられ、女性では60歳代で28.1%と他の年代より多くなっている。

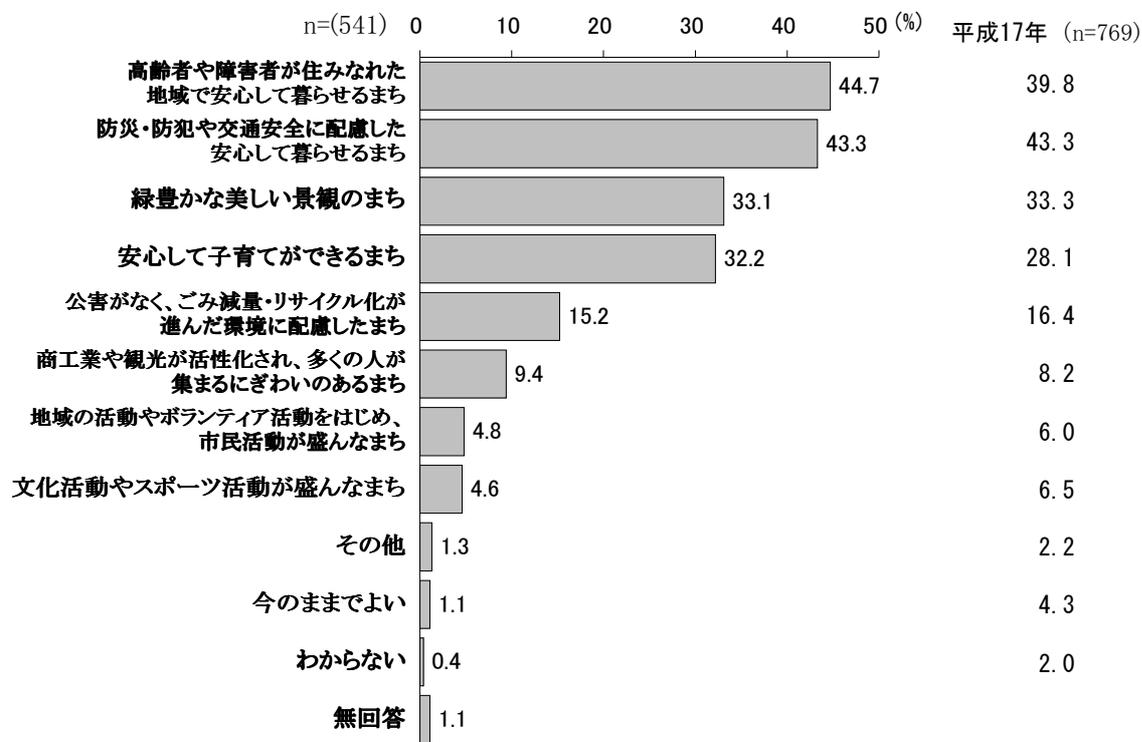
地区・ブロック別（上位4項目）



地区・ブロック別にみると、「羽村の堰」は玉川・羽600～700番台、川崎で7割台と多く、緑ヶ丘でも6割台と多くなっている。「花と水のまつり（さくらまつり、チューリップまつり）」は、羽中で4割、羽加美、羽西、緑ヶ丘で3割台と多くなっている。「動物公園」、「玉川上水」は、玉川・羽600～700番台、双葉町でともに3割台と多くなっている。

(2) 希望する将来の市のまちづくり

問5 将来の羽村市はどのようなまちであってほしいと思いますか。次の中から2つまで選んでください。(○は2つまで)

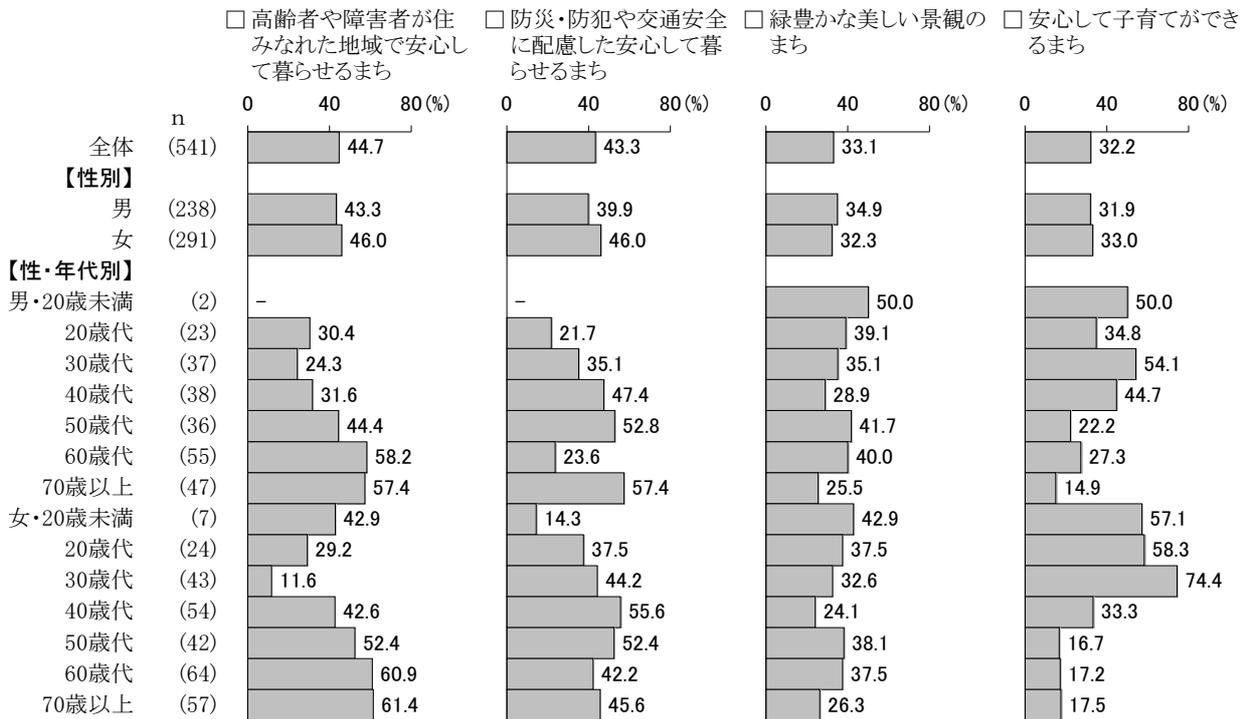


* 「高齢者や障害者が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」は、前回調査では「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」

将来の羽村市がどのようなまちであってほしいかでは、「高齢者や障害者が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」(44.7%)、「防災・防犯や交通安全に配慮した安心して暮らせるまち」(43.3%)の2項目が4割台で多く、これに「緑豊かな美しい景観のまち」(33.1%)、「安心して子育てができるまち」(32.2%)が3割台が続いている。

前回調査との比較では特に大きな差はみられないが、「高齢者や障害者が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」や「安心して子育てができるまち」が前回よりやや増加している。

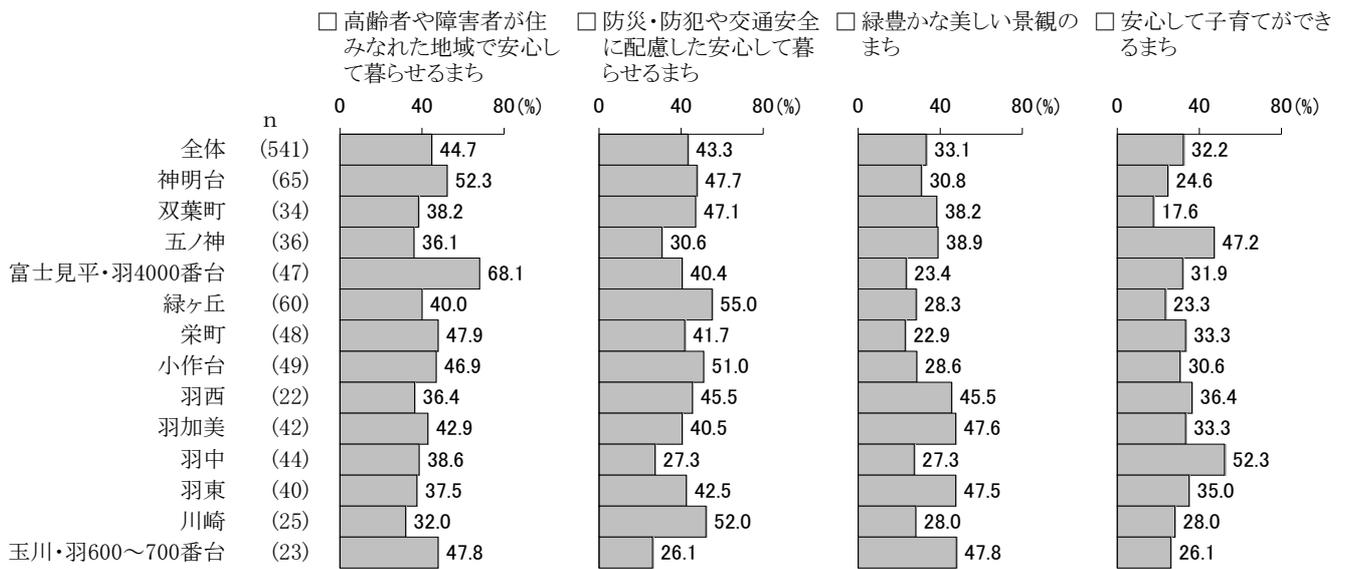
性別、性・年代別（上位4項目）



性別にみると、「防災・防犯や交通安全に配慮した安心して暮らせるまち」は女性（46.0%）が男性（39.9%）をやや上回っている。

性・年代別にみると、「高齢者や障害者が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」は男女とも年代が高いほど割合が多く、男性の60歳代以降で5割台、女性の60歳代以降で6割台となっている。「防災・防犯や交通安全に配慮した安心して暮らせるまち」は男性の70歳以上と50歳代、女性の40歳代から50歳代で5割台と多くなっている。「緑豊かな美しい景観のまち」は男女とも40歳代と70歳以上でやや少ない。「安心して子育てができるまち」は男女とも30歳代を中心に多くなっており、特に女性の30歳代は7割台半ばとなっている。

地区・ブロック別（上位4項目）

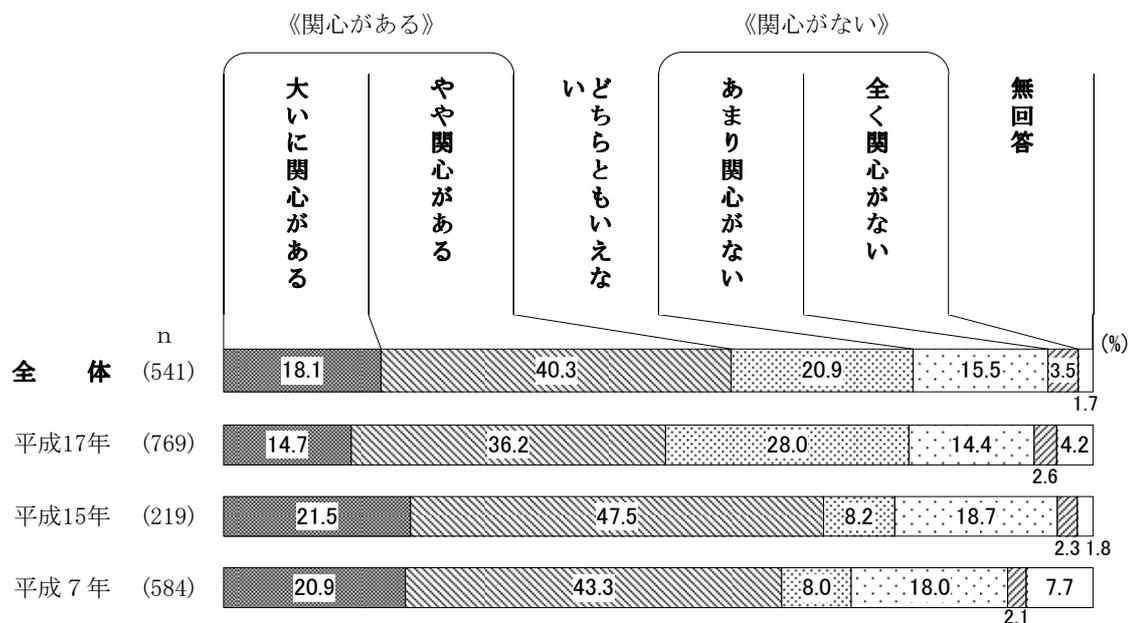


地区・ブロック別にみると、「高齢者や障害者が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」は富士見平・羽4000番台で68.1%と多く、神明台でも5割を超えている。「防災・防犯や交通安全に配慮した安心して暮らせるまち」は緑ヶ丘、川崎、小作台で5割台となっている。「緑豊かな美しい景観のまち」は玉川・羽600～700番台、羽加美、羽東、羽西で4割台となっている。「安心して子育てができるまち」は羽中で半数を超え、五ノ神で4割台となっている。

4. 市政への関心度

(1) 市政への関心度

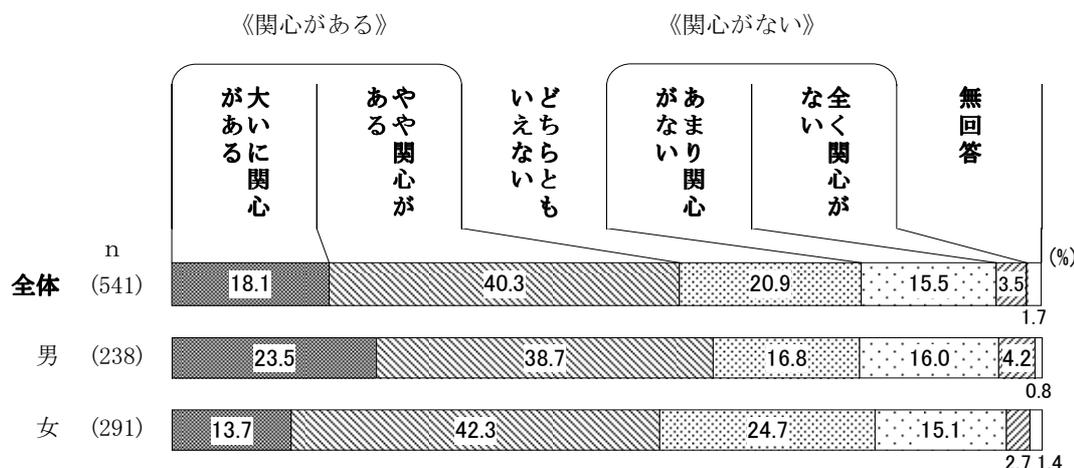
問6 あなたは市政にどの程度関心をもっていますか。次の中から選んでください。(〇は1つ)



市政への関心については、「大いに関心がある」が18.1%、「やや関心がある」が40.3%で、これをあわせた《関心がある》は58.4%となっている。

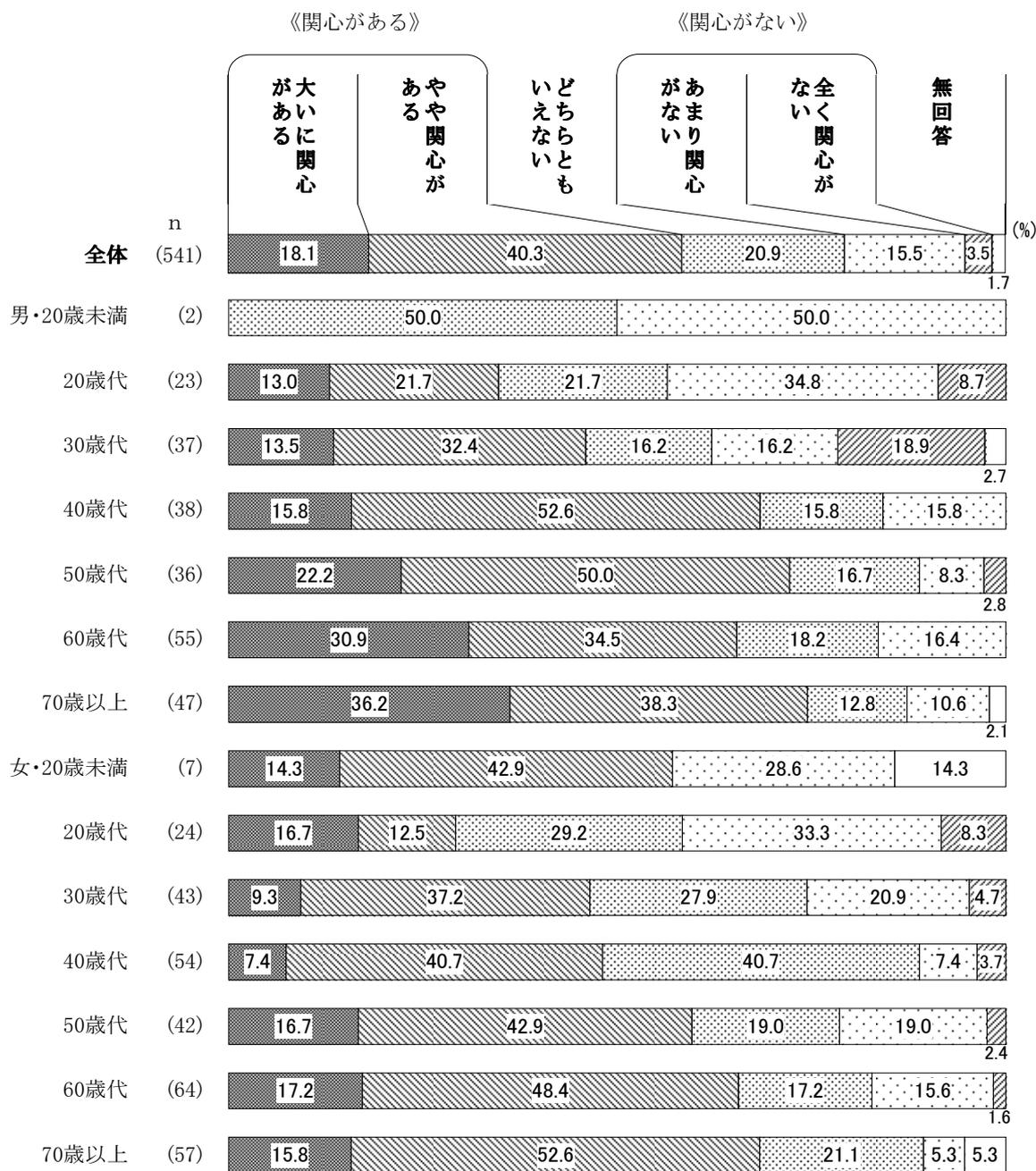
過去の調査と比較すると、《関心がある》は平成15年に69.0%と7割弱を占め、平成17年では50.9%と大きく減少がみられたが、今回では58.4%と増加している。

性別



性別にみると、《関心がある》は男性（62.2%）が女性（56.0%）を6ポイント上回っている。

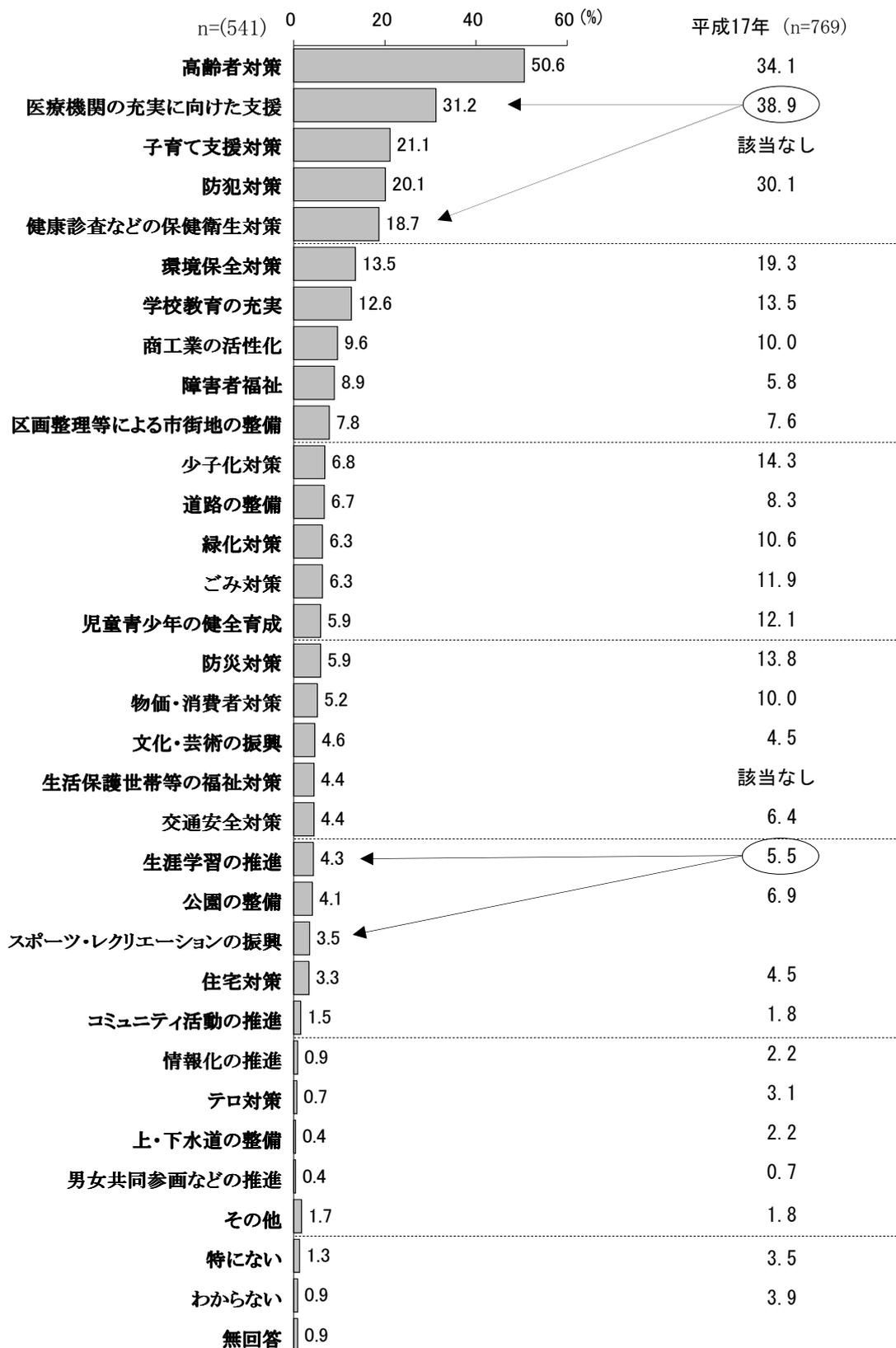
性・年代別



性・年代別にみると、《関心がある》は男性40歳代以上で6割から7割台と多く、女性50歳代以上でも5割台から6割台と多くなっている。一方、《関心がない》（「全く関心がない」＋「あまり関心がない」）は男女とも20歳代で4割台と多くなっている。

(2) 力を入れてほしい、新たに取り組んでもらいたい施策

問7 市の施策の中で今後、あなたが市に特に力を入れてほしいと思う施策、新たに取り組んでもらいたい施策はどんなことですか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



- * 「高齢者対策」は、前回調査では「高齢者福祉」
- * 「医療機関の充実に向けた支援」と「健康診査などの保健衛生対策」は、前回調査では「医療・保健衛生対策」
- * 「生涯学習の推進」と「スポーツ・レクリエーション振興」は、前回調査では「社会教育・スポーツレクリエーションの振興」
- * 「子育て支援対策」、「生活保護世帯等の福祉対策」は今回調査から

今後、市に力を入れてほしいと思う施策、新たに取り組んでもらいたい施策は、「高齢者対策」が50.6%で最も多く、以下、「医療機関の充実に向けた施策」(31.2%)、「子育て支援対策」(21.1%)、「防犯対策」(20.1%)と続いている。

前回調査と比較すると、「防犯対策」、「防災対策」、「少子化対策」で前回から8ポイント以上減少するなど多くの項目で減少となっているが、「高齢者対策」(50.6%)では前回(34.1%)から17ポイント増加している。

性別（上位5位表）

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 n=541	高齢者対策 50.6	医療機関支援 31.2	子育て支援対策 21.1	防犯対策 20.1	保健衛生対策 18.7
男 n=238	高齢者対策 51.7	医療機関支援 28.6	子育て支援対策 22.3	防犯対策 20.2	環境保全対策 16.8
女 n=291	高齢者対策 50.2	医療機関支援 33.7	保健衛生対策 21.0	子育て支援対策 20.3	防犯対策 19.9

性別にみると、男女とも「高齢者対策」、「医療機関支援」が上位2位にあげられて、「子育て支援対策」、「防犯対策」も第3位から第5位の間にあげられている点は共通している。この他、男性では「環境保全対策」が第5位、女性では「保健衛生対策」が第3位となっている。

性・年代別（上位5位表）

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 n=541	高齢者対策 50.6	医療機関支援 31.2	子育て支援対策 21.1	防犯対策 20.1	保健衛生対策 18.7
男・20歳未満 n=2	スポーツ・レクリエーションの振興／緑化対策／ 交通安全対策／道路の整備／公園の整備／住宅対策				50.0
20歳代 n=23	子育て支援対策 43.5	高齢者対策／環境保全対策／ 道路の整備		26.1	医療機関支援 21.7
30歳代 n=37	子育て支援対策 37.8	防犯対策 29.7	高齢者対策 27.0	医療機関支援／ 環境保全対策 18.9	
40歳代 n=38	高齢者対策／子育て支援対策 34.2		医療機関支援 31.6	防犯対策 26.3	少子化対策／ 学校教育の充実 ／環境保全対策 15.8
50歳代 n=36	高齢者対策 72.2	医療機関支援 33.3	環境保全対策 22.2	保健衛生対策／ 防犯対策 19.4	
60歳代 n=55	高齢者対策 67.3	医療機関支援 38.2	保健衛生対策 25.5	子育て支援対策／ 商工業の活性化 18.2	
70歳以上 n=47	高齢者対策 66.0	医療機関支援／ 防犯対策 23.4		保健衛生対策 17.0	環境保全対策 14.9
女・20歳未満 n=7	少子化対策／子育て支援対策／ 児童青少年の健全育成 28.6			障害者福祉／保健衛生対策／学校教育の充 実／環境保全対策／緑化対策／ごみ対策／ 防災対策／防犯対策／テロ対策／住宅対策 14.3	
20歳代 n=24	高齢者対策／ 子育て支援対策 37.5		医療機関支援 20.8	保健衛生対策／学校教育の充実／ 環境保全対策／緑化対策 16.7	
30歳代 n=43	子育て支援対策 60.5	学校教育の充実 37.2	医療機関支援 30.2	防犯対策 20.9	高齢者対策／道 路の整備／商工 業の活性化 14.0
40歳代 n=54	医療機関支援 37.0	防犯対策 33.3	高齢者対策 31.5	保健衛生対策 24.1	学校教育の充実 18.5
50歳代 n=42	高齢者対策 57.1	医療機関支援 38.1	保健衛生対策 26.2	子育て支援対策／緑化対策／ 防犯対策 14.3	
60歳代 n=64	高齢者対策 75.0	医療機関支援 37.5	保健衛生対策 28.1	環境保全対策 17.2	障害者福祉 10.9
70歳以上 n=57	高齢者対策 73.7	医療機関支援 35.1	防犯対策 29.8	保健衛生対策 15.8	ごみ対策 12.3

性・年代別にみると、男性は40歳代、女性は30歳代までは「子育て支援対策」、それ以降は「高齢者対策」が第1位となっている。また、「医療機関支援」は全ての年代で5位以内に入っており、世代を超えた要望となっている。

地区・ブロック（上位5位表）

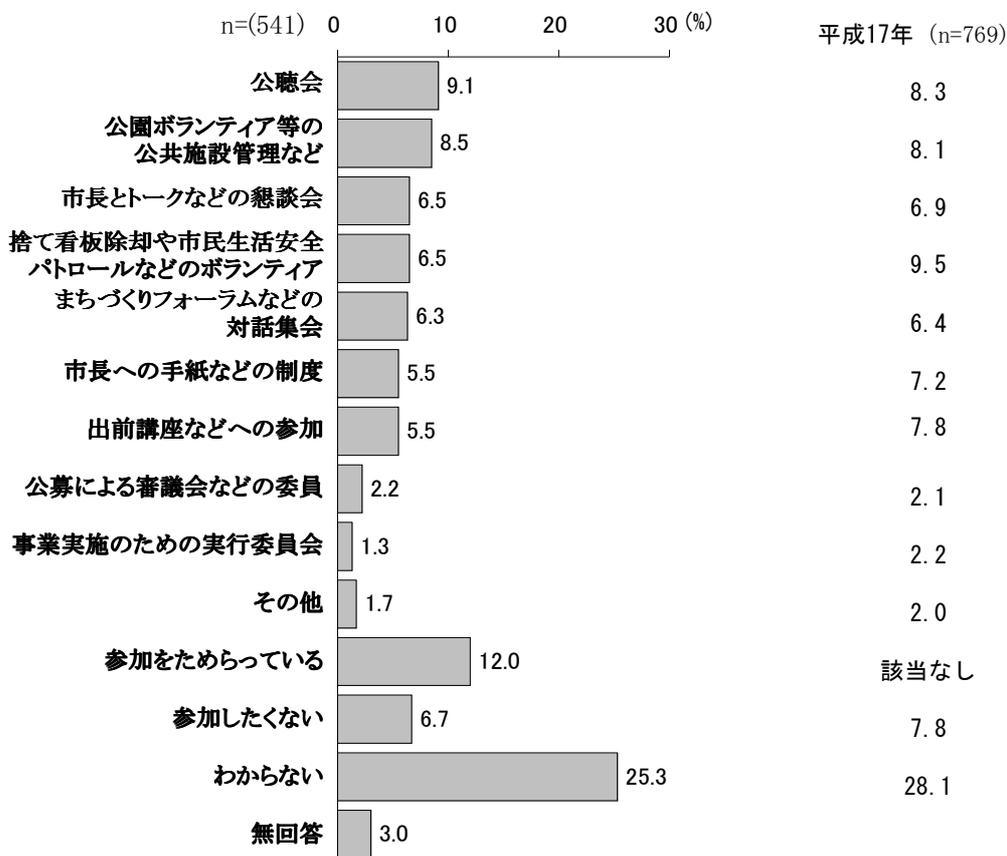
(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 n=541	高齢者対策 50.6	医療機関支援 31.2	子育て支援対策 21.1	防犯対策 20.1	保健衛生対策 18.7
神明台 n=65	高齢者対策 61.5	医療機関支援 33.8	防犯対策 24.6	子育て支援対策 18.5	保健衛生対策 16.9
双葉町 n=34	高齢者対策／医療機関支援 41.2		保健衛生対策／防災対策 20.6		防犯対策 14.7
五ノ神 n=36	高齢者対策／医療機関支援 41.7		子育て支援対策／保健衛生対策 22.2		学校教育の充実 19.4
富士見平・羽 4000番台 n=47	高齢者対策 53.2	子育て支援対策／医療機関支援 27.7		保健衛生対策 25.5	防犯対策 23.4
緑ヶ丘 n=60	高齢者対策 60.0	医療機関支援 40.0	子育て支援対策 23.3	防犯対策 21.7	保健衛生対策／環境保全対策 18.3
栄町 n=48	高齢者対策 60.4	医療機関支援 37.5	防犯対策 33.3	子育て支援対策／保健衛生対策 14.6	
小作台 n=49	高齢者対策 51.0	防犯対策 30.6	保健衛生対策 22.4	子育て支援対策／医療機関支援 20.4	
羽西 n=22	高齢者対策 45.5	子育て支援対策／防犯対策 22.7		医療機関支援／環境保全対策 18.2	
羽加美 n=42	高齢者対策 47.6	医療機関支援 31.0	子育て支援対策／保健衛生対策 23.8		学校教育の充実 21.4
羽中 n=44	高齢者対策 43.2	医療機関支援 34.1	子育て支援対策 31.8	学校教育の充実 15.9	保健衛生対策／防犯対策 13.6
羽東 n=40	高齢者対策 35.0	医療機関支援 22.5	子育て支援対策／区画整理等による市街地の整備 20.0		保健衛生対策／環境保全対策 17.5
川崎 n=25	高齢者対策 48.0	医療機関支援 28.0	区画整理等による市街地の整備 24.0	環境保全対策 20.0	防犯対策 16.0
玉川・羽600～ 700番台 n=23	高齢者対策 43.5	子育て支援対策 26.1	保健衛生対策／医療機関支援／環境保全対策／商工業の活性化 21.7		

地区・ブロック別にみても、全体と同様の傾向となっている。特に「高齢者対策」は全ての地区で、「医療機関支援」もほとんどの地区で第2位となっており、地区・ブロックにかかわらず高い要望となっている。この他では、小作台、羽西で「防犯対策」が、富士見平・羽4000番台、羽西、玉川・羽600～700番台では「子育て支援対策」が第2位と上位にあげられている。また、羽東、川崎では「区画整理等による市街地の整備」の要望が比較的上位となっている。

(3) 市政への参加・協働意向

問8 市では、「市政への市民参画・市民との協働」を進めています。あなたは、どのような形で市政に参加・協働したいと思いますか。次の中から選んでください。(○は1つ)



* 「参加をためらっている」は今回調査から

市政への参加・協働意向は、「公聴会」が9.1%、「公園ボランティア等の公共施設管理など」が8.5%となっており、参加意向全体としては53.0%となっている。一方、「参加をためらっている」が12.0%、また、「わからない」も25.3%と多くなっている。

前回調査との比較では、特に大きな差はみられない。

性別、性・年代別

(%)

	調査数	公聴会	公園ボランティア等の施設管理など	懇談会	市長とトークなどの	生活安全パトロールなどのボラティアル	捨て看板除却や市民マナづくりフォーラムなどの対話集会	まちづくりフォーラムなどの対話集会	市長への手紙などの制度	出前講座などへの参加	公募による審議会などの委員	事業実施のための実行委員会	その他	参加をためらっている	参加したくない	わからない	無回答
全体	541	9.1	8.5	6.5	6.5	6.3	5.5	5.5	2.2	1.3	1.7	12.0	6.7	25.3	3.0		
【性別】																	
男	238	13.9	7.6	6.7	6.7	8.8	5.5	2.5	3.4	2.5	0.8	11.3	5.5	22.7	2.1		
女	291	5.2	9.6	6.2	6.5	4.1	5.8	7.9	1.0	0.3	2.4	12.4	7.6	27.8	3.1		
【性・年代別】																	
男・20歳未満	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	
20歳代	23	13.0	4.3	8.7	13.0	-	4.3	-	-	8.7	-	8.7	8.7	30.4	-		
30歳代	37	13.5	5.4	2.7	2.7	8.1	13.5	5.4	-	-	-	2.7	8.1	37.8	-		
40歳代	38	18.4	5.3	7.9	-	13.2	5.3	-	2.6	5.3	5.3	13.2	7.9	15.8	-		
50歳代	36	13.9	5.6	5.6	16.7	13.9	2.8	2.8	2.8	2.8	-	11.1	5.6	16.7	-		
60歳代	55	18.2	9.1	5.5	3.6	5.5	3.6	5.5	5.5	-	-	12.7	3.6	23.6	3.6		
70歳以上	47	6.4	12.8	10.6	8.5	10.6	4.3	-	6.4	2.1	-	14.9	2.1	14.9	6.4		
女・20歳未満	7	-	28.6	-	-	-	-	-	-	-	-	14.3	14.3	-	14.3	28.6	
20歳代	24	-	20.8	8.3	4.2	4.2	4.2	-	-	-	-	-	8.3	50.0	-		
30歳代	43	2.3	7.0	2.3	2.3	-	4.7	4.7	-	-	-	16.3	14.0	46.5	-		
40歳代	54	9.3	7.4	5.6	9.3	1.9	11.1	14.8	1.9	-	-	5.6	3.7	27.8	1.9		
50歳代	42	7.1	14.3	7.1	9.5	2.4	2.4	9.5	-	2.4	2.4	9.5	4.8	28.6	-		
60歳代	64	6.3	6.3	6.3	4.7	7.8	6.3	12.5	3.1	-	1.6	10.9	14.1	17.2	3.1		
70歳以上	57	3.5	7.0	8.8	8.8	7.0	5.3	1.8	-	-	7.0	24.6	1.8	17.5	7.0		

性別にみると、「公聴会」は男性（13.9%）が女性（5.2%）を9ポイント上回り、女性では「出前講座などへの参加」が男性よりやや多い。

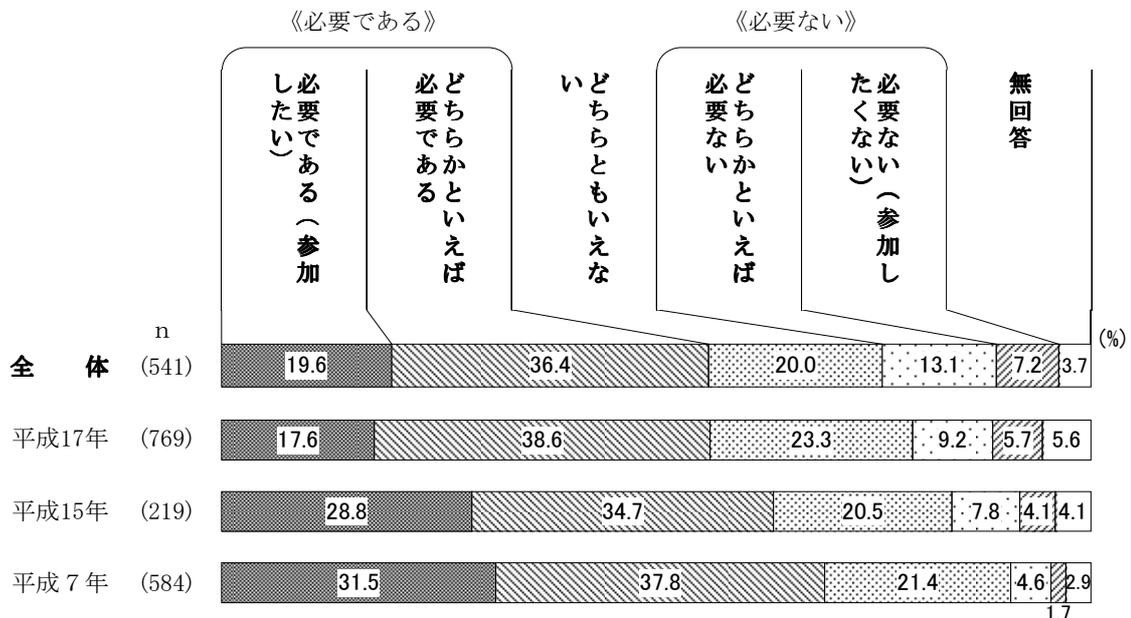
性・年代別にみると、「市長への手紙などの制度」は男性の30歳代、女性の40歳代でやや多くなっている。男性は40歳代以降は「まちづくりフォーラムなどの対話集会」や「公聴会」といった参加型の割合が比較的多く、女性では「出前講座などへの参加」が比較的多い。

なお、「参加をためらっている」は男性では40歳代以降、女性では30歳代と60歳代以降で1割を超えている。

5. 地域社会

(1) 町内会・自治会の必要性、活動への参加についての考え

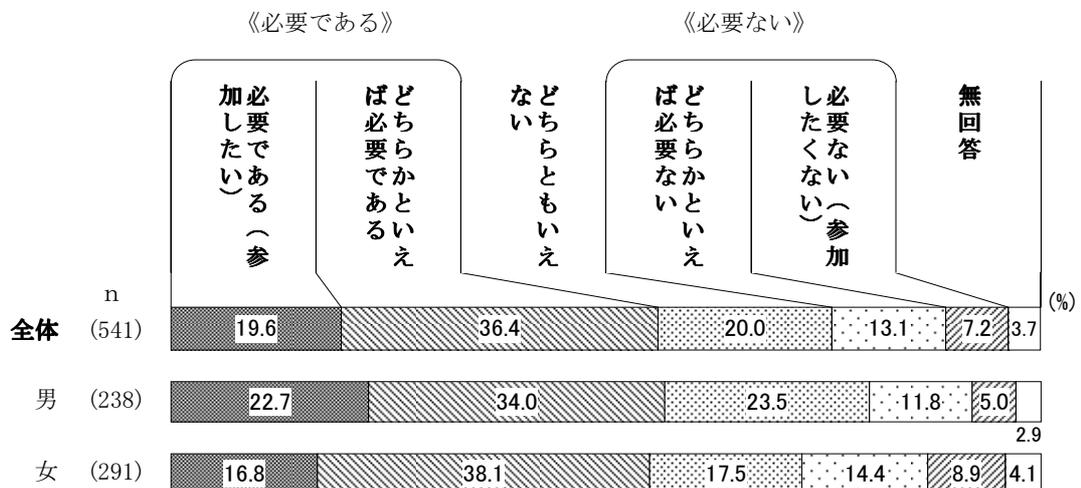
問9 現在ある町内会・自治会の必要性、活動への参加についてあなたはどのように考えますか。あなたの考えを次の中から選んでください。(〇は1つ)



現在ある町内会・自治会の必要性、活動への参加については、「必要である(参加したい)」が19.6%、「どちらかといえば必要である」が36.4%で、これをあわせた《必要である》は56.0%となっている。また、《必要ない》(「必要ない(参加したくない)」+「どちらかといえば必要ない」)は20.3%となっている。

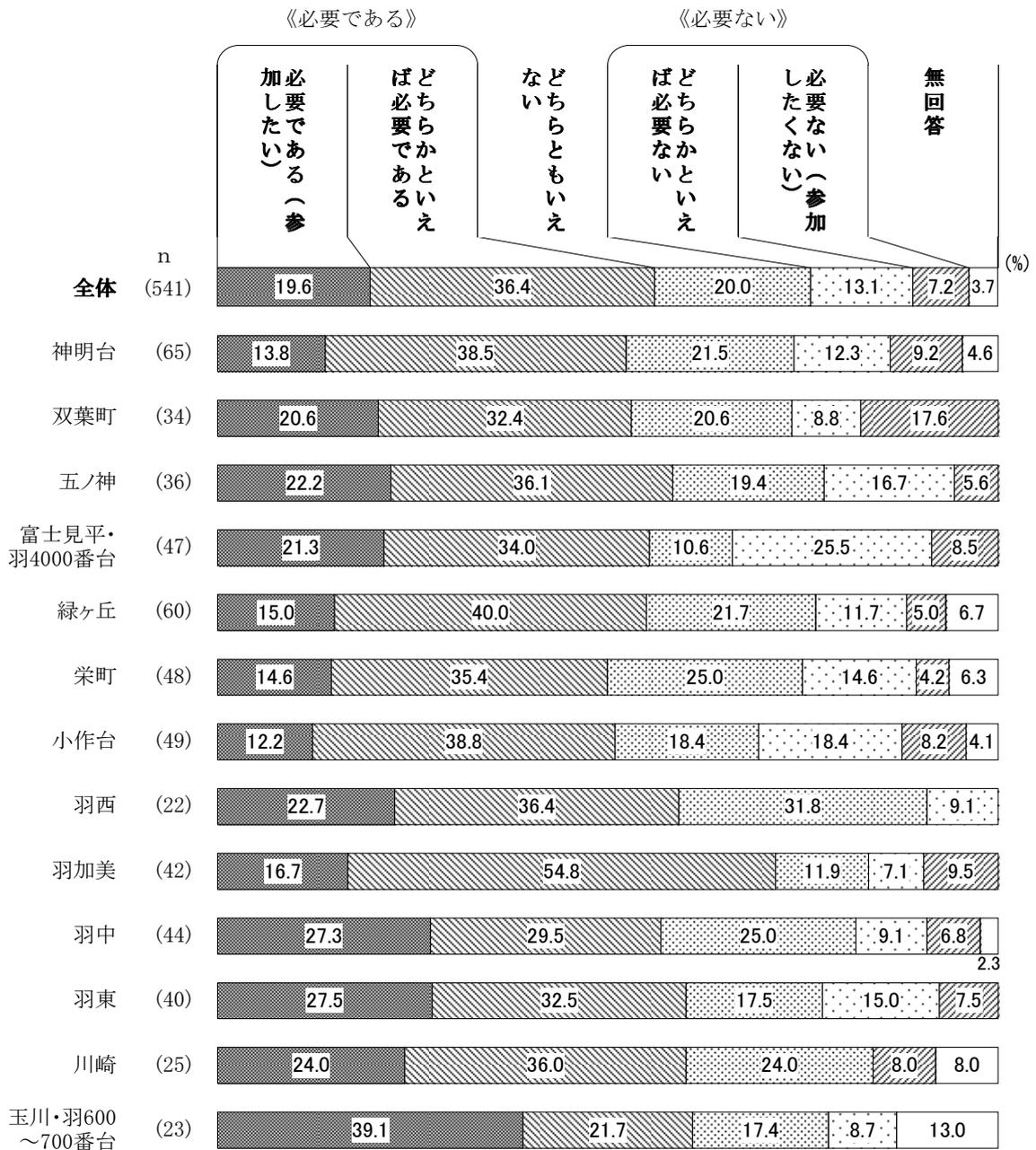
過去の調査と比較すると、《必要である》は減少傾向にあったが、今回の調査では前回とほぼ同じ割合で推移している。

性別



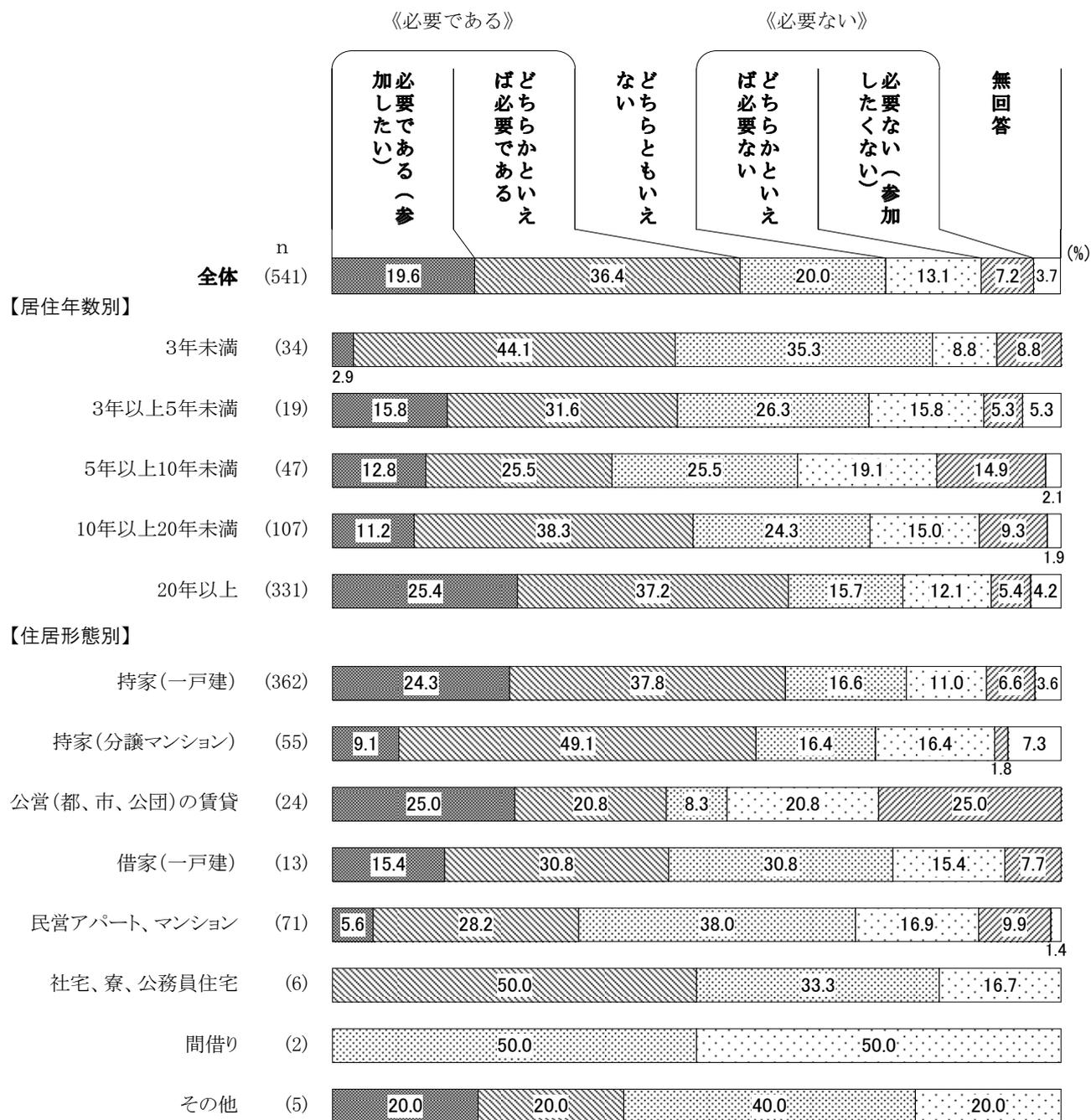
性別にみると、《必要ない》は女性(23.3%)が男性(16.8%)を上回っている。

地区・ブロック別



地区・ブロック別にみると、《必要である》は羽加美で7割強と多く、玉川・羽600～700番台、羽東、川崎で6割台、それ以外の地区・ブロックでも半数を超えている。一方、《必要ない》は富士見平・羽4000番台で34.0%と比較的多くなっている。

居住年数別、住居形態別



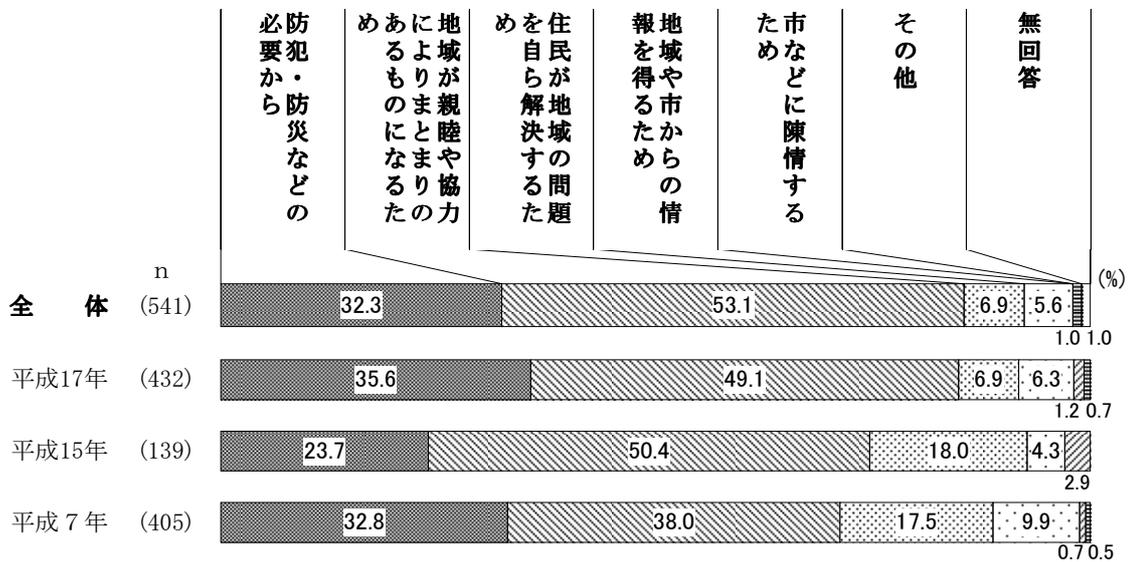
居住年数別にみると、《必要である》は20年以上で6割強と多いが、それ以外の年数では半数以下となっている。5年以上10年未満では38.3%にとどまり、《必要ない》が34.0%と比較的多くなっている。

住居形態別にみると、《必要である》は持家層では6割前後と多いが、公営(都、市、公団)の賃貸、借家(一戸建)、民営アパート、マンションでは3割台から4割台にとどまっている。また、公営では《必要ない》が4割台となるなど、必要性の認識が大きく異なっている。

(2) 町内会や自治会があった方がよい理由

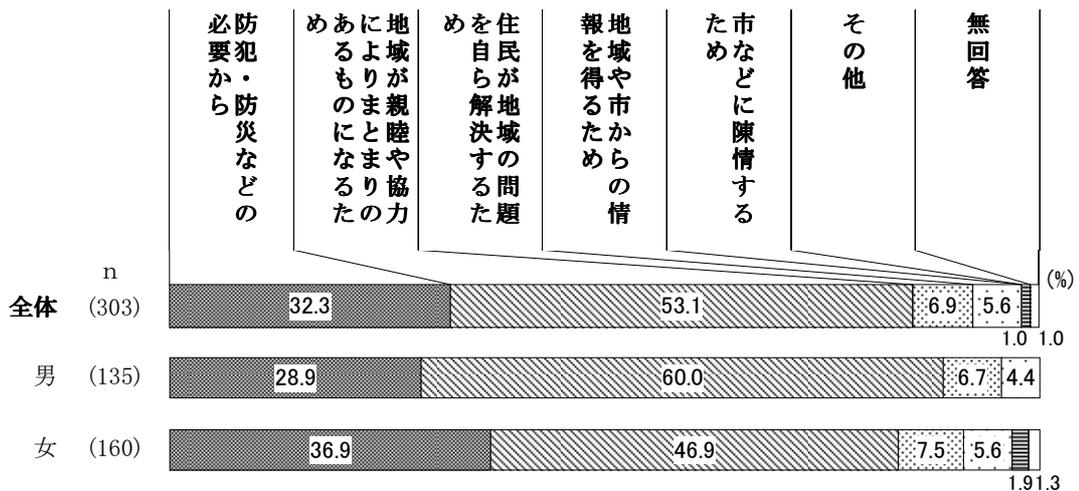
【問9の「必要である」、「どちらかといえば必要である」の該当者】

問10 町内会や自治会があった方がよい理由を、次の中から選んでください。(○は1つ)



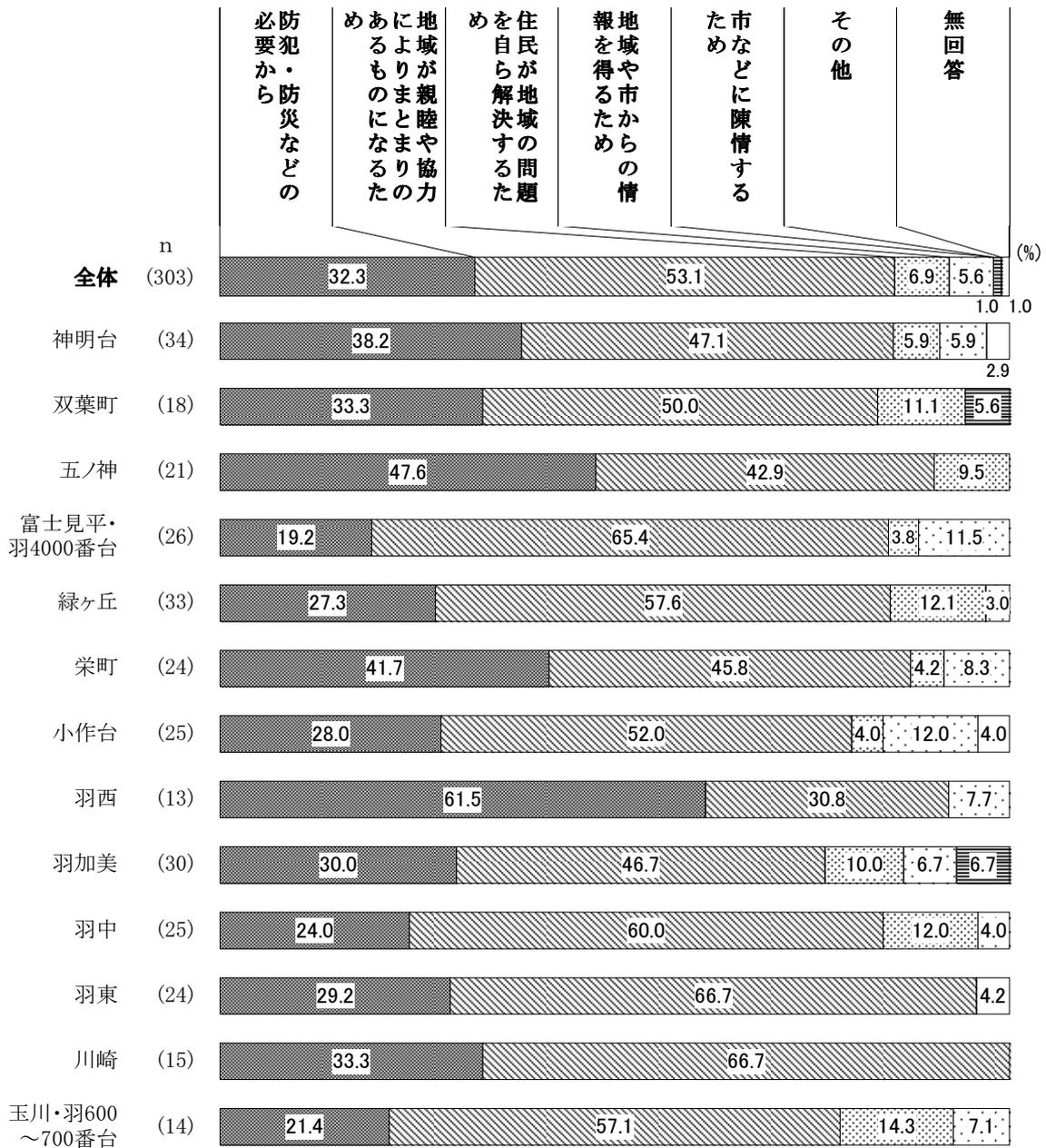
問9で《必要である》と回答したの人の理由は、「地域が親睦や協力によりまとまるものになるため」が53.1%で最も多く、「防犯・防災などの必要から」が32.3%とこれに次いでいる。過去の調査と比較すると、今回調査は前回とほぼ同様の結果となっている。

性別



性別にみると、「地域が親睦や協力によりまとまるものになるため」は男性（60.0%）が女性（46.9%）を13ポイント、「防犯・防災などの必要から」は女性（36.9%）が男性（28.9%）を8ポイント上回っている。

地区・ブロック別

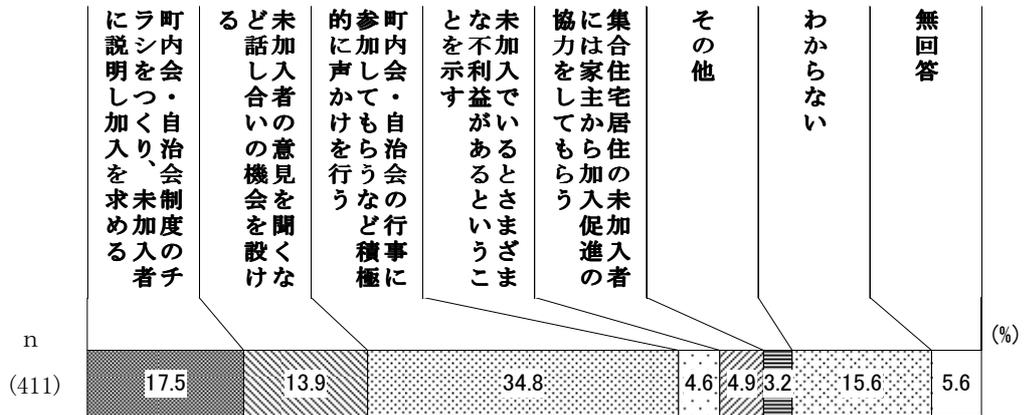


地区・ブロック別にみると、「地域が親睦や協力によりまとまりのあるものになるため」は羽西、五ノ神を除く11の地区で最も多い理由となっている。羽西は「防犯・防災などの必要から」が61.5%と特に多い。

(3) 町内会や自治会の加入を促進するための方法

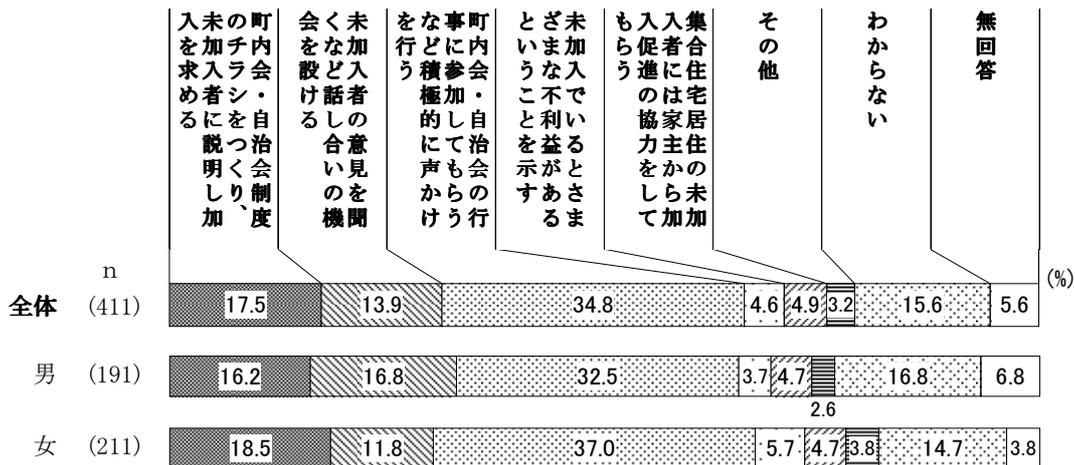
【問9の「必要である」、「どちらかといえば必要である」、「どちらともいえない」の該当者】

問11 町内会や自治会の加入を促進するためにはどのような方法が必要であると思いますか。
あなたの考えに最も近いものを、選んでください。(○は1つ)



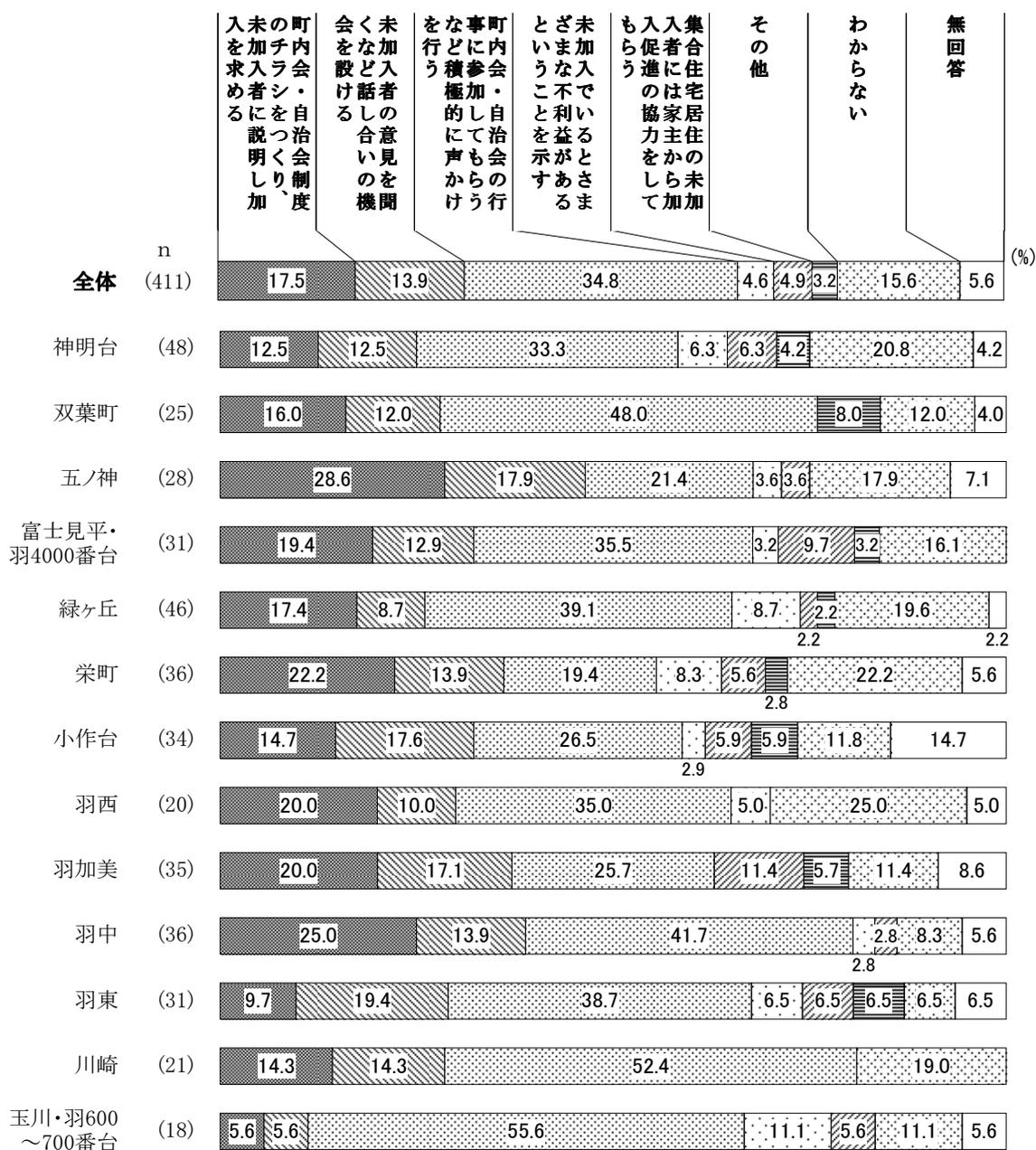
町内会や自治会の加入を促進するための方法としては、「町内会・自治会の行事に参加してもらうなど積極的に声かけを行う」が34.8%と多く、「町内会・自治会制度のチラシをつくり、未加入者に説明し加入を求める」(17.5%)と「未加入者の意見を聞くなど話し合いの機会を設ける」(13.9%)が1割台となっている。

性別



性別にみても大きな違いはみられないが、「未加入者の意見を聞くなど話し合いの機会を設ける」は男性が女性を、「町内会・自治会の行事に参加してもらうなど積極的に声かけを行う」は女性が男性をやや上回っている。

地区・ブロック別

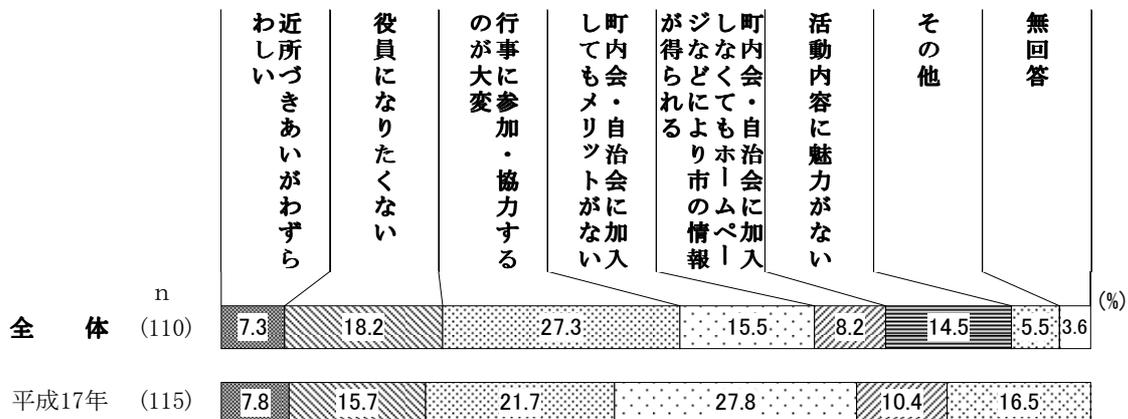


地区・ブロック別にみても、「町内会・自治会の行事に参加してもらうなど積極的に声をかける」が基本となっていることがわかる。また、「集合住宅居住の未加入者には家主から加入促進の協力をしてもらう」は羽加美、富士見平・羽4000番台で1割前後と他の地区・ブロックよりやや多くなっている。

(4) 町内会や自治会が必要でない理由

【問9の「どちらかといえば必要ない」、「必要ない」の該当者】

問12 町内会や自治会を必要でないと考える理由を次の中から選んでください。(○は1つ)

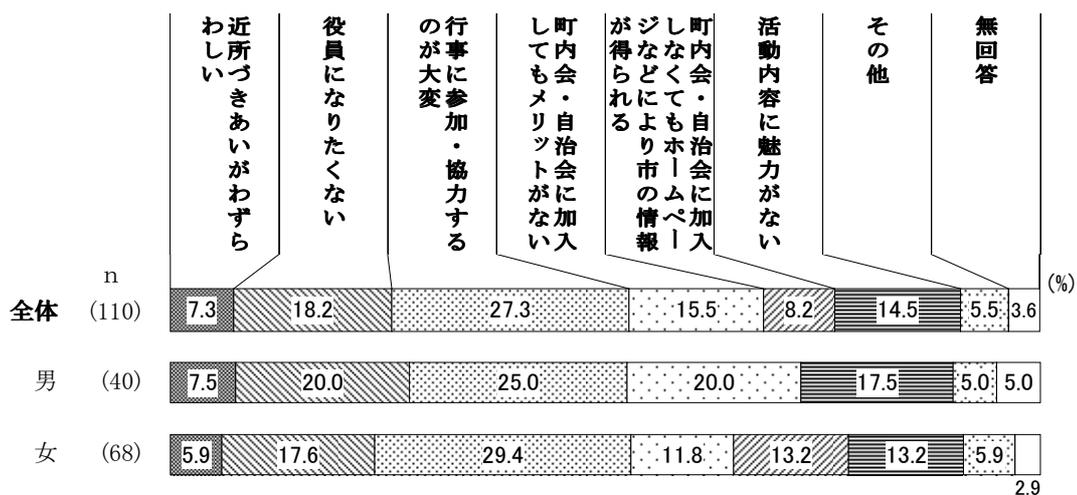


* 「活動内容に魅力がない」は今回調査から

町内会や自治会を必要でないと考える理由は、「行事に参加・協力するのが大変」が27.3%で最も多く、「役員になりたくない」(18.2%)、「町内会・自治会に加入してもメリットがない」(15.5%)、「活動内容に魅力がない」(14.5%)が1割台となっている。

前回調査と比較すると、「町内会・自治会に加入してもメリットがない」(15.5%)は前回(27.8%)から12ポイント減少、「行事に参加・協力するのが大変」(27.3%)は前回(21.7%)から6ポイント増加となっている。

性別

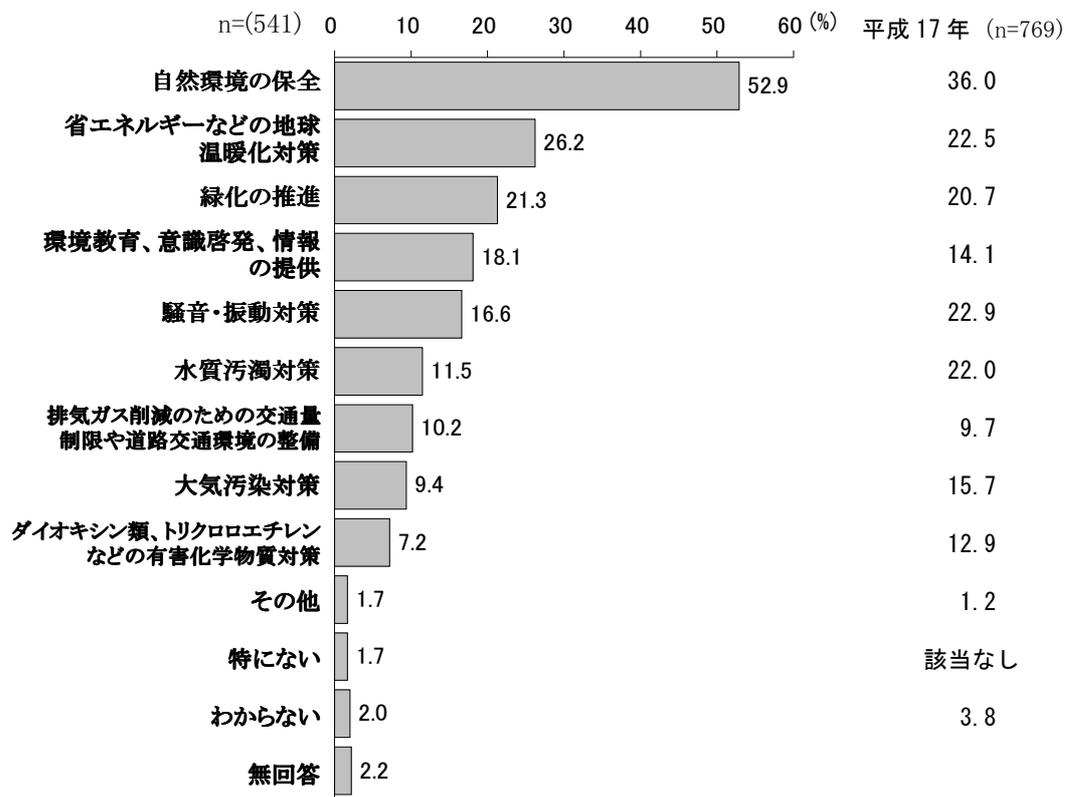


性別にみると、「町内会・自治会に加入してもメリットがない」は男性(20.0%)が女性(11.8%)を8ポイント上回っている。また、「活動内容に魅力がない」は女性より男性で、「行事に参加・協力するのが大変」は男性より女性で多くなっている。

6. 環境

(1) 環境への取り組みとして重点をおくべきもの

問13 市は、環境への取り組みとして何に重点をおくべきと思いますか。次の中から2つまで選んでください。(〇は2つまで)

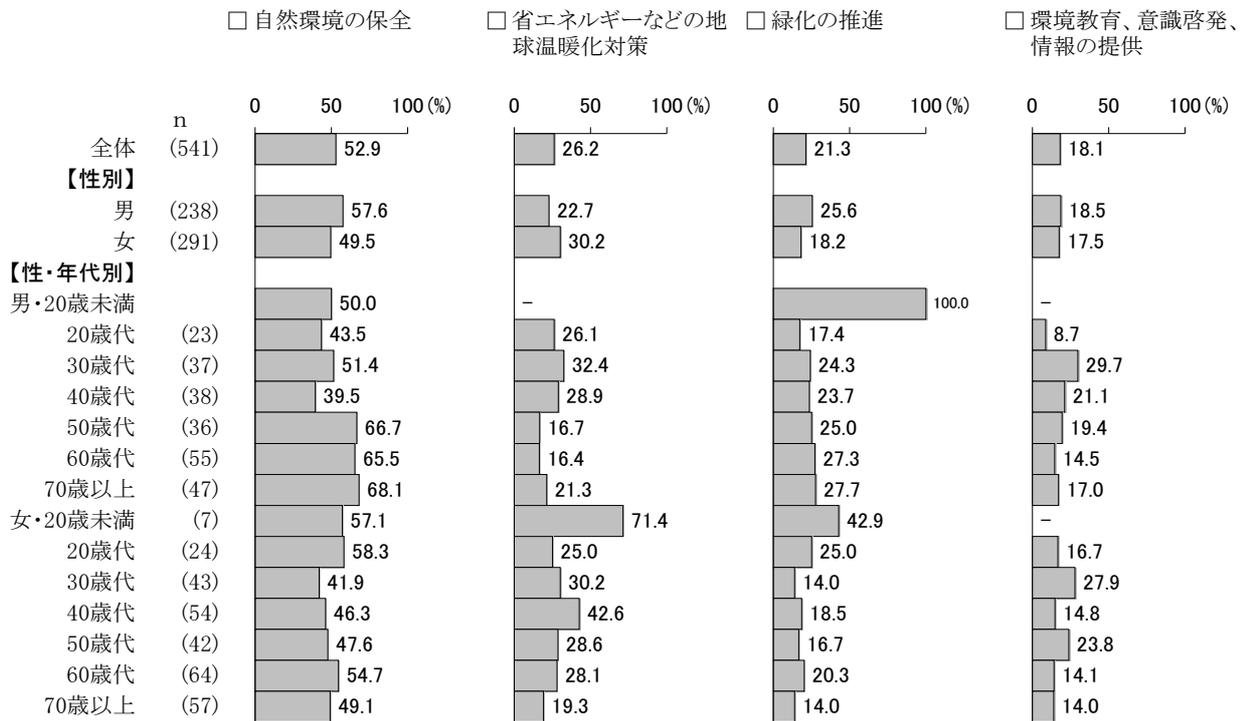


* 「特になし」は今回調査から

環境への取り組みとして重点をおくべきものとしては、「自然環境の保全」が52.9%で特に多く、以下、「省エネルギーなどの地球温暖化対策」(26.2%)と「緑化の推進」(21.3%)が2割台、「環境教育、意識啓発、情報の提供」(18.1%)、「騒音・振動対策」(16.6%)などが1割台で続いている。

前回調査と比較すると、「自然環境の保全」(52.9%)は前回(36.0%)から17ポイント増加、「環境教育、意識啓発、情報の提供」、「省エネルギーなどの地球温暖化対策」などもやや増加している。一方、「水質汚濁対策」(11.5%)は前回(22.0%)から11ポイント減少、「騒音・振動対策」、「大気汚染対策」、「ダイオキシン類、トリクロロエチレンなどの有害化学物質対策」も6ポイント以上減少している。

性別、性・年代別（上位4項目）



性別にみると、「自然環境の保全」、「緑化の推進」は男性が女性を7ポイント以上上回り、「省エネルギーなどの地球温暖化対策」は女性が男性を8ポイント上回っている。

性・年代別にみると、「自然環境の保全」は各年代で多く、特に男性では50歳代以降で6割台、女性では20歳代と60歳代で5割台となっている。「省エネルギーなどの地球温暖化対策」は男性では30歳代から40歳代で、女性では30歳代から60歳代の幅広い年代で多くなっている。